

# 第1部 世帯と子供の状況

## 第1章 調査対象世帯の概況等

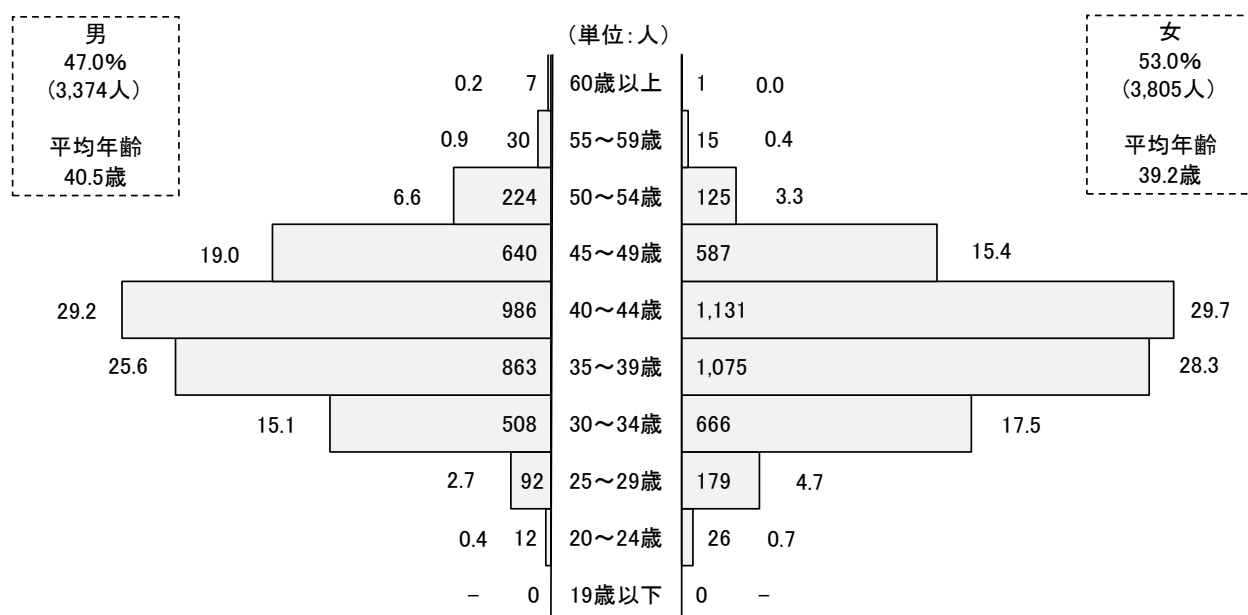
本章では、集計対象世帯である小学生までの子供を養育する3,318世帯及び20歳未満の子供を養育するひとり親543世帯を合わせた3,861世帯の概況並びにその父母（養育者）7,179人と子供6,762人の概況について述べる。

### 1 父母の状況

#### (1) 父母の状況－性・年齢階級別

父母の人数を年齢階級別にみると、男女ともに「40～44歳」が最も多く、男性は986人、女性は1,131人となっている。父母の平均年齢は男性40.5歳、女性39.2歳である。（図I-1-1）

図I-1-1 父母の状況－性・年齢階級別

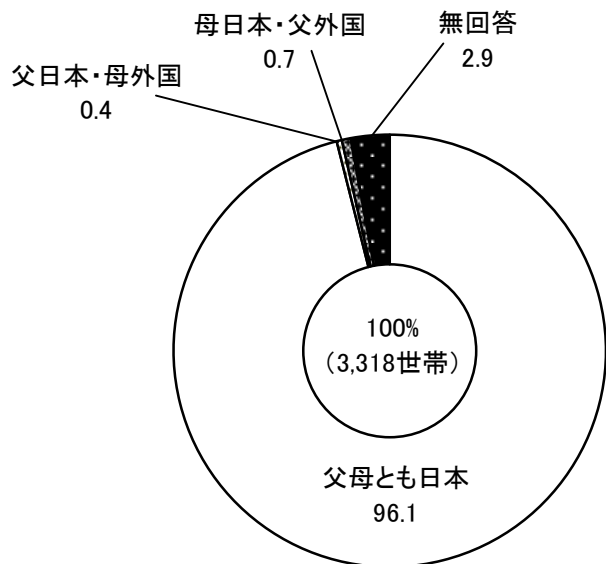


（注）男性3,374人には、年齢無回答の人を含むため、内訳の合計と一致しない。

(2) 父母の状況－父母の国籍

父母の国籍は、「父母とも日本」が96.1%、「父日本・母外国」が0.4%、「母日本・父外国」が0.7%である。(図I-1-2)

図I-1-2 父母の状況－父母の国籍



(注) 総数3,318世帯は、両親がいる世帯である。

(注) 住民基本台帳上において、両親のいずれかが日本人であると判断した場合のみ、対象者として抽出している。

## 2 世帯の状況

### (1) 地域

居住地域は、「区部」が69.9%、「市・町・村部」が30.1%である。「区部」では「区西北部」の割合が15.2%で最も高く、「市・町・村部」では「南多摩」の割合が9.0%で最も高くなっている。(表 I-1-1)

表 I-1-1 地域

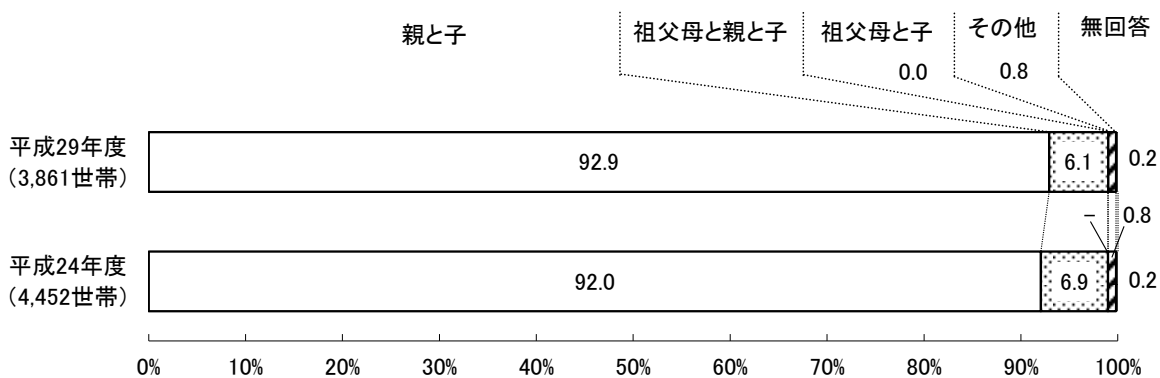
	総数	区部								市・町・村部	西多摩	南多摩	北多摩西部	北多摩南部	北多摩北部	島しょ
		区中央部	区南部	区西南部	区西部	区西北部	区東北部	区東部								
総数	100.0 (3,861)	69.9 (2,697)	5.3 (204)	8.5 (330)	9.3 (361)	11.8 (455)	15.2 (587)	9.4 (364)	10.3 (396)	30.1 (1,164)	3.7 (142)	9.0 (346)	3.9 (151)	7.5 (288)	6.1 (237)	- (0)
該当地区			千代田区、中央区、港区、文京区、台東区	品川区、大田区	目黒区、世田谷区、渋谷区	新宿区、中野区、杉並区	豊島区、北区、板橋区、練馬区	荒川区、足立区、葛飾区	墨田区、江東区、江戸川区		青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町	八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市	立川市、昭島市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市	武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、小金井市、狛江市	小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市	大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村

(2) 家族類型－24年度調査との比較

「親と子」が9割強

家族類型は、「親と子」の割合が92.9%、「祖父母と親と子」が6.1%となっている。(図 I-1-3)

図 I-1-3 家族類型－24年度調査との比較

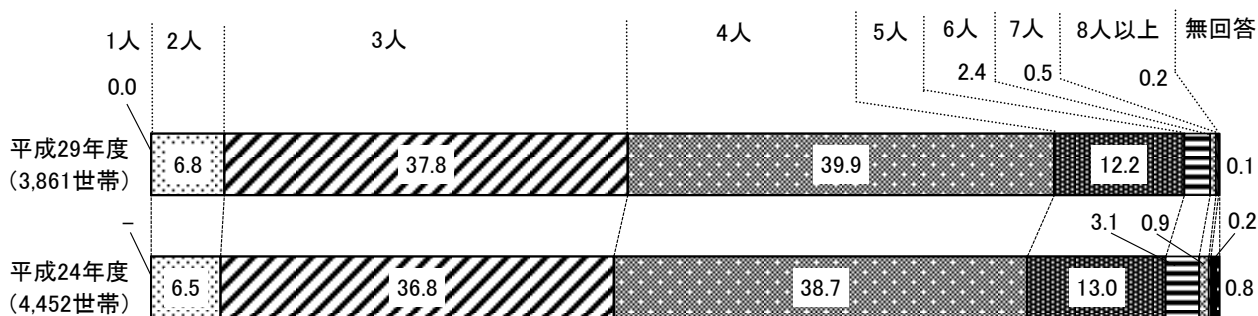


(3) 世帯人員－24年度調査との比較

「4人」の割合が最も高く、約4割

世帯人員は、「4人」の割合が39.9%で最も高く、次いで「3人」が37.8%となっている。(図 I-1-4)

図 I-1-4 世帯人員－24年度調査との比較

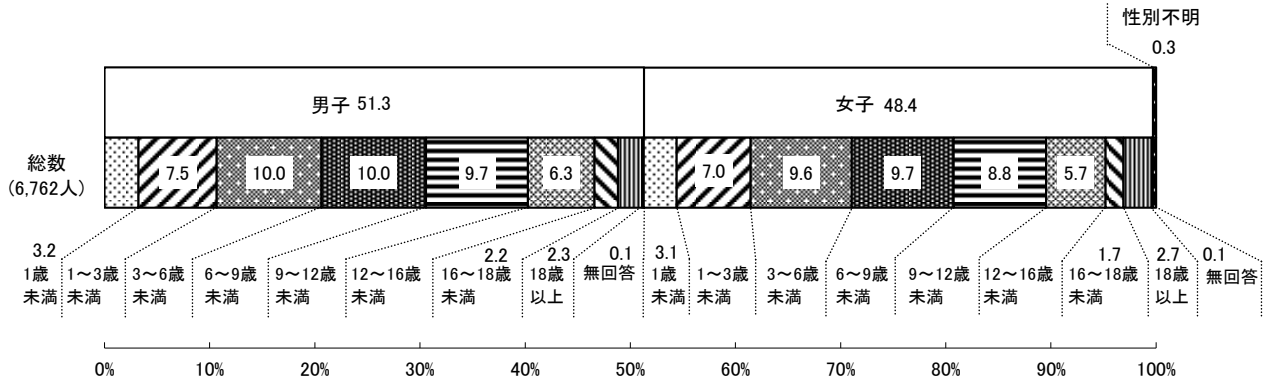


### 3 子供の状況

#### (1) 子供の状況－子供の性・年齢階級別

調査世帯の子供の総数は 6,762 人で、男子 51.3%、女子 48.4%である。(図 I-1-5)

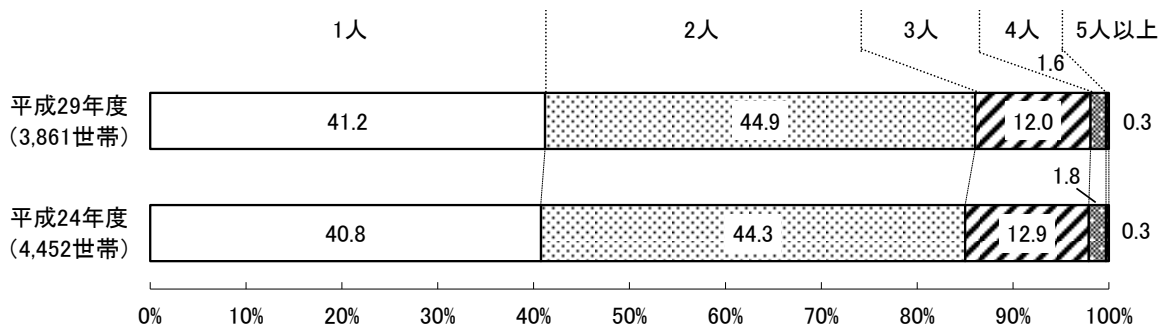
図 I-1-5 子供の状況－子供の性・年齢階級別



#### (2) 子供の人数－24年度調査との比較

世帯の子供の人数は、「2人」の割合が 44.9%で最も高く、次いで「1人」が 41.2%となっている。(図 I-1-6)

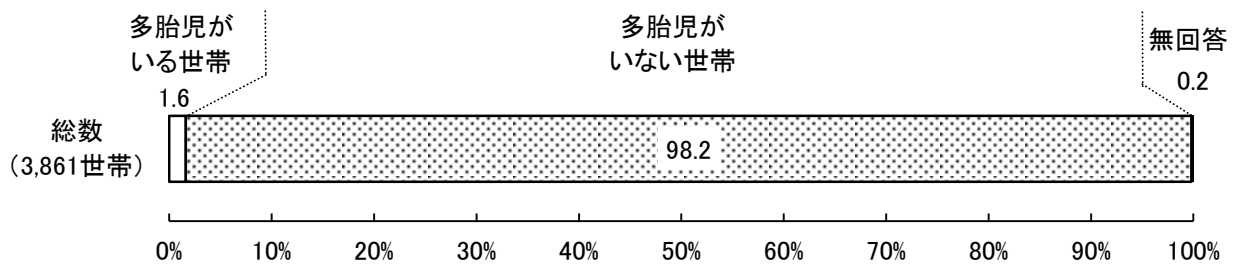
図 I-1-6 子供の人数－24年度調査との比較



### (3) 多胎児の状況

多胎児がいる世帯は、1.6%となっている。(図 I-1-7)

図 I-1-7 多胎児の状況

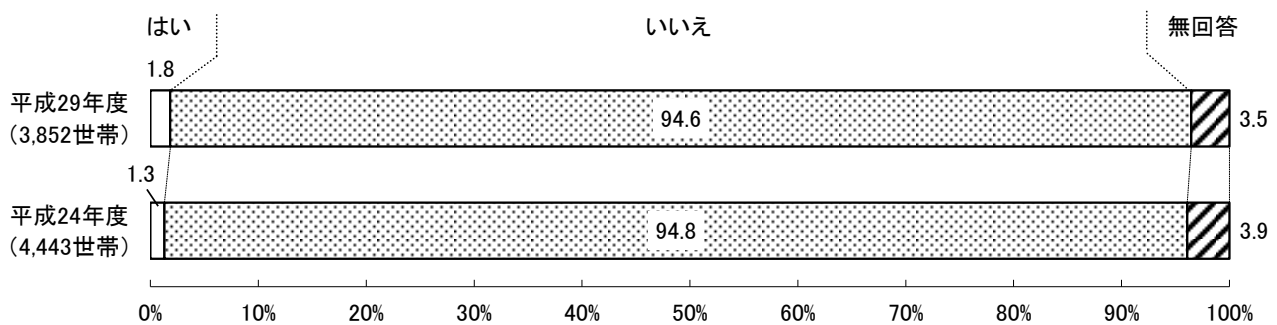


### 4 ステップファミリーの状況—24年度調査との比較

ステップファミリー(※)の状況は、「はい」の割合は1.8%で、24年度調査(1.3%)から0.5ポイント増加している。(図 I-1-8)

(注) ※再婚等により血縁のない親子・兄弟などのいる家庭をいう。

図 I-1-8 ステップファミリーの状況—24年度調査との比較



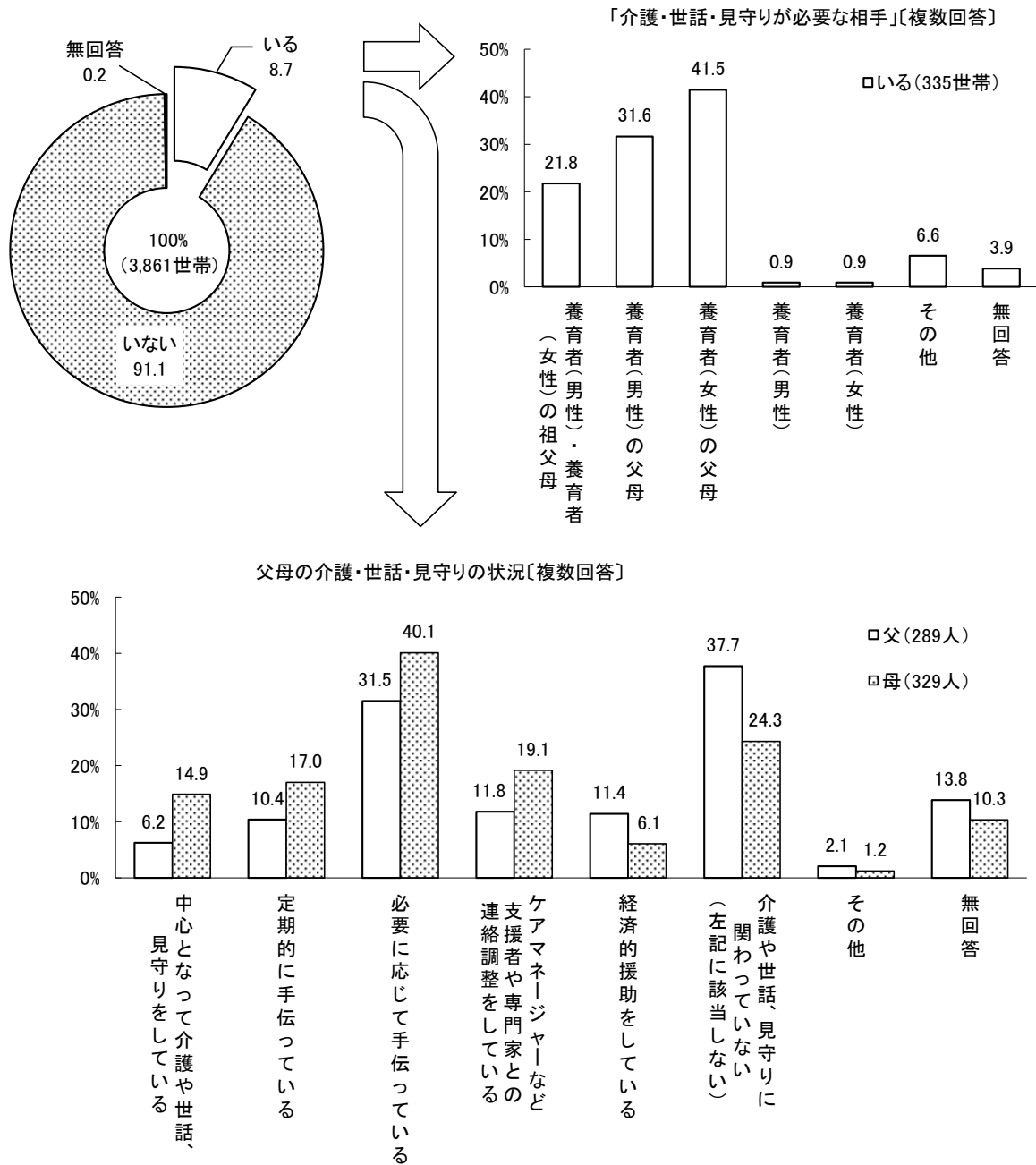
(注) 家族類型で、「親子」「祖父母と親子」「その他」のいずれかと回答した、3,852世帯に回答を求めた。

## 5 介護・世話・見守りの有無及びその状況〔複数回答〕

子供以外の親族で、疾病・障害・認知症などの理由により、介護・世話・見守りが必要な人が「いる」と回答した世帯の割合は8.7%となっている。さらに、「いる」と回答した世帯の父母それぞれに対して、どの程度介護・世話・見守りに関わっているか聞いたところ、「経済的援助をしている」の割合は、父が11.4%、母は6.1%で、父の方が5.3ポイント高くなっている。

一方、「中心となって介護や世話、見守りをしている」の割合は、母が14.9%、父は6.2%で、母の方が8.7ポイント高くなっている。(図I-1-9)

図I-1-9 介護・世話・見守りの有無及びその状況〔複数回答〕



## 6 住居の状況

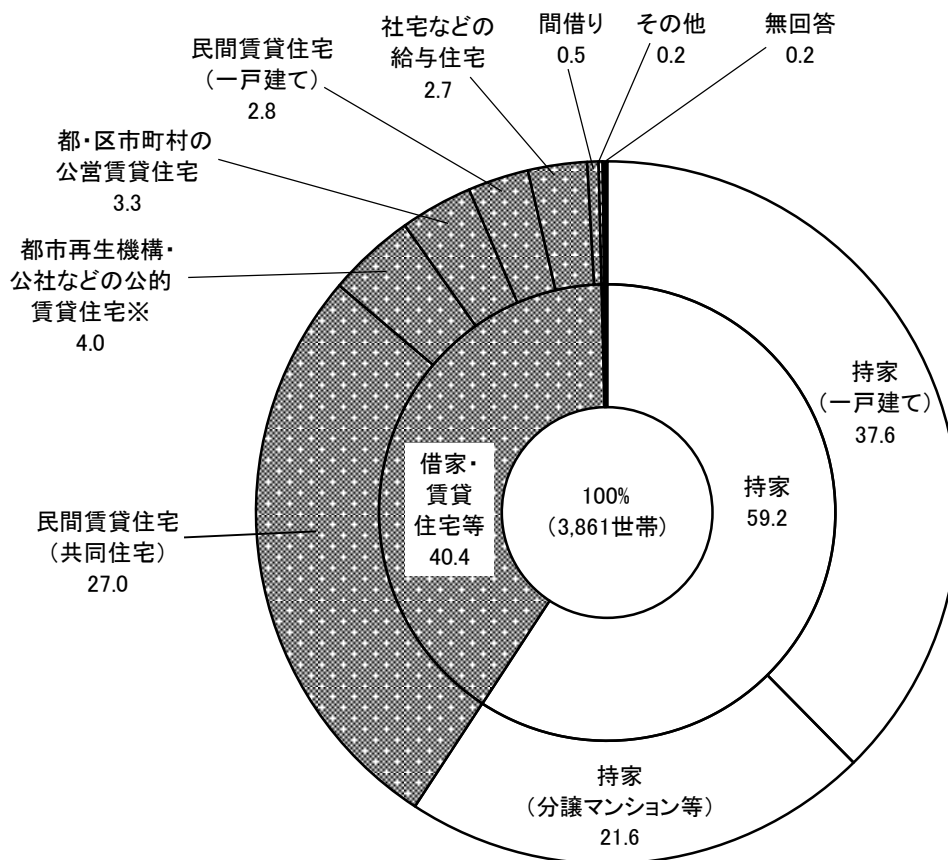
### (1) 住居の種類

「持家」の割合は約6割で、「借家・賃貸住宅等」の割合よりも高い

住居の種類を、「持家」か「借家・賃貸住宅等」で分けると、「持家」の割合が59.2%で、「借家・賃貸住宅等」は40.4%となっている。

住居の種類は、「持家（一戸建て）」の割合が37.6%で最も高く、次いで「民間賃貸住宅（共同住宅）」が27.0%となっている。（図 I-1-10）

図 I-1-10 住居の種類



(注) 24年度調査では、※は「都市再生機構・公社などの公営賃貸住宅」としていた。



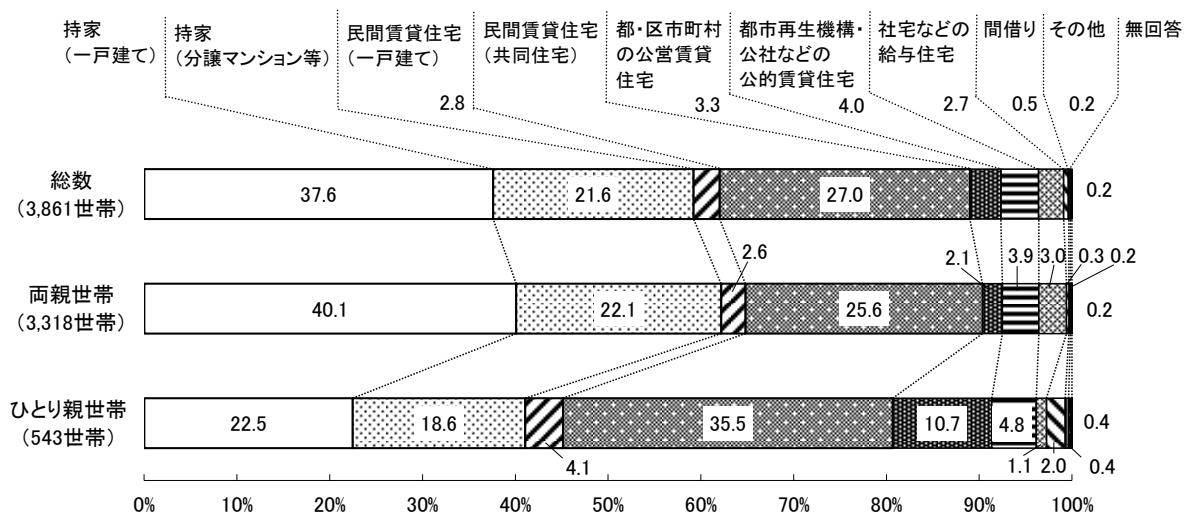
(2) 住居の種類－両親の有無別

両親世帯では「持家（一戸建て）」、ひとり親世帯では「民間賃貸住宅（共同住宅）」の割合が最も高い

住居の種類を両親の有無別にみると、両親世帯では「持家（一戸建て）」の割合が40.1%で最も高く、次いで「民間賃貸住宅（共同住宅）」の割合が25.6%となっている。

一方、ひとり親世帯では「民間賃貸住宅（共同住宅）」の割合が35.5%で最も高く、次いで「持家（一戸建て）」の割合が22.5%となっている。（図 I-1-11）

図 I-1-11 住居の種類－両親の有無別



(3) 子供部屋の有無－世帯類型（子供の就学状況）別

小学生以下の子供がいない世帯では、「個室あり」の割合は6割強

子供部屋の有無は、「個室あり」の割合が28.3%、「他の兄弟姉妹と共用」は15.5%となっている。

世帯類型（子供の就学状況）別にみると、「個室あり」の割合は、小学生以下の子供がいない世帯が61.4%、小学生以下の子供がいる世帯は25.7%で、小学生以下の子供がいない世帯の方が35.7ポイント高くなっている。（表I-1-2）

表I-1-2 子供部屋の有無－世帯類型（子供の就学状況）別

	総数	個室あり	他の兄弟姉妹と共用	個室ありの子供に一部	なし	無回答
総数	100.0 (3,861)	28.3	15.5	5.6	49.2	1.4
小学生以下の子供がいる世帯	100.0 (3,568)	25.7	16.0	5.5	51.3	1.4
就学前の子供のみがいる世帯	100.0 (1,547)	17.9	5.6	0.6	74.3	1.7
就学前と小学生の子供がいる世帯	100.0 (641)	16.8	30.0	10.0	41.8	1.4
就学前と小学生と中学生以上の子供がいる世帯	100.0 (52)	13.5	38.5	30.8	15.4	1.9
小学生の子供のみがいる世帯	100.0 (778)	40.1	14.9	0.6	43.4	0.9
小学生と中学生以上の子供がいる世帯	100.0 (508)	39.4	29.3	17.5	12.6	1.2
就学前と中学生以上の子供がいる世帯	100.0 (42)	33.3	19.0	35.7	9.5	2.4
小学生以下の子供がいない世帯	100.0 (272)	61.4	8.1	5.5	23.5	1.5

## 7 父母の就労状況

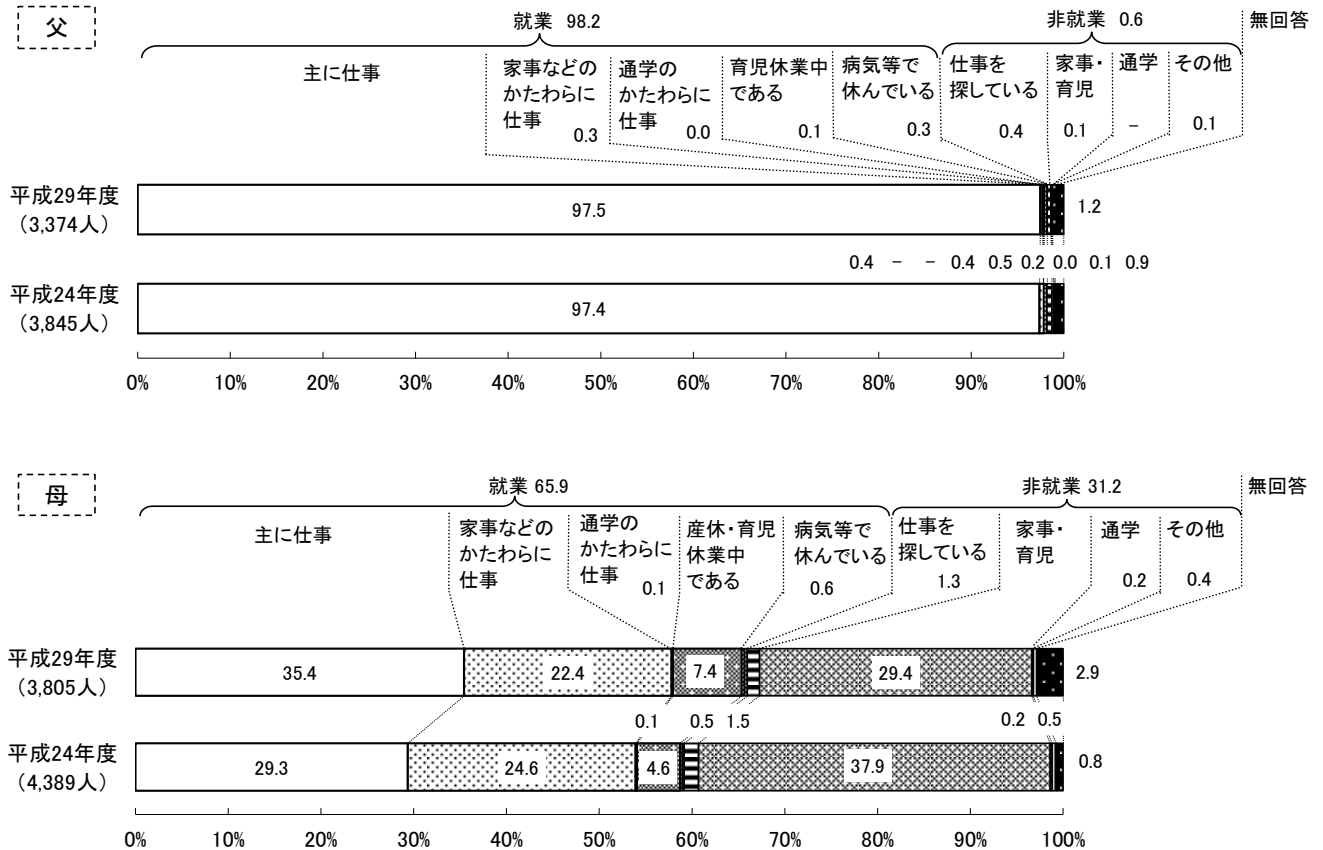
### (1) 就業状況

母の「就業」の割合は、6割超

「就業」の割合は、父が98.2%、母は65.9%となっている。(図I-1-12)

(注)「就業」している人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」「育児休業中である」「病気等で休んでいる」と回答した人である。

図I-1-12 就業状況



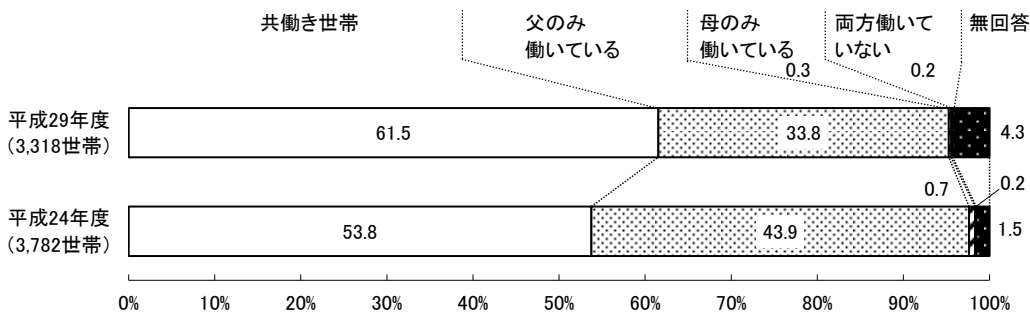
(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

(2) 共働きの状況－24年度調査との比較

「共働き世帯」の割合が増加し、6割強

両親のいる世帯(3,318世帯)の共働きの状況をみると、「共働き世帯」の割合が61.5%で、24年度調査(53.8%)から7.7ポイント増加している。(図I-1-13)

図I-1-13 共働きの状況－24年度調査との比較

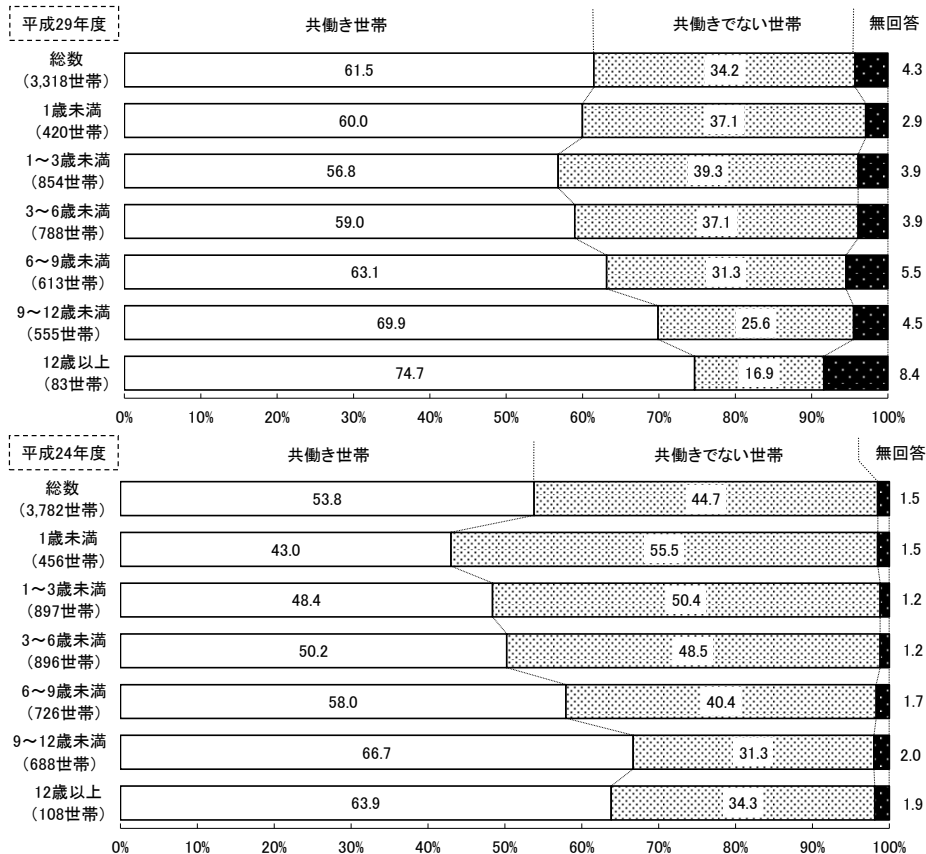


(3) 共働きの状況－1番下の子供の年齢別

1番下の子供の全ての年齢階級において、「共働き世帯」の割合は増加

共働きの状況を1番下の子供の年齢別にみると、「共働き世帯」の割合は、1番下の子供の年齢が「1歳未満」では60.0%で、24年度調査(43.0%)から17.0ポイント増加している。また、1番下の子供の全ての年齢階級において、「共働き世帯」の割合は増加している。(図I-1-14)

図I-1-14 共働きの状況－1番下の子供の年齢別



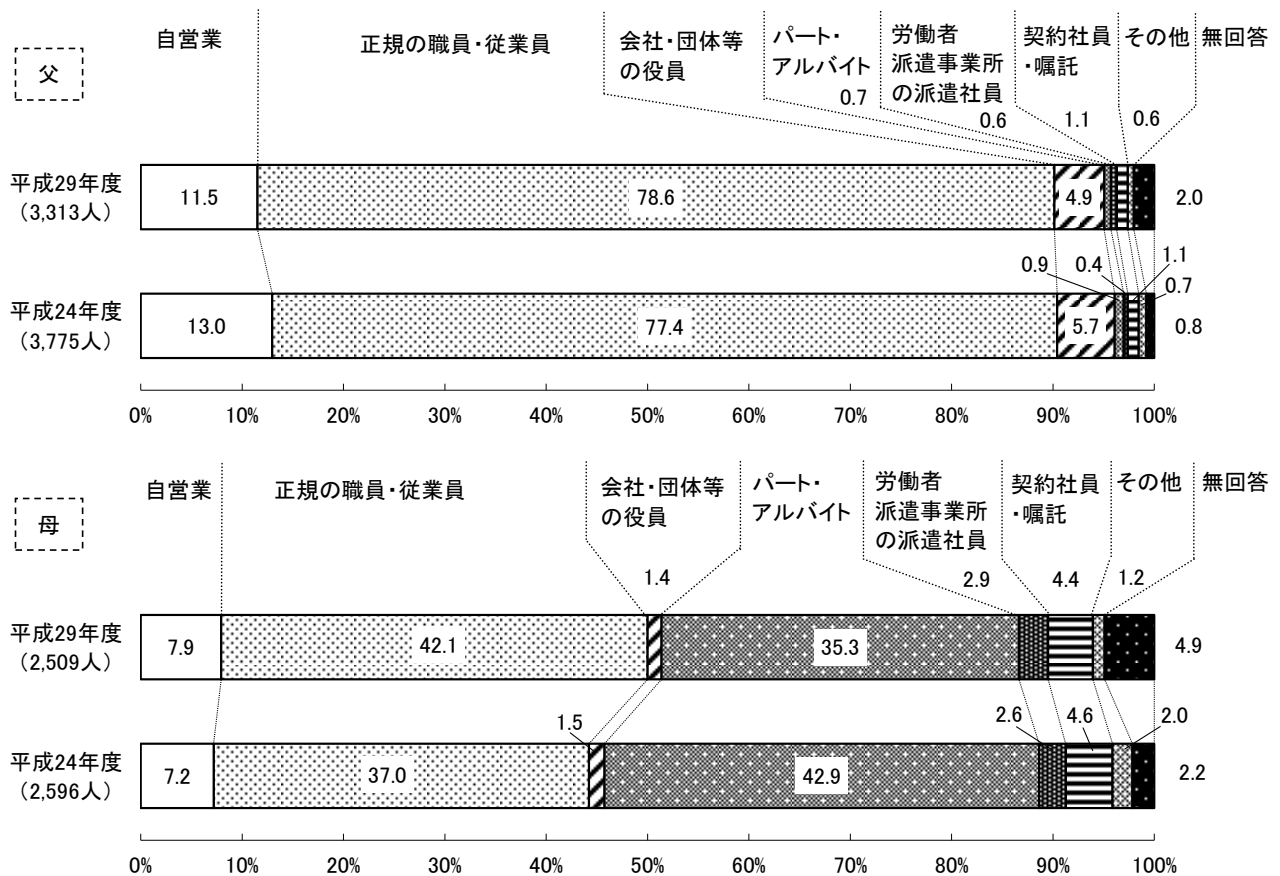
(4) 従業上の地位－24年度調査との比較

母の「正規の職員・従業員」の割合は、24年度調査から5.1ポイント増加し、4割強

就業している父母（5,822人）の従業上の地位は、父母ともに「正規の職員・従業員」の割合が最も高く、父が78.6%、母は42.1%となっている。母の「正規の職員・従業員」の割合は、24年度調査（37.0%）から5.1ポイント増加し、「パート・アルバイト」の割合は35.3%で、24年度調査（42.9%）から7.6ポイント減少している。（図I-1-15）

（注）「就業」している人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」「育児休業中である」「病気等で休んでいる」と回答した人である。

図I-1-15 従業上の地位－24年度調査との比較

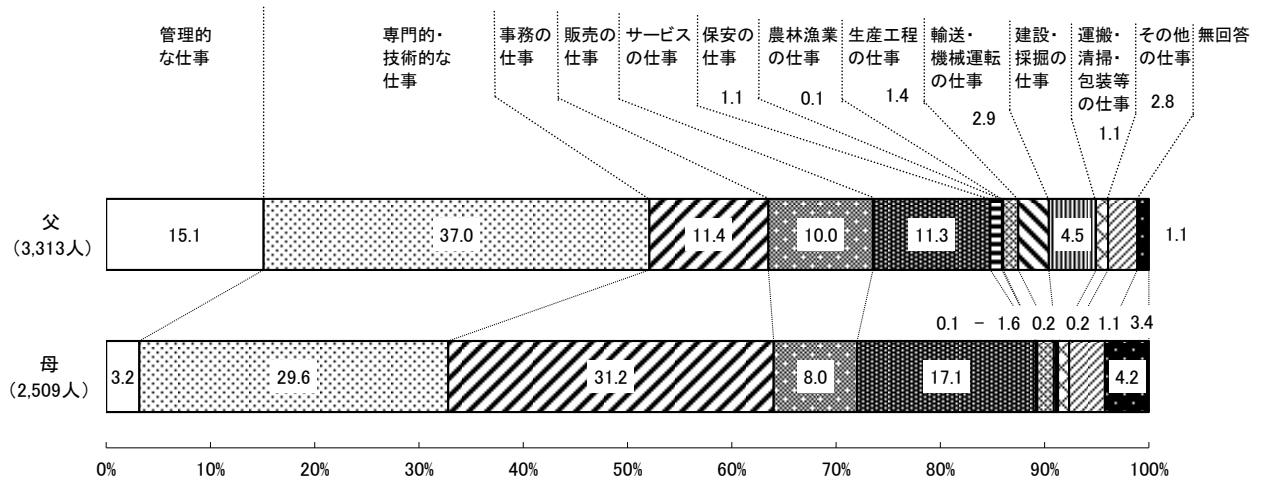


(5) 仕事の種類

就業している父母(5,822人)の仕事の種類は、父は「専門的・技術的な仕事」の割合が37.0%で最も高く、母は「事務の仕事」の割合が31.2%で最も高くなっている。(図I-1-16)

(注)「就業」している人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」「育児休業中である」「病気等で休んでいる」と回答した人である。

図I-1-16 仕事の種類



(6) 通勤時間—地域別

働いている父母（5,502人）の通勤時間は、父母ともに「31～60分」の割合が最も高く、父が43.3%、母は33.4%となっている。

父母の通勤時間を現在住んでいる地域別にみると、父の「15分以内」、「16～30分」、「31～60分」を合わせた「60分以内」の割合は、区部が76.9%、市・町・村部は55.4%で、区部の方が21.5ポイント高くなっている。

母の「60分以内」の割合は、区部が86.6%、市・町・村部は80.2%となっている。（表I-1-3）

（注）「働いている」人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」と回答した人である。

表 I-1-3 通勤時間—地域別

	総数	15分以内	16～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上	自宅就労	無回答
父									
総数	100.0 (3,298)	10.0	17.2	<u>43.3</u>	19.0	4.2	1.1	2.5	2.8
区部	100.0 (2,313)	10.4	18.3	<u>48.2</u>	15.4	1.9	0.7	2.6	2.6
		<u>76.9</u>							
市・町・村部	100.0 (985)	9.0	14.6	<u>31.8</u>	27.2	9.5	2.0	2.4	3.4
		<u>55.4</u>							
母									
総数	100.0 (2,204)	27.9	23.3	<u>33.4</u>	7.4	1.0	0.4	5.1	1.5
区部	100.0 (1,533)	24.5	23.9	<u>38.2</u>	5.2	0.7	0.5	5.4	1.6
		<u>86.6</u>							
市・町・村部	100.0 (671)	35.6	22.1	<u>22.5</u>	12.4	1.6	0.1	4.3	1.3
		<u>80.2</u>							

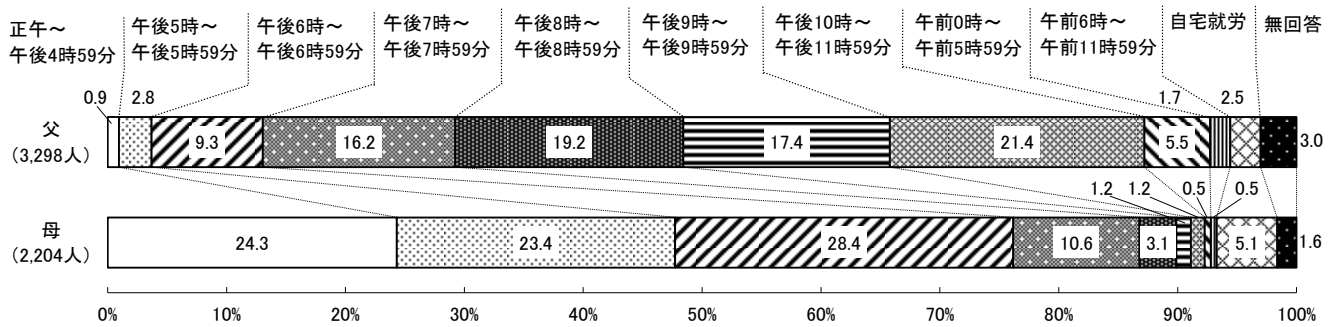
(7) 帰宅時間

働いている父母 (5,502 人) の帰宅時間は、父は、「午後 10 時～午後 11 時 59 分」の割合が 21.4%で最も高く、次いで「午後 8 時～午後 8 時 59 分」が 19.2%となっている。

母は、「午後 6 時～午後 6 時 59 分」の割合が 28.4%で最も高くなっている。(図 I-1-17)

(注)「働いている」人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」と回答した人である。

図 I-1-17 帰宅時間





(8) 帰宅時間－1番下の子供の年齢

父母の帰宅時間を1番下の子供の年齢別にみると、父は、1番下の子供の年齢が「1歳未満」「1～3歳未満」では「午後8時～午後8時59分」の割合が最も高く（22.1%、21.6%）、「3～6歳未満」「6～9歳未満」では「午後10時～午後11時59分」の割合が最も高くなっている（22.9%、23.8%）。

母は、「1歳未満」「1～3歳未満」では、「午後5時～午後5時59分」の割合が最も高くなっている（34.5%、35.5%）。（表I-1-4）

表I-1-4 帰宅時間－1番下の子供の年齢

父	総数	午後4時5分	午後5時5分	午後6時5分	午後7時5分	午後8時5分	午後9時5分	午後10時5分	午後11時5分	午後12時5分	自 宅 就 労	無 回 答
		4 5	5 5	6 6	7 7	8 8	9 9	1 1	5 0	1 6		
総数	100.0 (3,298)	0.9	2.8	9.3	16.2	19.2	17.4	21.4	5.5	1.7	2.5	3.0
1歳未満	100.0 (403)	0.5	2.2	9.9	15.1	<u>22.1</u>	18.6	20.1	6.2	2.0	0.7	2.5
1～3歳未満	100.0 (841)	1.3	2.3	7.7	18.3	<u>21.6</u>	16.4	20.9	5.5	1.7	2.3	2.0
3～6歳未満	100.0 (774)	1.2	2.6	8.5	17.3	17.3	18.7	<u>22.9</u>	6.1	1.0	2.1	2.3
6～9歳未満	100.0 (609)	0.8	3.1	9.4	15.1	15.6	17.1	<u>23.8</u>	4.9	2.3	3.6	4.3
9～12歳未満	100.0 (553)	0.4	3.6	12.3	13.0	19.3	17.7	18.4	5.4	1.6	3.4	4.7
12歳以上	100.0 (112)	1.8	3.6	10.7	18.8	22.3	8.9	20.5	3.6	2.7	4.5	2.7

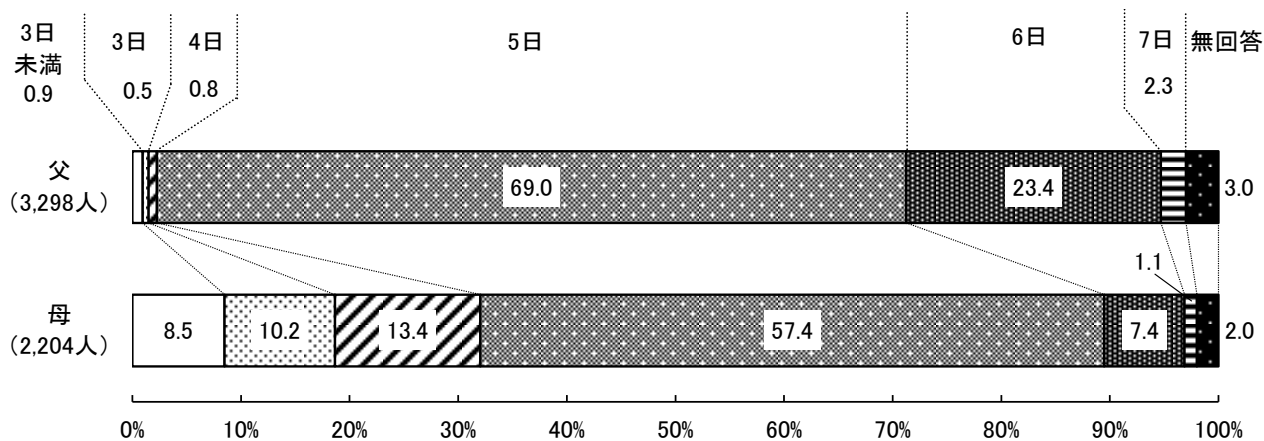
母	総数	午後4時5分	午後5時5分	午後6時5分	午後7時5分	午後8時5分	午後9時5分	午後10時5分	午後11時5分	午後12時5分	自 宅 就 労	無 回 答
		4 5	5 5	6 6	7 7	8 8	9 9	1 1	5 0	1 6		
総数	100.0 (2,204)	24.3	23.4	28.4	10.6	3.1	1.2	1.2	0.5	0.5	5.1	1.6
1歳未満	100.0 (55)	20.0	<u>34.5</u>	23.6	7.3	1.8	-	3.6	-	1.8	7.3	-
1～3歳未満	100.0 (439)	12.8	<u>35.5</u>	34.4	7.7	1.4	-	0.9	0.2	-	6.6	0.5
3～6歳未満	100.0 (506)	22.7	24.7	32.2	9.5	1.8	1.0	0.4	0.4	0.2	5.5	1.6
6～9歳未満	100.0 (449)	33.2	21.6	24.5	8.9	2.0	1.1	0.2	1.1	1.1	4.5	1.8
9～12歳未満	100.0 (458)	34.9	16.4	25.5	9.6	2.6	1.5	1.1	0.4	0.4	5.0	2.4
12歳以上	100.0 (295)	15.3	14.9	24.1	21.7	10.5	3.4	4.1	0.3	0.7	2.7	2.4

(9) 1週間の就労日数

働いている父母 (5,502人) の1週間の就労日数は、父母ともに「5日」の割合が最も高く、父が69.0%、母は57.4%となっている。(図 I-1-18)

(注)「働いている」人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」と回答した人である。

図 I-1-18 1週間の就労日数



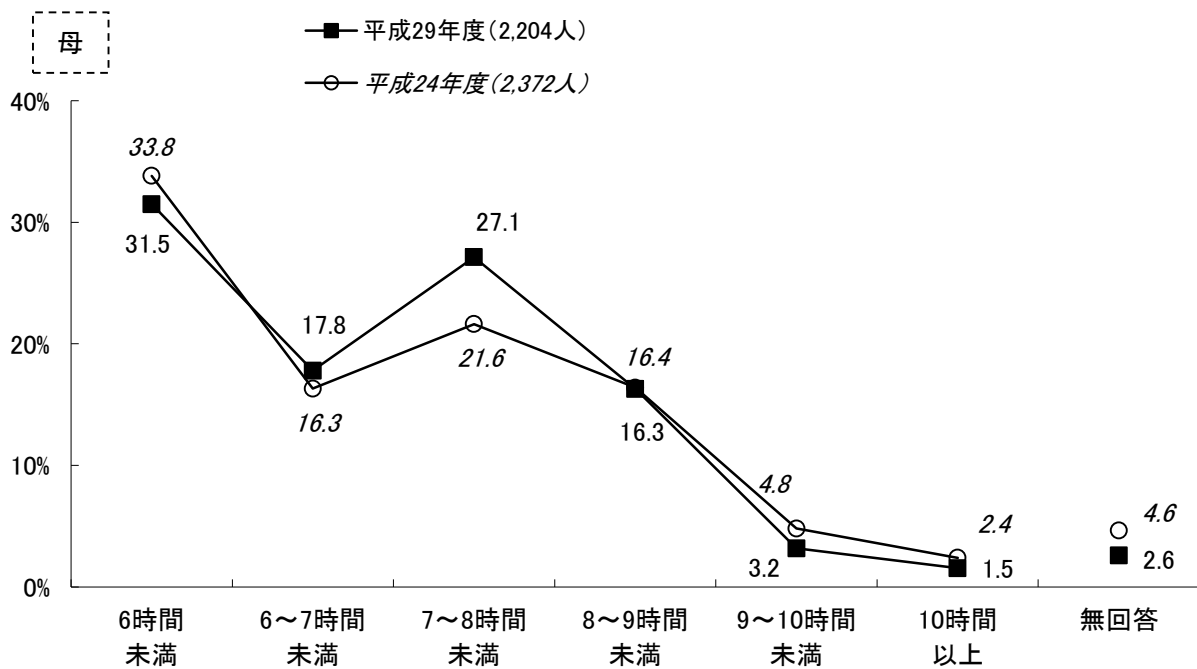
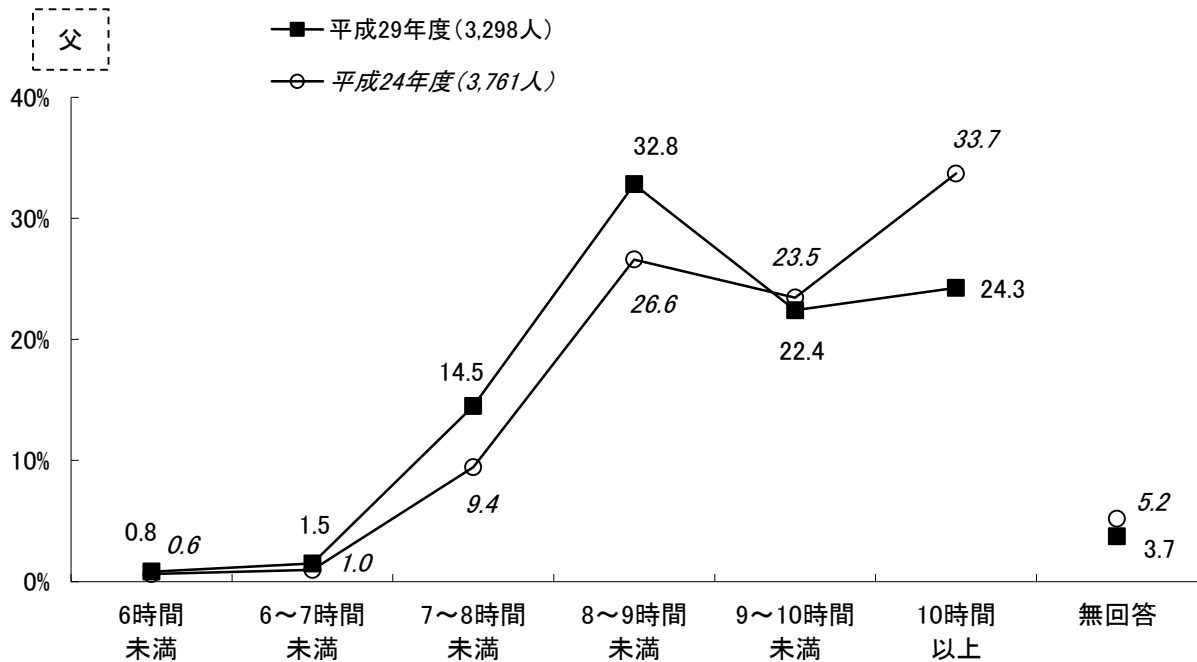
(10) 1日あたりの実労働時間－24年度調査との比較

働いている父母（5,502人）の1日あたりの実労働時間は、父は、「8～9時間未満」の割合が32.8%で最も高くなっている。

母は、「6時間未満」の割合が31.5%で最も高くなっている。（図I-1-19）

（注）「働いている」人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」と回答した人である。

図I-1-19 1日あたりの実労働時間－24年度調査との比較



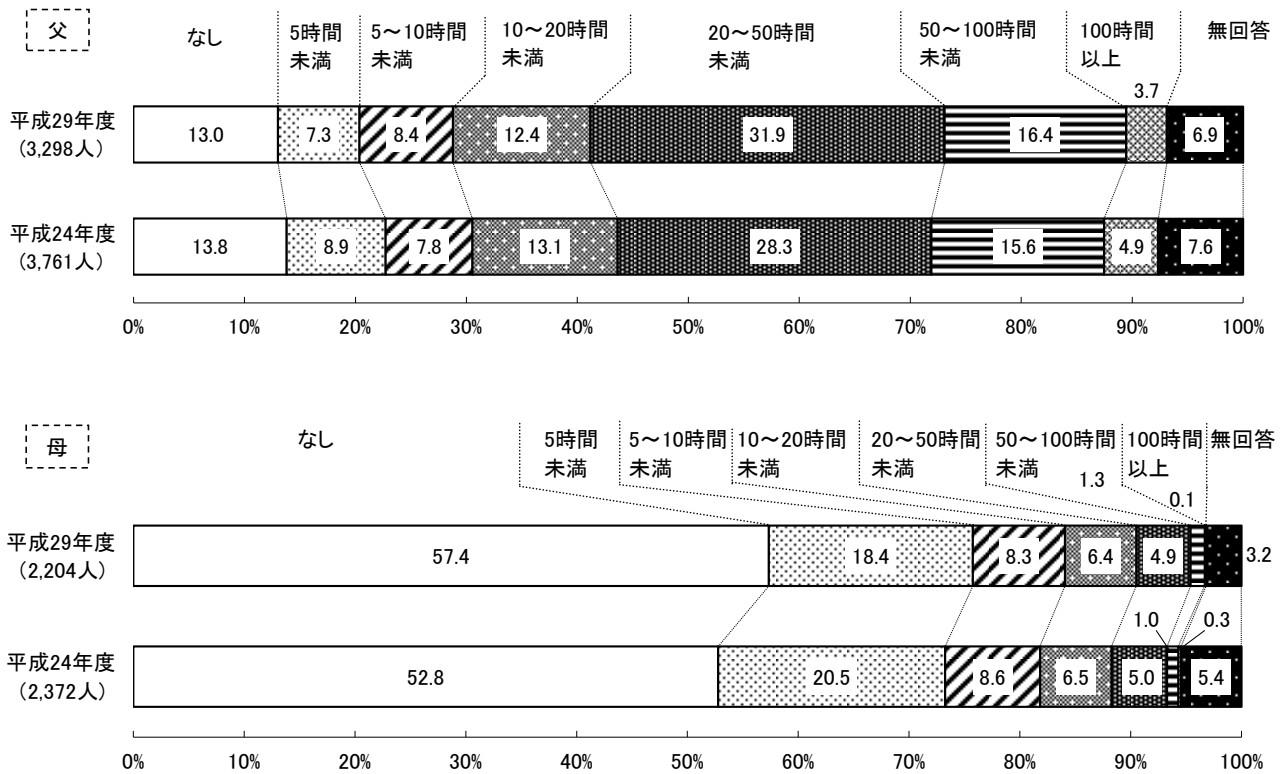
(11) 1か月の残業時間—24年度調査との比較

働いている父母(5,502人)の1か月の残業時間は、父は「20～50時間未満」の割合が31.9%で最も高くなっている。

母は「なし」の割合が57.4%で半数を超えている。(図I-1-20)

(注)「働いている」人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」と回答した人である。

図I-1-20 1か月の残業時間—24年度調査との比較



## 8 父母の学歴

父母の学歴は、父母ともに卒業では「大学」の割合が最も高く、父が52.6%、母は37.8%となっている。(表 I-1-5)

表 I-1-5 父母の学歴

	総数	中学校	高等学校	専門学校	高等短期 専修大学・ 専門学校	大学	大学院	その他	無回答
父	100.0 (3,374)								
卒業	100.0 (3,313)	3.2	17.1	13.5	2.2	<u>52.6</u>	11.0	0.1	0.3
在学中	100.0 (15)	-	-	13.3	-	26.7	53.3	6.7	-
母	100.0 (3,805)								
卒業	100.0 (3,722)	2.5	18.2	17.8	19.3	<u>37.8</u>	4.0	0.2	0.1
在学中	100.0 (10)	-	20.0	10.0	10.0	50.0	10.0	-	-

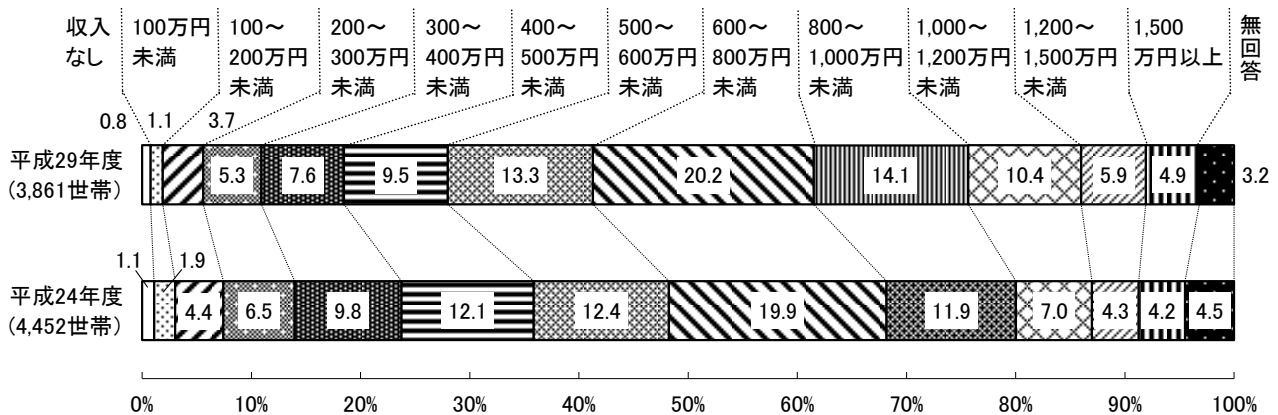
## 9 世帯収入の状況

### (1) 世帯の年間収入－24年度調査との比較

世帯の年間収入は「600～800万円未満」の割合が最も高く、約2割

世帯の年間収入は、「600～800万円未満」の割合が20.2%で最も高く、次いで「800～1,000万円未満」が14.1%、「500～600万円未満」が13.3%となっている。(図 I-1-21)

図 I-1-21 世帯の年間収入－24年度調査との比較



(2) 世帯の年間収入—世帯類型（母子・父子世帯）別

世帯の年間収入は、両親世帯では「600～800万円未満」、ひとり親世帯では、「100～200万円未満」、「200～300万円未満」の割合が最も高い

世帯の年間収入を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、両親世帯では「600～800万円未満」の割合が22.5%で最も高くなっている。ひとり親世帯では「100～200万円未満」、「200～300万円未満」の割合が、ともに22.5%で最も高くなっている。（表I-1-6）

表 I-1-6 世帯の年間収入—世帯類型（母子・父子世帯）別

	総数	収入なし	100万円未満	100万円未満	200万円未満	300万円未満	400万円未満	500万円未満	600万円未満	800万円未満	1,000万円未満	1,000万円未満	1,000万円以上	無回答
総数	100.0 (3,861)	0.8	1.1	3.7	5.3	7.6	9.5	13.3	20.2	14.1	10.4	5.9	4.9	3.2
両親世帯	100.0 (3,318)	0.2	0.2	0.6	2.5	6.6	9.5	14.4	<u>22.5</u>	16.1	12.0	6.7	5.6	3.2
ひとり親世帯	100.0 (543)	4.6	6.6	<u>22.5</u>	<u>22.5</u>	13.6	9.8	6.4	6.4	2.0	0.6	1.1	0.7	3.1
母子世帯	100.0 (487)	4.7	7.0	24.2	23.4	14.2	9.9	6.0	4.5	1.8	0.2	0.6	0.4	3.1
父子世帯	100.0 (56)	3.6	3.6	7.1	14.3	8.9	8.9	10.7	23.2	3.6	3.6	5.4	3.6	3.6

(3) 世帯の年間収入－父母の従業上の地位別

正規の職員・従業員では、「600～800万円未満」の割合が最も高く、父は2割強、母は約2割

世帯の年間収入を父母の従業上の地位別にみると、正規の職員・従業員では、父母ともに「600～800万円未満」の割合が最も高く、父が24.3%、母は20.4%となっている。

パート・アルバイトでは、父は、「200～300万円未満」の割合が31.8%で最も高く、母は、「600～800万円未満」の割合が19.9%で最も高くなっている。(表I-1-7)

表 I-1-7 世帯の年間収入－父母の従業上の地位別

	総 数	収 入 な し	年間収入 (万円)											無 回 答	
			1 0 0 万 円 未 満	2 1 0 0 万 円 未 満	3 2 0 0 万 円 未 満	4 3 0 0 万 円 未 満	5 4 0 0 万 円 未 満	6 5 0 0 万 円 未 満	8 6 0 0 万 円 未 満	1 8 0 0 万 円 未 満	1 1 0 0 万 円 未 満	1 1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 0 万 円 未 満		
父															
総数	100.0 (3,374)	0.2	0.3	0.7	2.7	6.6	9.5	14.3	22.5	15.9	11.8	6.7	5.5	3.2	
就業	100.0 (3,313)	0.1	0.2	0.5	2.7	6.6	9.4	14.4	22.6	16.1	12.0	6.8	5.6	3.0	
自営業	100.0 (382)	0.8	0.8	1.3	5.8	11.5	11.5	12.8	16.8	10.7	9.4	6.3	8.1	4.2	
正規の職員・従業員	100.0 (2,604)	-	0.0	0.1	1.8	5.1	8.9	15.1	<u>24.3</u>	17.3	13.1	6.9	4.6	2.6	
会社・団体等の役員	100.0 (163)	-	-	1.2	1.2	7.4	8.0	12.3	19.6	17.8	8.0	7.4	14.1	3.1	
パート・アルバイト	100.0 (22)	-	-	13.6	<u>31.8</u>	22.7	13.6	-	9.1	9.1	-	-	-	-	
労働者派遣事業所の派遣社員	100.0 (19)	-	-	-	15.8	10.5	26.3	15.8	15.8	-	-	-	-	15.8	
契約社員・嘱託	100.0 (36)	-	-	5.6	8.3	33.3	19.4	13.9	-	8.3	5.6	5.6	-	-	
非就業	100.0 (19)	10.5	15.8	21.1	10.5	5.3	21.1	5.3	5.3	-	-	-	-	5.3	
母															
総数	100.0 (3,805)	0.7	1.1	3.7	5.2	7.5	9.5	13.3	20.2	14.3	10.5	5.9	4.9	3.2	
就業	100.0 (2,509)	0.5	1.3	4.7	5.6	6.9	8.9	12.2	19.7	14.0	11.4	6.9	5.2	2.7	
自営業	100.0 (199)	1.0	1.0	5.5	5.5	8.5	12.6	8.0	15.1	13.1	12.1	8.5	7.0	2.0	
正規の職員・従業員	100.0 (1,056)	0.2	-	1.4	4.0	5.5	7.1	9.8	<u>20.4</u>	16.6	15.0	10.7	7.6	1.8	
会社・団体等の役員	100.0 (34)	-	-	2.9	5.9	14.7	5.9	5.9	26.5	2.9	5.9	14.7	11.8	2.9	
パート・アルバイト	100.0 (885)	0.5	2.6	8.0	6.6	7.9	11.3	15.8	<u>19.9</u>	12.4	7.2	2.5	2.3	3.1	
労働者派遣事業所の派遣社員	100.0 (72)	-	2.8	4.2	12.5	6.9	6.9	16.7	19.4	9.7	13.9	2.8	1.4	2.8	
契約社員・嘱託	100.0 (111)	-	0.9	11.7	11.7	8.1	3.6	10.8	19.8	16.2	9.0	2.7	1.8	3.6	
非就業	100.0 (1,187)	1.2	0.8	1.6	4.5	8.8	11.0	15.4	21.2	14.5	9.2	4.0	4.1	3.8	

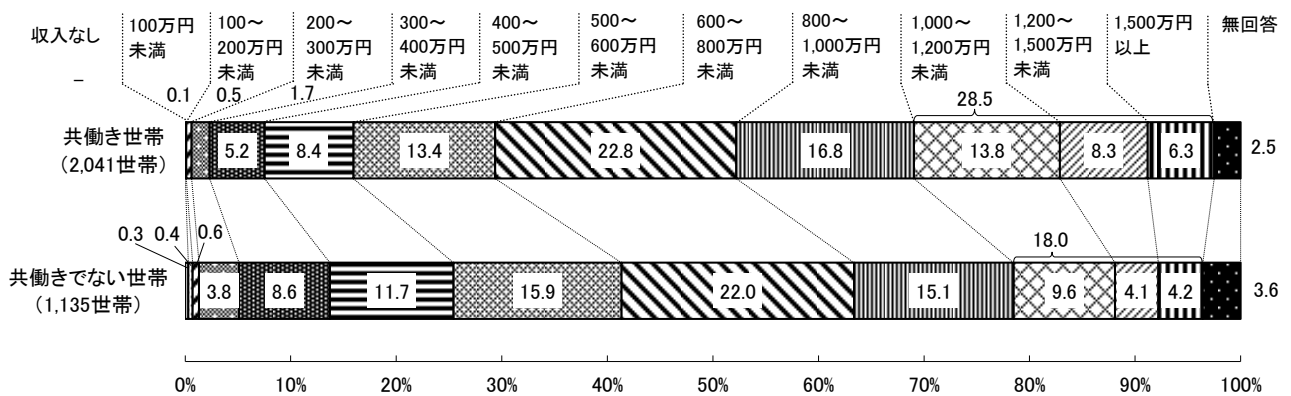
(4) 世帯の年間収入－共働きの状況別

年間収入が「1,000万円以上」の世帯は、共働き世帯では2割超

世帯の年間収入を共働きの状況別にみると、共働き世帯、共働きでない世帯ともに「600～800万円未満」の割合が最も高くなっている（22.8%、22.0%）。

「1,000～1,200万円未満」、「1,200～1,500万円未満」、「1,500万円以上」を合わせた「1,000万円以上」の世帯は、共働き世帯が28.5%、共働きでない世帯が18.0%となっている。（図 I-1-22）

図 I-1-22 世帯の年間収入－共働きの状況別



(注) 両親世帯 3,318 世帯から、共働きかどうか不明な世帯 142 世帯を除いた、3,176 世帯について集計した。

(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。



(5) 主な世帯収入の種類—世帯類型（母子・父子世帯）別

両親世帯、ひとり親世帯ともに「賃金・給料」の割合が最も高い

主な世帯収入の種類は、「賃金・給料」の割合が最も高く、90.3%となっている。

主な世帯収入の種類を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、両親世帯、ひとり親世帯ともに、「賃金・給料」の割合が最も高く、それぞれ92.4%、77.5%となっている。（表 I-1-8）

表 I-1-8 主な世帯収入の種類—世帯類型（母子・父子世帯）別

	総数	賃金・給料	事業所得	家賃・地代・利子・配当	仕送り	養育費・感謝料	年金・恩給	生活保護	給付金 その他の社会保障	雇用保険	その他の収入	なし	無回答
総数	100.0 (3,861)	<u>90.3</u>	5.3	0.3	0.7	0.3	0.8	0.5	0.5	0.2	0.2	0.1	0.8
両親世帯	100.0 (3,318)	<u>92.4</u>	5.7	0.4	0.6	-	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	-	0.5
ひとり親世帯	100.0 (543)	<u>77.5</u>	3.1	-	1.3	2.0	4.6	2.9	3.1	0.6	0.9	0.9	2.9
母子世帯	100.0 (487)	76.4	3.1	-	1.4	2.3	4.9	3.1	3.3	0.6	0.8	0.8	3.3
父子世帯	100.0 (56)	87.5	3.6	-	-	-	1.8	1.8	1.8	-	1.8	1.8	-



## 第2章 就学前の子供がいる世帯

就学前の子供がいる世帯 2,286 世帯の、就学前の子供 2,999 人の状況について述べる。

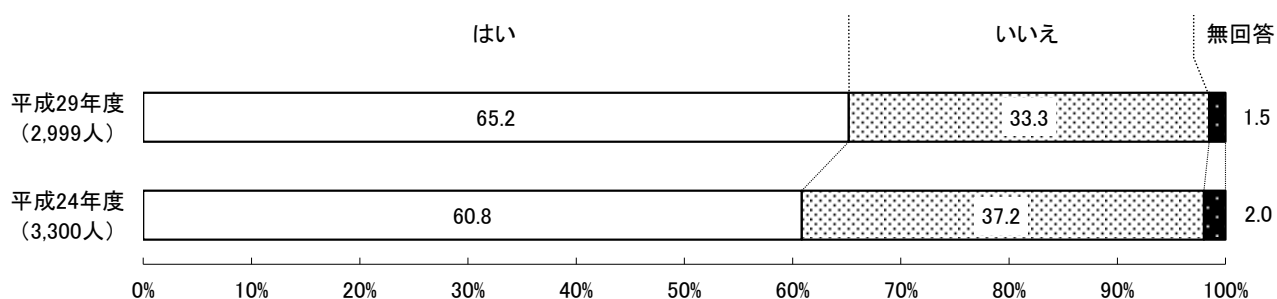
### 1 就学前の子供の日中の世話

#### (1) 就学前の子供の日中の世話－24年度調査との比較

就学前の子供を平日の日中預けている割合は6割超

就学前の子供（2,999人）について、平日の日中、通園させたり預けたりしているか聞いたところ、「はい」の割合は65.2%で、24年度調査（60.8%）から4.4ポイント増加している。（図I-2-1）

図I-2-1 就学前の子供の日中の世話－24年度調査との比較

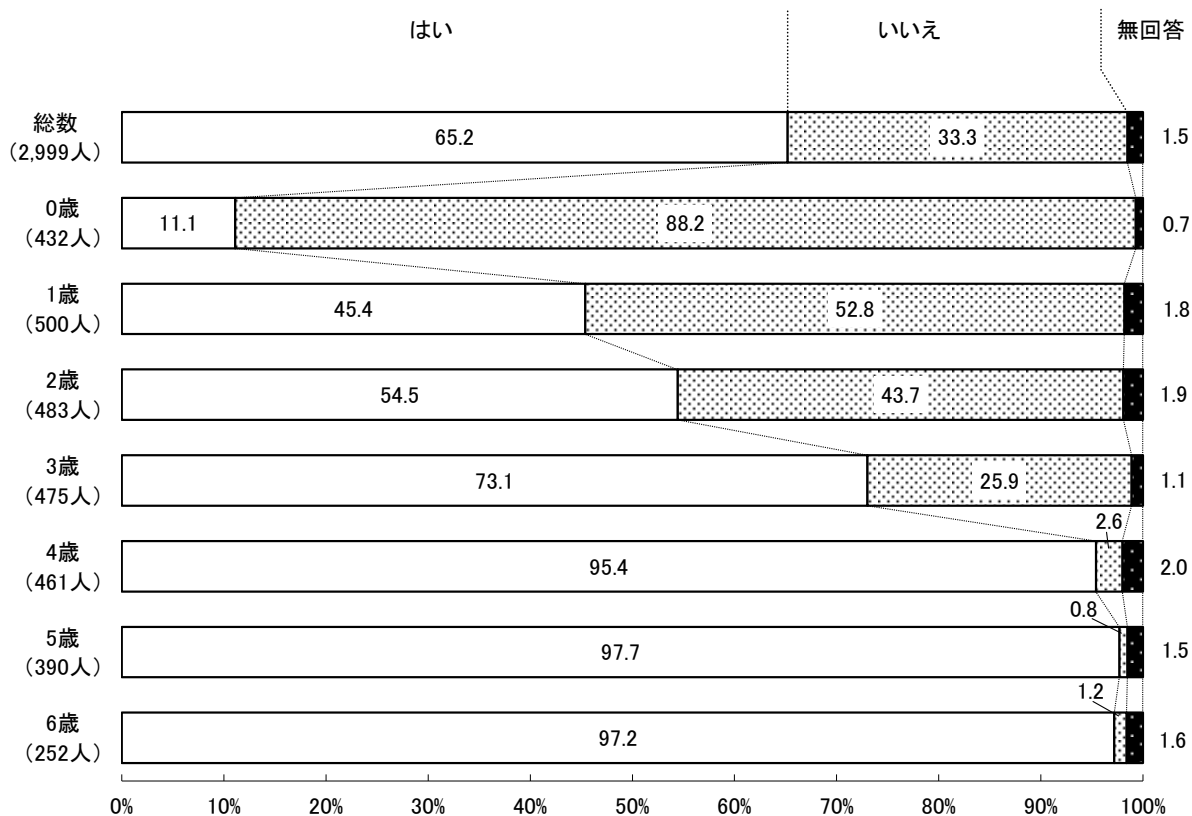


(2) 就学前の子供の日中の世話－子供の年齢別

就学前の子供を平日の日中預けている割合は、5歳では9割超

就学前の子供について、平日の日中、通園させたり預けたりしているかを子供の年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「はい」の割合が増えていき、5歳では97.7%となっている。  
(図 I-2-2)

図 I-2-2 就学前の子供の日中の世話－子供の年齢別



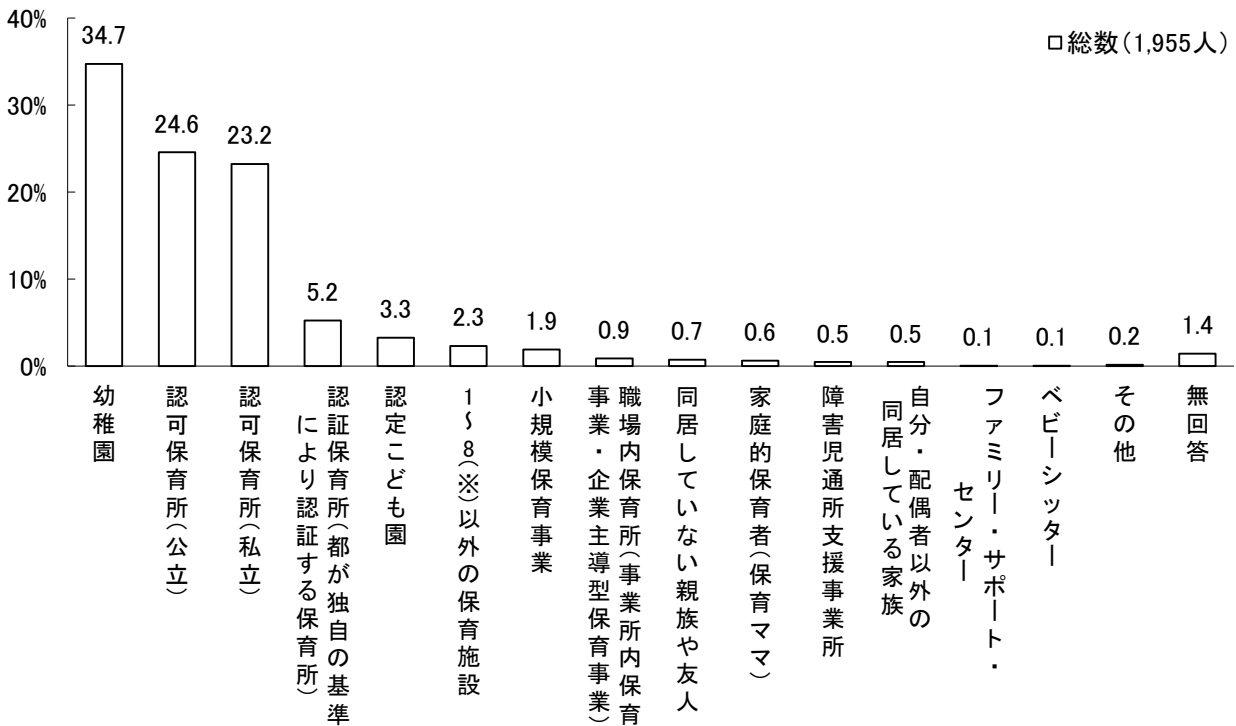
## 2 日中の子供の預け先（主なところ）

### (1) 日中の子供の預け先（主なところ）

「幼稚園」の割合が最も高く、3割強

平日の日中、通園させたり預けたりしている子供（1,955人）の主な預け先について聞いたところ、「幼稚園」の割合が34.7%で最も高く、次いで「認可保育所（公立）」が24.6%、「認可保育所（私立）」が23.2%となっている。（図I-2-3）

図I-2-3 日中の子供の預け先（主なところ）



(注) ※「1~8」とは、「幼稚園」、「認可保育所（公立）」、「認可保育所（私立）」、「認証保育所(都が独自の基準により認証する保育所)」、「認定こども園」、「小規模保育事業」、「職場内保育所(事業所内保育事業・企業主導型保育事業)」、「ファミリー・サポート・センター」を指す。

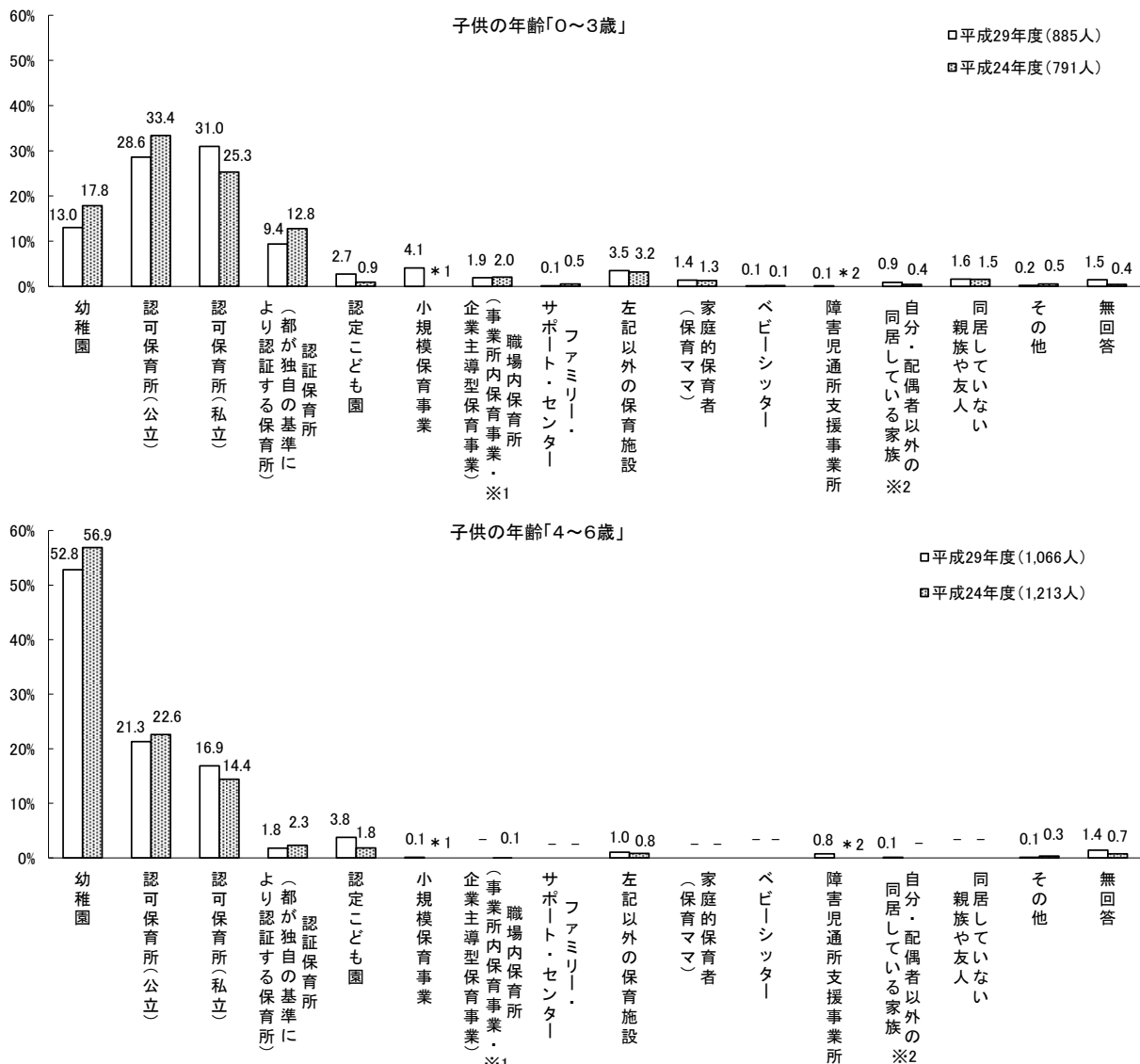
(2) 日中の子供の預け先（主なところ）－子供の年齢別、24年度調査との比較

0～3歳では「認可保育所（私立）」、4～6歳では「幼稚園」の割合がそれぞれ最も高い

日中の子供の主な預け先を子供の年齢別にみると、子供の年齢が0～3歳では、「認可保育所（私立）」の割合が31.0%で最も高く、次いで「認可保育所（公立）」の割合が28.6%となっている。「認可保育所（私立）」の割合は24年度調査（25.3%）から5.7ポイント増加し、「認可保育所（公立）」の割合は24年度調査（33.4%）から4.8ポイント減少している。

また、子供の年齢が4～6歳では、「幼稚園」の割合が52.8%で、24年度調査（56.9%）から4.1ポイント減少している。（図I-2-4）

図I-2-4 日中の子供の預け先（主なところ）－子供の年齢別、24年度調査との比較



(注) 29年度の合計が1,955人（通園させたり預けたりしている子供の合計）にならないのは、年齢不明の子供が4人いるためである。

(注) 24年度調査では、※1は「職場内保育所」、※2は「その他の家族」としていた。

(注) \*1、\*2は24年度調査では、選択肢を設けていないため、データが存在しない。

(3) 日中の子供の預け先（主なところ）－両親の有無別

両親世帯では「幼稚園」、ひとり親世帯では「認可保育所（公立）」、「認可保育所（私立）」の割合が最も高い

日中の子供の主な預け先を両親の有無別にみると、両親世帯では、「幼稚園」の割合が35.8%で最も高く、次いで、「認可保育所（公立）」が24.0%、「認可保育所（私立）」が22.6%となっている。

ひとり親世帯では、「認可保育所（公立）」、「認可保育所（私立）」の割合が35.2%で最も高く、次いで、「幼稚園」が13.2%となっている。（表I-2-1）

表I-2-1 日中の子供の預け先（主なところ）－両親の有無別

	総数	幼稚園	認可保育所（公立）	認可保育所（私立）	認証保育所（都が独自の基準により認証する保育所）	認定こども園	小規模保育事業	職場内保育所（事業所内保育事業・企業主導型保育事業）	ファミリー・センター	左記以外の保育施設	家庭的保育者（保育ママ）	ベビーシッター	障害児通所支援事業所	同居している家族	自分・配偶者以外の同居していない親族や友人	その他	無回答
総数	100.0 (1,955)	34.7	24.6	23.2	5.2	3.3	1.9	0.9	0.1	2.3	0.6	0.1	0.5	0.5	0.7	0.2	1.4
両親世帯	100.0 (1,864)	<u>35.8</u>	<u>24.0</u>	<u>22.6</u>	5.2	3.2	1.9	0.9	0.1	2.4	0.6	0.1	0.5	0.4	0.8	0.2	1.4
ひとり親世帯	100.0 (91)	<u>13.2</u>	<u>35.2</u>	<u>35.2</u>	5.5	5.5	1.1	-	-	1.1	-	-	-	1.1	-	-	2.2

(4) 日中の子供の預け先（主なところ）－共働きの状況別

共働き世帯は、「認可保育所（公立）」、「認可保育所（私立）」を合わせた割合が6割超、共働きでない世帯は、「幼稚園」の割合が8割超

日中の子供の主な預け先を共働きの状況別にみると、共働き世帯は、「認可保育所（公立）」の割合が33.6%で最も高く、次いで「認可保育所（私立）」が32.1%となっており、「認可保育所（公立）」、「認可保育所（私立）」を合わせた割合は65.7%となっている。

共働きでない世帯は、「幼稚園」の割合が85.7%で最も高くなっている。（表 I-2-2）

表 I-2-2 日中の子供の預け先（主なところ）－共働きの状況別

	総数	幼稚園	認可保育所（公立）	認可保育所（私立）	基準により認証する保育所（都が独自の認定保育所）	認定こども園	小規模保育事業	職場内保育所（事業所内保育）	事業・企業主導型保育事業	ファミリー・センター	左記以外の保育施設	家庭的保育者（保育ママ）	ベビシッター	障害児通所支援事業所	自分・配偶者以外の同居している家族	同居していない親族や友人	その他	無回答
総数	100.0 (1,864)	35.8	24.0	22.6	5.2	3.2	1.9	0.9	0.1	2.4	0.6	0.1	0.5	0.4	0.8	0.2	1.4	
共働き世帯	100.0 (1,281)	14.7	<u>33.6</u>	<u>32.1</u>	6.9	3.0	2.5	1.3	0.1	2.1	0.9	-	0.2	0.2	0.8	0.1	1.4	
			<u>65.7</u>															
共働きでない世帯	100.0 (518)	<u>85.7</u>	1.2	1.0	1.5	3.7	0.2	-	-	2.1	-	0.2	1.4	1.0	0.6	0.2	1.4	

(注) 総数は、平日の日中、通園させたり預けたりしている子供1,955人のうち、両親世帯の子供1,864人である。



(5) 日中の子供の預け先（主なところ）の保育開始時間

一日中の子供の預け先（主なところ）別

幼稚園、認可保育所（公立）、認証保育所、認定こども園では「午前9時～午前9時29分」の割合が、認可保育所（私立）では「午前8時～午前8時29分」の割合が最も高い

日中の子供の主な預け先の保育開始時間を聞いたところ、「午前9時～午前9時29分」の割合が39.5%で最も高く、次いで「午前8時～午前8時29分」が18.6%、「午前8時30分～午前8時59分」が18.5%となっている。

日中の子供の預け先（主なところ）別にみると、幼稚園、認可保育所（公立）、認証保育所（都が独自の基準により認証する保育所）、認定こども園は、いずれも「午前9時～午前9時29分」の割合が最も高くなっている（64.9%、24.6%、32.4%、42.2%）。一方で、認可保育所（私立）は「午前8時～午前8時29分」の割合が29.3%で最も高くなっている。（表I-2-3）

表I-2-3 日中の子供の預け先（主なところ）の保育開始時間

一日中の子供の預け先（主なところ）別

	総 数	午 前 6 時 5 9 分 以 前	午 前 7 時 2 5 分	午 前 7 時 5 3 分	午 前 8 時 2 5 分	午 前 8 時 5 3 分	午 前 9 時 0 9 分	午 前 9 時 2 5 分	午 前 9 時 5 3 分	午 前 1 0 時 以 降	無 回 答
総数	100.0 (1,955)	0.1	3.2	9.4	18.6	18.5	39.5	3.6	2.1	5.0	
幼稚園	100.0 (679)	-	-	0.9	7.5	14.7	64.9	7.4	2.5	2.1	
認可保育所(公立)	100.0 (480)	-	6.3	17.1	22.9	24.2	24.6	1.5	0.2	3.3	
認可保育所(私立)	100.0 (454)	-	5.9	14.3	29.3	21.4	23.6	1.1	0.9	3.5	
認証保育所 (都が独自の基準により認証する保育所)	100.0 (102)	-	2.9	16.7	23.5	15.7	32.4	1.0	-	7.8	
認定こども園	100.0 (64)	-	3.1	6.3	18.8	18.8	42.2	4.7	4.7	1.6	
小規模保育事業	100.0 (37)	-	2.7	13.5	40.5	18.9	16.2	2.7	-	5.4	
職場内保育所 (事業所内保育事業・企業主導型保育事業)	100.0 (17)	-	-	5.9	41.2	23.5	29.4	-	-	-	
ファミリー・サポート・センター	100.0 (1)	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	
上記以外の保育施設	100.0 (45)	-	-	2.2	13.3	11.1	46.7	6.7	13.3	6.7	
家庭的保育者(保育ママ)	100.0 (12)	-	-	8.3	33.3	25.0	25.0	-	-	8.3	
ベビーシッター	100.0 (1)	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
障害児通所支援事業所	100.0 (9)	-	-	-	-	-	55.6	-	33.3	11.1	
自分・配偶者以外の同居している家族	100.0 (9)	11.1	-	-	-	-	11.1	-	-	77.8	
同居していない親族や友人	100.0 (14)	-	-	7.1	14.3	7.1	14.3	7.1	50.0	-	
その他	100.0 (3)	-	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	
平成24年度調査	100.0 (2,008)	0.0	2.3	9.0	16.5	19.7	43.2	4.7	2.5	2.0	

(6) 日中の子供の預け先（主なところ）の保育終了時間

一日中の子供の預け先（主なところ）別

幼稚園では「午後2時～午後2時59分」の割合が、認可保育所（公立）、認可保育所（私立）、認証保育所では「午後6時～午後6時59分」の割合が最も高い

日中の子供の主な預け先の保育終了時間を聞いたところ、「午後2時～午後2時59分」の割合が25.8%で最も高くなっており、次いで「午後6時～午後6時59分」の割合が24.4%となっている。

日中の子供の預け先（主なところ）別にみると、幼稚園では「午後2時～午後2時59分」の割合が68.8%で最も高くなっている。一方で、認可保育所（公立）、認可保育所（私立）、認証保育所では「午後6時～午後6時59分」の割合が最も高くなっている（38.5%、41.9%、39.2%）。（表I-2-4）

表I-2-4 日中の子供の預け先（主なところ）の保育終了時間

一日中の子供の預け先（主なところ）別

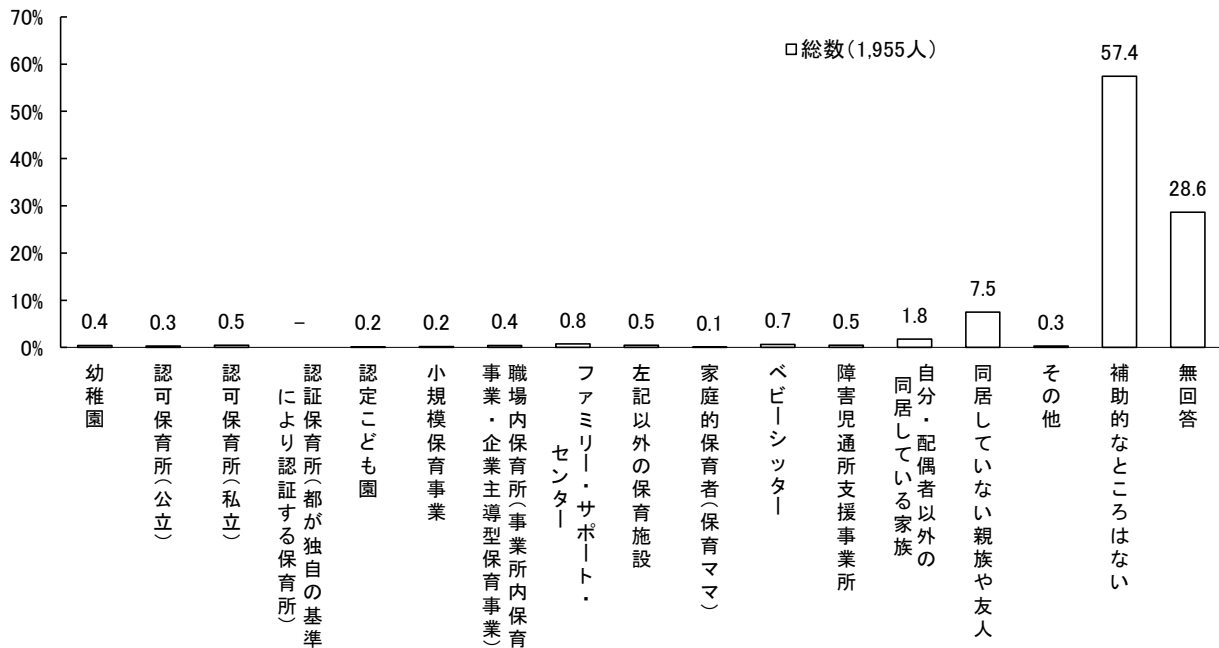
	総数	午後1時59分以前	午後2時0分～2時59分	午後3時0分～3時59分	午後4時0分～4時59分	午後5時0分～5時59分	午後6時0分～6時59分	午後7時0分～7時59分	午後8時0分～8時59分	午後9時0分～9時59分	午後10時以降	無回答
総数	100.0 (1,955)	4.8	<u>25.8</u>	4.6	8.8	21.0	<u>24.4</u>	4.3	0.4	0.1	0.3	5.5
幼稚園	100.0 (679)	11.2	<u>68.8</u>	9.1	1.9	3.8	1.5	0.4	-	-	0.4	2.8
認可保育所(公立)	100.0 (480)	0.2	0.2	0.2	15.8	33.1	<u>38.5</u>	7.5	0.4	-	0.2	3.8
認可保育所(私立)	100.0 (454)	0.2	0.4	1.3	10.8	33.0	<u>41.9</u>	6.8	0.9	-	0.2	4.4
認証保育所 (都が独自の基準により認証する保育所)	100.0 (102)	1.0	2.0	2.0	11.8	31.4	<u>39.2</u>	4.9	-	-	-	7.8
認定こども園	100.0 (64)	9.4	28.1	10.9	7.8	7.8	26.6	7.8	-	-	-	1.6
小規模保育事業	100.0 (37)	-	2.7	-	13.5	24.3	51.4	2.7	-	-	-	5.4
職場内保育所 (事業所内保育事業・企業主導型保育事業)	100.0 (17)	-	5.9	5.9	17.6	41.2	23.5	5.9	-	-	-	-
ファミリー・サポート・センター	100.0 (1)	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
上記以外の保育施設	100.0 (45)	13.3	15.6	6.7	11.1	26.7	20.0	-	-	-	-	6.7
家庭的保育者(保育ママ)	100.0 (12)	-	-	16.7	25.0	41.7	8.3	-	-	-	-	8.3
ベビーシッター	100.0 (1)	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
障害児通所支援事業所	100.0 (9)	22.2	44.4	11.1	-	-	11.1	-	-	-	-	11.1
自分・配偶者以外の同居している家族	100.0 (9)	-	11.1	-	-	-	-	11.1	-	-	-	77.8
同居していない親族や友人	100.0 (14)	-	-	28.6	7.1	21.4	7.1	7.1	7.1	14.3	7.1	-
その他	100.0 (3)	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-
平成24年度調査	100.0 (2,008)	5.7	30.2	5.7	9.1	20.4	20.4	4.8	0.7	0.1	0.2	2.6

### 3 日中の子供の預け先（補助的などところ）

「補助的などところはない」の割合が最も高いが、補助的などところがある人の預け先は、「同居していない親族や友人」の割合が最も高い

平日の日中、通園させたり預けたりしている子供（1,955人）の補助的な預け先について聞いたところ、「補助的などところはない」の割合が57.4%となっており、補助的などところがある人の預け先は、「同居していない親族や友人」の割合が7.5%で最も高く、次いで「自分・配偶者以外の同居している家族」が1.8%となっている。（図I-2-5）

図I-2-5 日中の子供の預け先（補助的などところ）



#### 4 保育時間と勤務時間の関係

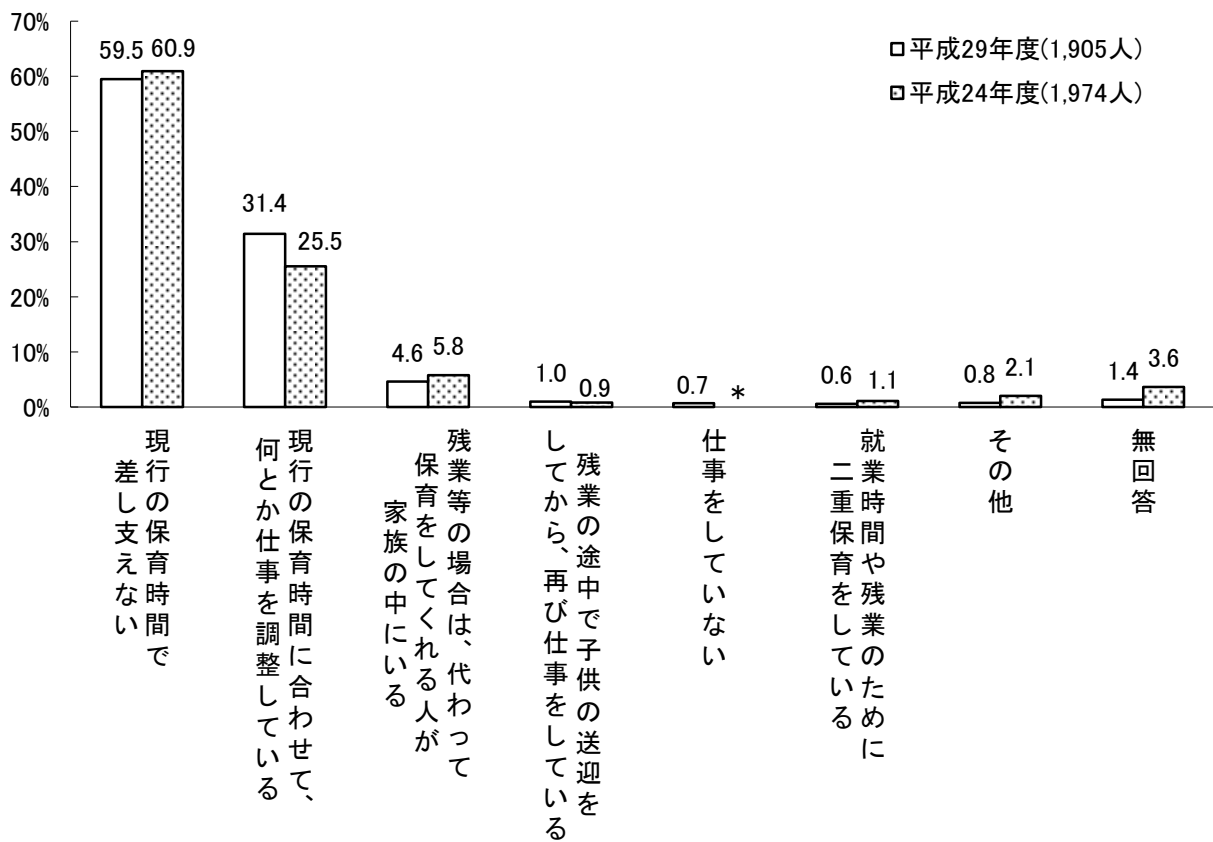
##### (1) 保育時間と勤務時間の関係－24年度調査との比較

「現行の保育時間で差し支えない」の割合が約6割

平日の日中の預け先が、「自分・配偶者以外の同居している家族」、「同居していない親族や友人」、「その他」、「無回答」以外である子供（1,905人）について、保育時間と勤務時間の関係を聞いたところ、「現行の保育時間で差し支えない」の割合が59.5%で最も高くなっている。

また、「現行の保育時間に合わせて、何とか仕事を調整している」は31.4%で、24年度調査（25.5%）から5.9ポイント増加している。（図I-2-6）

図I-2-6 保育時間と勤務時間の関係－24年度調査との比較



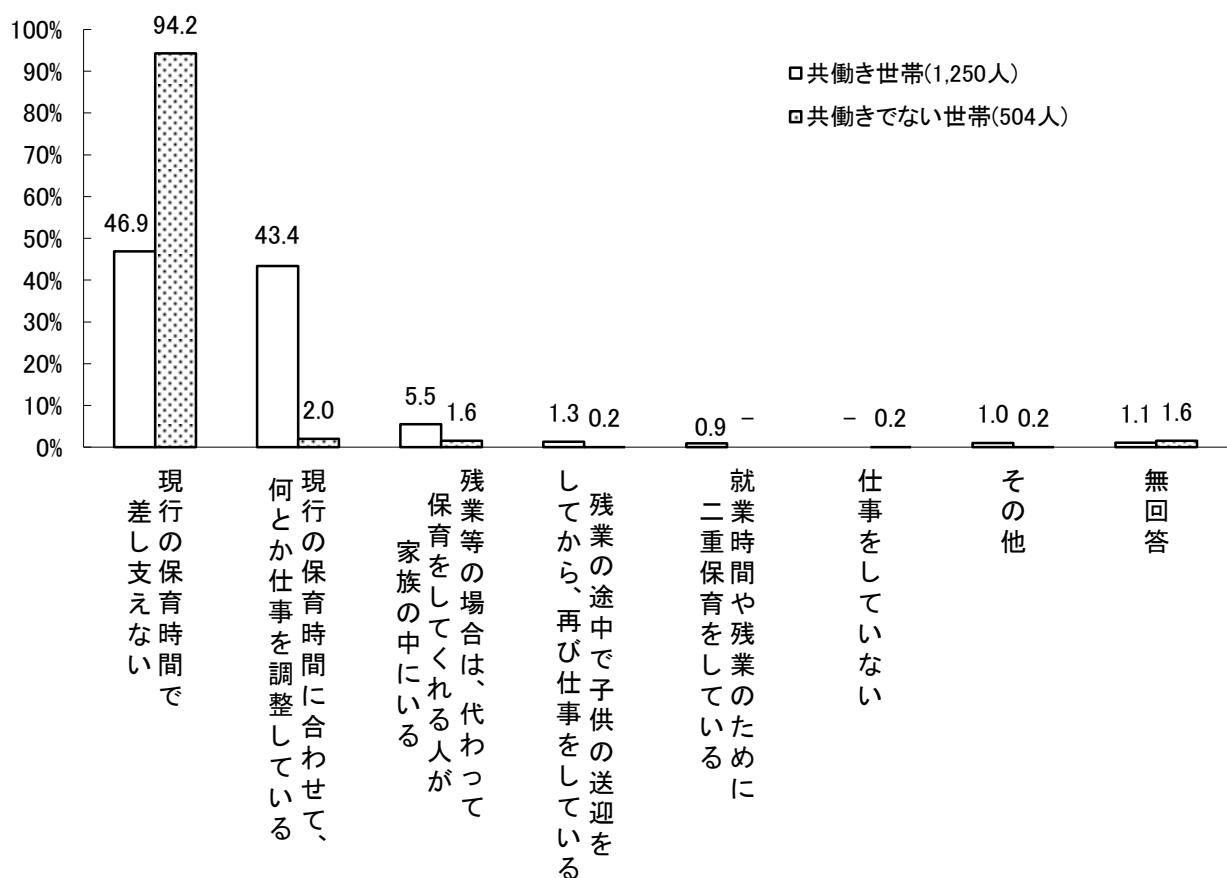
(注) \*は24年度調査では、選択肢を設けていないため、データが存在しない。

(2) 保育時間と勤務時間の関係－共働きの状況別

共働き世帯では、「現行の保育時間で差し支えない」と「現行の保育時間に合わせて、何とか仕事を調整している」の割合がそれぞれ4割強

保育時間と勤務時間の関係を共働きの状況別にみると、共働きでない世帯では、「現行の保育時間で差し支えない」の割合が94.2%で9割を超えている。共働き世帯では、「現行の保育時間で差し支えない」の割合が46.9%、「現行の保育時間に合わせて、何とか仕事を調整している」の割合が43.4%となっている。(図I-2-7)

図I-2-7 保育時間と勤務時間の関係－共働きの状況別



(注) 平日の日中の預け先が、「自分・配偶者以外の同居している家族」、「同居していない親族や友人」、「その他」、「無回答」以外である子供1,905人から、ひとり親世帯の子供89人と、両親世帯の子供だが、共働きかどうか不明な世帯の子供62人を除いた、1,754人について集計した。

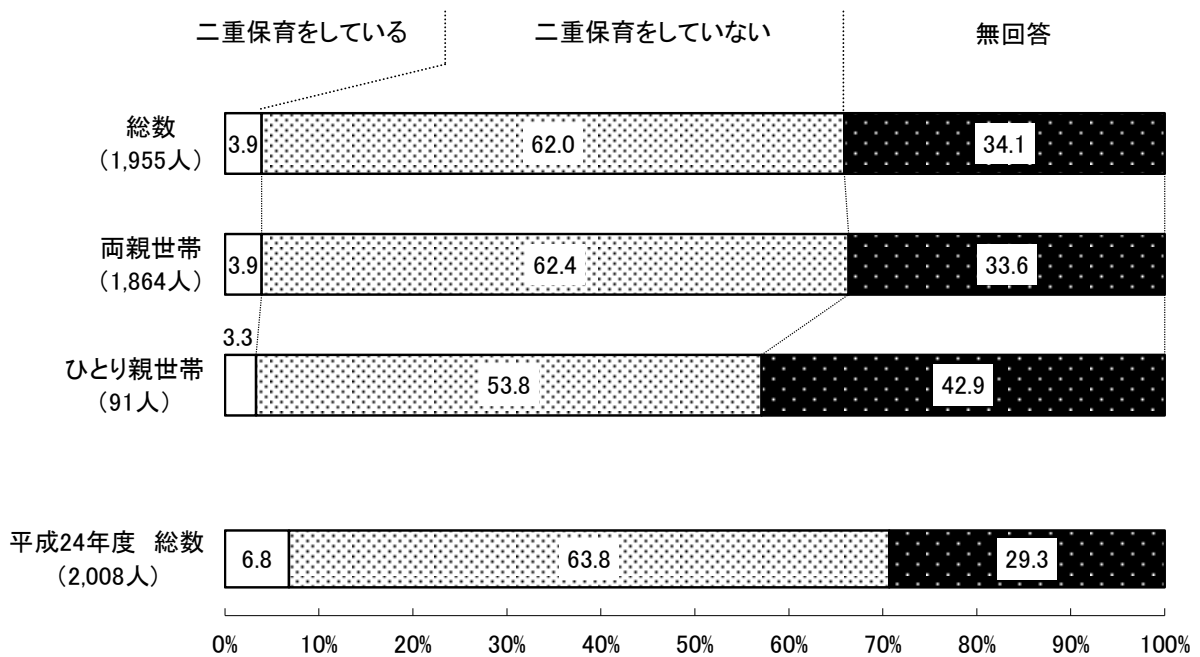
## 5 二重保育—両親の有無別

二重保育をしている子供の割合は1割以下

平日の日中、通園させたり預けたりしている子供（1,955人）について、主な預け先を利用した前後に、補助的な預け先を利用する、二重保育の有無を聞いたところ、「二重保育をしている」割合は、3.9%となっている。

また、両親の有無別にみると、「二重保育をしている」割合は両親世帯が3.9%、ひとり親世帯は3.3%となっている。（図I-2-8）

図I-2-8 二重保育—両親の有無別



(注) 「日中子供を通園させたり、預けたりしている」と答えた世帯の子供1,955人について、①日中の主な預け先と補助的な預け先にそれぞれ預けている時間から、二重保育をしていると見受けられる子供と、②「保育時間と勤務時間との関係」で「二重保育をしている」と答えた子供を合わせて「二重保育をしている」として集計した。

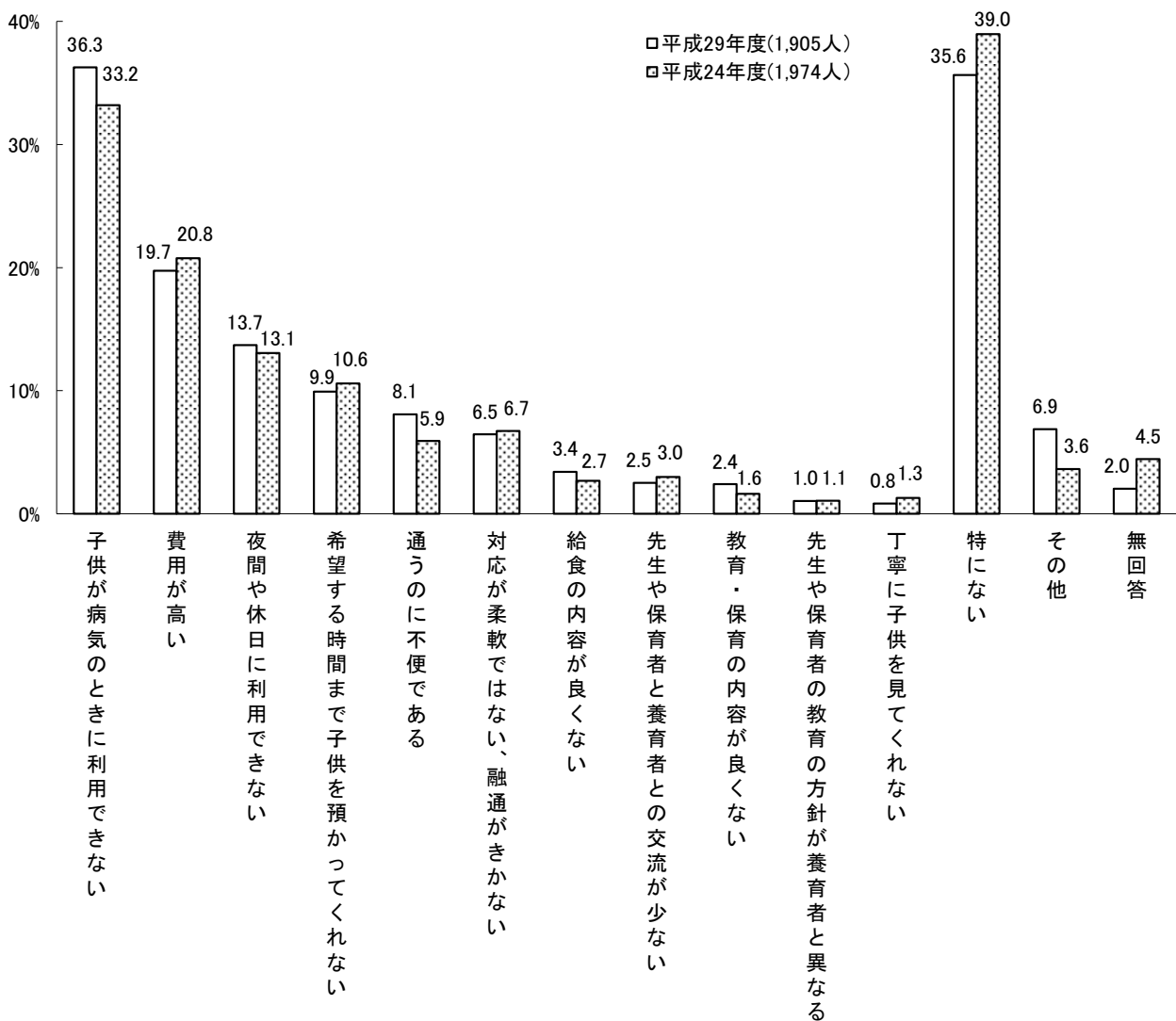
## 6 子供を預けていて不満に思うこと

### (1) 子供を預けていて不満に思うこと〔複数回答〕－24年度調査との比較

「子供が病気のとときに利用できない」の割合が最も高く、3割超

平日の日中の預け先が、「自分・配偶者以外の同居している家族」、「同居していない親族や友人」、「その他」、「無回答」以外である子供（1,905人）について、子供の預け先に関して困ることや不満に思うことを聞いたところ、「子供が病気のとときに利用できない」の割合が36.3%で最も高くなっている。一方、「特にない」の割合は35.6%となっている。（図I-2-9）

図I-2-9 子供を預けていて不満に思うこと〔複数回答〕－24年度調査との比較



(2) 子供を預けていて不満に思うこと〔複数回答〕－両親の有無別

両親世帯、ひとり親世帯ともに「子供が病気のときに利用できない」の割合が最も高い

子供の預け先に関して困ることや不満に思うことを両親の有無別にみると、両親世帯、ひとり親世帯ともに「子供が病気のときに利用できない」の割合が最も高くなっている（36.0%、41.6%）。

また、「夜間や休日に利用できない」の割合は、ひとり親世帯が24.7%、両親世帯は13.2%、で、ひとり親世帯の方が11.5ポイント高くなっている。

一方、「費用が高い」の割合は、両親世帯が20.3%、ひとり親世帯は7.9%で両親世帯の方が12.4ポイント高くなっている。（表I-2-5）

表I-2-5 子供を預けていて不満に思うこと〔複数回答〕－両親の有無別

	総数	を希望 か つ て 時 間 ま で 子 供	夜 間 や 休 日 に 利 用 で き な い	子 供 が 病 気 の と き に 利 用 で き な い	良 く な い 教 育 ・ 保 育 の 内 容 が	費 用 が 高 い	対 応 が き か な い 、 融 通 が な い	先 生 や 保 育 者 の 教 育 の 方 針 が 異 な る	先 生 や 保 育 者 と 養 育 者 の 交 流 が 少 な い	給 食 の 内 容 が 良 く な い	丁 寧 に 子 供 を 見 て く れ な い	通 う の に 不 便 で あ る	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数	100.0 (1,905)	9.9	13.7	36.3	2.4	19.7	6.5	1.0	2.5	3.4	0.8	8.1	6.9	35.6	2.0
両親世帯	100.0 (1,816)	9.9	<u>13.2</u>	<u>36.0</u>	2.5	<u>20.3</u>	6.4	1.0	2.5	3.6	0.8	8.1	7.0	35.6	2.1
ひとり親世帯	100.0 (89)	10.1	<u>24.7</u>	<u>41.6</u>	-	<u>7.9</u>	6.7	2.2	3.4	-	1.1	6.7	4.5	37.1	1.1



(3) 子供を預けていて不満に思うこと〔複数回答〕一日中の子供の預け先（主なところ）別

認可保育所では「子供が病気のときに利用できない」、幼稚園では「特にない」の割合が最も高い

子供の預け先に関して困ることや不満に思うことを、日中の子供の主な預け先別にみると、幼稚園では「特にない」の割合が44.0%と最も高く、次いで「費用が高い」が25.9%、「子供が病気のときに利用できない」が19.3%となっている。

認可保育所（公立）と認可保育所（私立）では、「子供が病気のときに利用できない」の割合が最も高く（46.7%、46.9%）次いで、「特にない」（32.1%、33.3%）、「夜間や休日に利用できない」（16.7%、13.9%）となっている。（表I-2-6）

表I-2-6 子供を預けていて不満に思うこと〔複数回答〕

一日中の子供の預け先（主なところ）別

	総数	希望する時間まで子供を預かってくれない	夜間や休日に利用できない	子供が病気のときに利用できない	教育・保育の内容が良くない	費用が高い	融通がきかない	対応が柔軟ではない、	方針が養育者と異なる	先生や保育者と養育者との交流が少ない	給食の内容が良くない	丁寧に子供を見てくれない	通うのに不便である	その他	特にない	無回答
総数	100.0 (1,905)	9.9	13.7	36.3	2.4	19.7	6.5	1.0	2.5	3.4	0.8	8.1	6.9	35.6	2.0	
幼稚園	100.0 (679)	11.6	11.5	<u>19.3</u>	1.5	<u>25.9</u>	6.2	0.7	2.7	6.6	1.0	5.0	7.2	<u>44.0</u>	1.5	
認可保育所(公立)	100.0 (480)	10.4	<u>16.7</u>	<u>46.7</u>	3.1	11.7	9.6	1.9	2.7	1.9	0.4	9.4	4.4	<u>32.1</u>	2.5	
認可保育所(私立)	100.0 (454)	6.8	<u>13.9</u>	<u>46.9</u>	2.9	9.3	5.1	1.1	3.1	0.4	1.1	8.6	6.8	<u>33.3</u>	2.4	
認証保育所 (都が独自の基準により 認証する保育所)	100.0 (102)	5.9	15.7	42.2	1.0	46.1	1.0	1.0	1.0	-	-	14.7	6.9	20.6	3.9	
認定こども園	100.0 (64)	6.3	6.3	29.7	1.6	21.9	4.7	-	1.6	9.4	3.1	4.7	-	45.3	-	
小規模保育事業	100.0 (37)	13.5	10.8	51.4	10.8	29.7	13.5	-	-	2.7	-	16.2	13.5	21.6	-	
職場内保育所 (事業所内保育事業・企業主導型保育事業)	100.0 (17)	-	29.4	58.8	-	29.4	-	-	-	-	-	17.6	23.5	17.6	-	
ファミリー・サポート・センター	100.0 (1)	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	
上記以外の保育施設	100.0 (45)	13.3	13.3	55.6	2.2	48.9	6.7	-	-	-	-	13.3	11.1	15.6	2.2	
家庭的保育者(保育ママ)	100.0 (12)	41.7	16.7	41.7	8.3	-	-	-	8.3	8.3	-	-	33.3	25.0	-	
ベビーシッター	100.0 (1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
障害児通所支援事業所	100.0 (9)	22.2	22.2	22.2	-	11.1	-	-	-	11.1	-	33.3	44.4	11.1	-	
その他	100.0 (1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	

## 7 認可保育所への入所希望

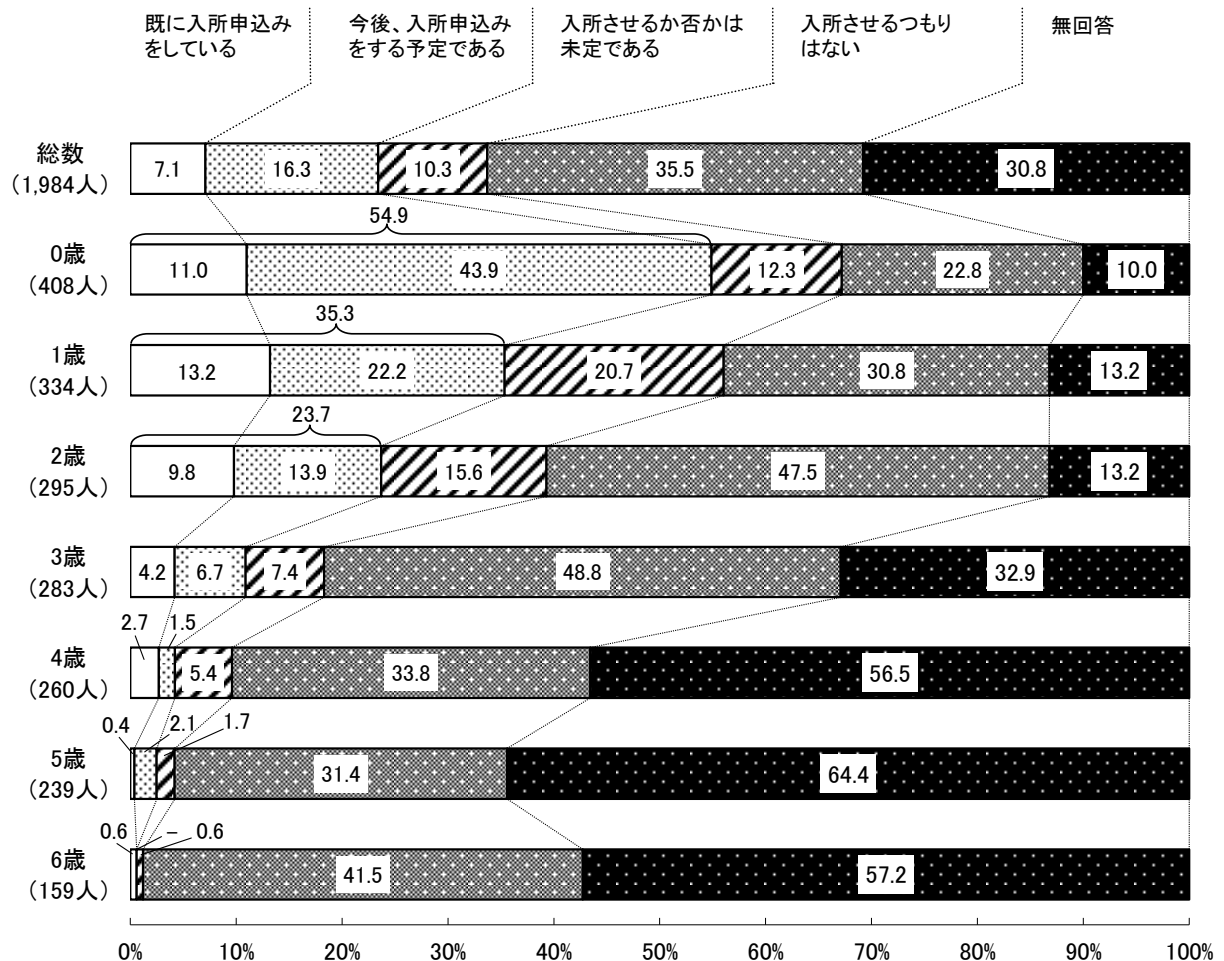
### (1) 認可保育所への入所希望—子供の年齢別

0歳児の入所希望の割合は5割強

平日の日中の預け先が認可保育所以外である子供（1,984人）について、認可保育所への入所希望を聞いたところ、「既に入所申込みをしている」の割合は7.1%、「今後、入所申込みをする予定である」の割合は16.3%となっている。一方、「入所させるつもりはない」の割合は35.5%となっている。

また、認可保育所への入所希望を、子供の年齢別にみると、「既に入所申込みをしている」、「今後、入所申込みをする予定である」を合わせた割合は、0歳が54.9%で最も高く、次いで、1歳が35.3%、2歳が23.7%で、年齢が上がるにつれて低くなっている。（図I-2-10）

図I-2-10 認可保育所への入所希望—子供の年齢別



(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

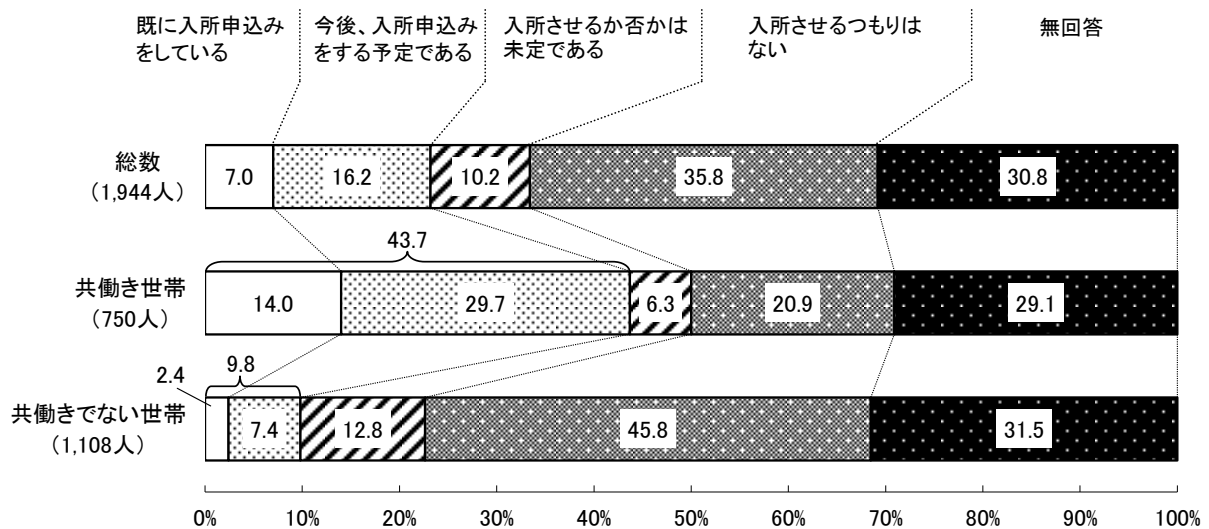
(2) 認可保育所への入所希望－共働きの状況別

認可保育所への入所希望は、共働き世帯が4割強、共働きでない世帯は約1割

認可保育所への入所希望を、共働きの状況別にみると、「既に入所申込みをしている」、「今後、入所申込みをする予定である」を合わせた割合は、共働き世帯が43.7%、共働きでない世帯は9.8%で、共働き世帯の方が33.9ポイント高くなっている。

また、「入所させるつもりはない」の割合は、共働きでない世帯が45.8%、共働き世帯は20.9%で、共働きでない世帯の方が24.9ポイント高くなっている。(図I-2-11)

図I-2-11 認可保育所への入所希望－共働きの状況別



(注) 総数は、平日の日中の預け先が認可保育所以外である子供1,984人のうち、両親世帯の子供1,944人である。

## 8 子供の預け先を選ぶ際に重視すること

### (1) 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕と最も重視すること

－24年度調査との比較

子供の預け先を選ぶ際に最も重視することは「丁寧に子供を見てくれる」の割合が約3割

就学前の子供がいる2,286世帯に、子供の預け先を選ぶ際に重視することを聞いたところ、「丁寧に子供を見てくれる」の割合が54.9%で最も高く、次いで「通うのに便利な場所にある」が54.5%、「教育・保育が充実している」が36.7%となっている。(図I-2-12)

また、最も重視することは、「丁寧に子供を見てくれる」の割合が30.1%で最も高く、次いで「通うのに便利な場所にある」が18.9%、「教育・保育が充実している」が10.7%となっている。「丁寧に子供を見てくれる」の割合は24年度調査(20.9%)から9.2ポイント増加している。(図I-2-13)

図I-2-12 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕－24年度調査との比較

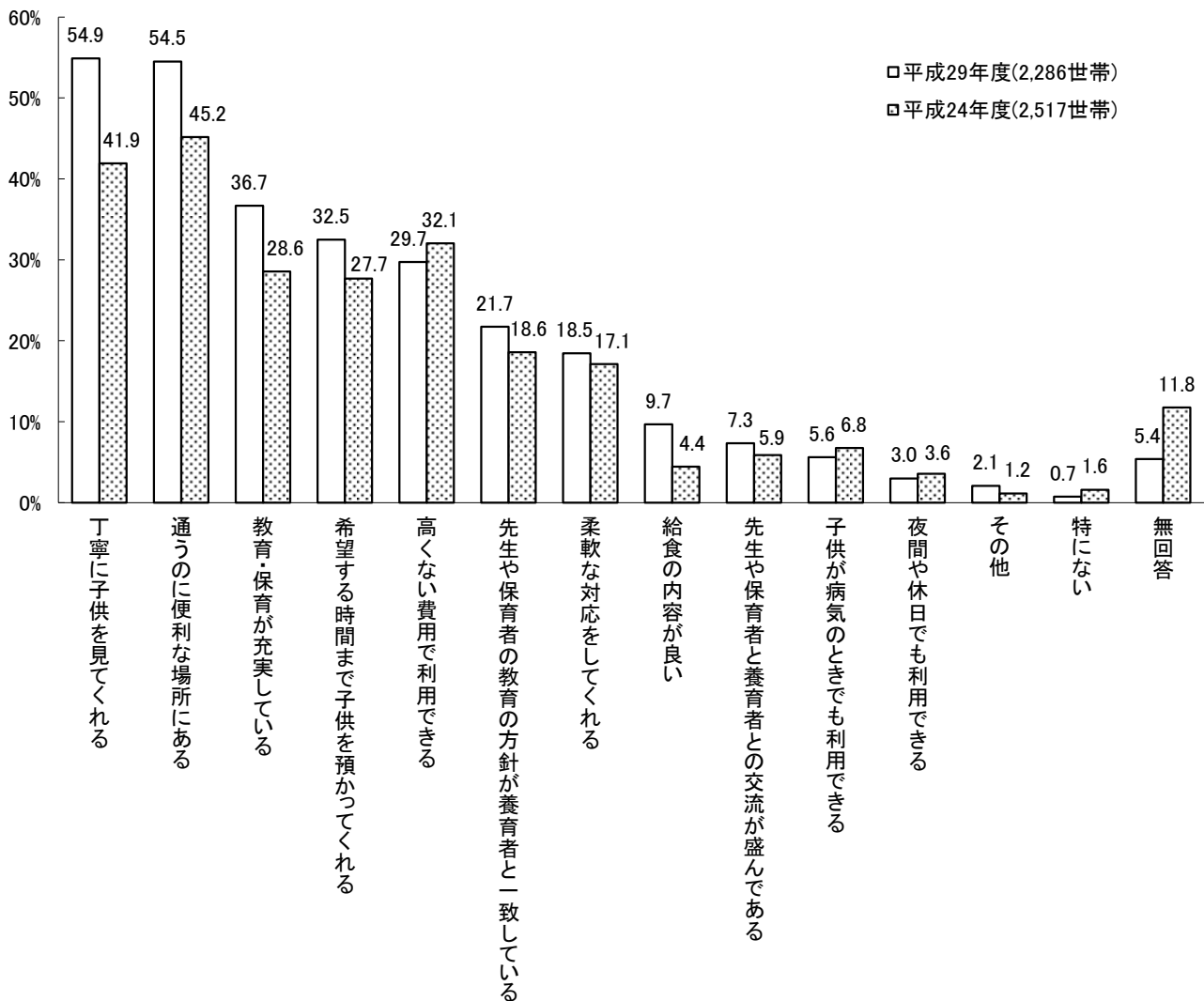
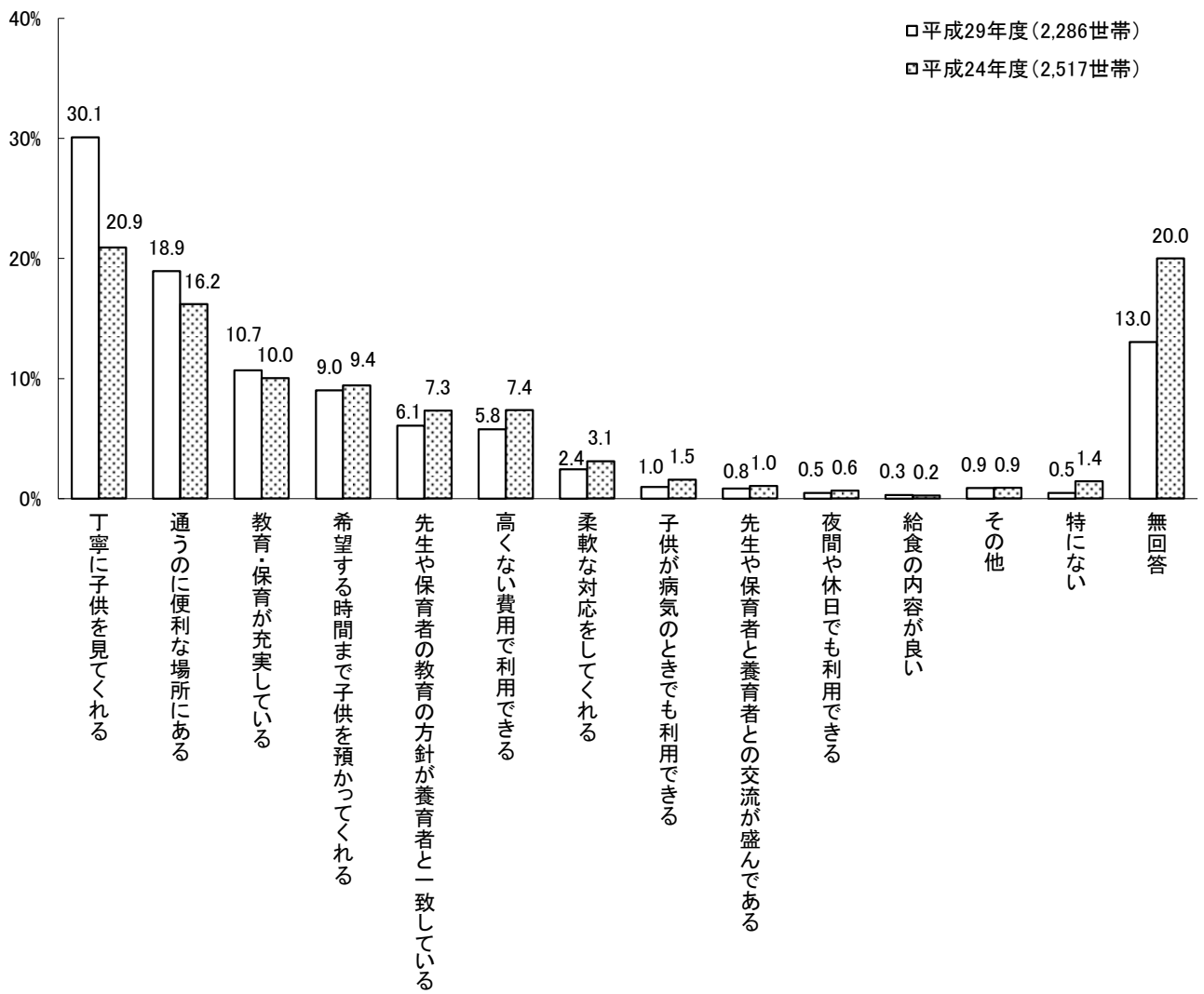


図 I -2-13 子供の預け先を選ぶ際に最も重視すること－24 年度調査との比較



(2) 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕

一日中の子供の預け先（主なところ）別

幼稚園では「丁寧に子供を見てくれる」の割合が最も高く5割超、認可保育所では「通うのに便利な場所にある」の割合が最も高く6割強

平日の日中、通園させたり預けたりしている子供（1,955人）の、子供の預け先を選ぶ際に重視することを、日中の子供の主な預け先別にみると、幼稚園では「丁寧に子供を見てくれる」の割合が58.3%で最も高く、次いで「教育・保育が充実している」が47.3%、「通うのに便利な場所にある」が44.9%となっている。

認可保育所（公立）と認可保育所（私立）では「通うのに便利な場所にある」の割合が最も高く（64.2%、63.2%）、次いで「丁寧に子供を見てくれる」（46.9%、55.1%）、「希望する時間まで子供を預かってくれる」（44.6%、42.3%）となっている。（表I-2-7）

表I-2-7 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕

一日中の子供の預け先（主なところ）別

	総数	預か 希望 する 時間 まで 子供 を	希 望 す る 時 間 ま で 子 供 を	夜 間 や 休 日 で も 利 用 で き る	子 供 が 病 気 の と き で も 利 用 で き る	教 育 ・ 保 育 が 充 実 し て い る	高 く な い 費 用 で 利 用 で き る	柔 軟 な 対 応 を し て く れ る	が 先 生 や 保 育 者 と 一 致 し て い る 方 針	先 生 や 保 育 者 と の 交 流 が 盛 ん で あ る	給 食 の 内 容 が 良 い	丁 寧 に 子 供 を 見 て く れ る	通 う の に 便 利 な 場 所 に あ る	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数	100.0 (1,955)	35.0	3.0	5.9	38.1	26.3	18.6	21.3	7.9	9.9	9.9	53.3	55.5	2.4	0.9	4.6
幼稚園	100.0 (679)	20.2	1.8	3.2	47.3	29.7	16.2	34.0	10.6	6.5	58.3	44.9	44.9	2.2	0.9	5.0
認可保育所(公立)	100.0 (480)	44.6	3.8	9.8	27.7	28.1	19.8	12.1	7.1	8.1	46.9	64.2	64.2	2.5	1.3	4.4
認可保育所(私立)	100.0 (454)	42.3	3.1	6.6	33.9	19.8	18.9	14.1	5.9	14.8	55.1	63.2	63.2	2.0	0.9	4.6
認証保育所 (都が独自の基準により認証する保育所)	100.0 (102)	45.1	2.9	3.9	40.2	20.6	25.5	18.6	9.8	11.8	43.1	53.9	53.9	4.9	1.0	4.9
認定こども園	100.0 (64)	40.6	-	4.7	45.3	31.3	18.8	18.8	7.8	21.9	48.4	46.9	46.9	3.1	-	1.6
小規模保育事業	100.0 (37)	59.5	5.4	5.4	24.3	32.4	18.9	10.8	5.4	10.8	45.9	67.6	67.6	2.7	-	2.7
職場内保育所 (事業所内保育事業・企業主導型保育事業)	100.0 (17)	35.3	11.8	5.9	41.2	17.6	17.6	11.8	-	11.8	58.8	70.6	70.6	-	-	5.9
ファミリー・サポート・センター	100.0 (1)	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
上記以外の保育施設	100.0 (45)	40.0	6.7	8.9	53.3	17.8	22.2	26.7	2.2	2.2	53.3	51.1	51.1	-	-	-
家庭的保育者(保育ママ)	100.0 (12)	16.7	-	16.7	50.0	16.7	16.7	16.7	-	16.7	91.7	58.3	58.3	-	-	-
ベビーシッター	100.0 (1)	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
障害児通所支援事業所	100.0 (9)	22.2	-	11.1	11.1	-	11.1	33.3	11.1	-	100.0	55.6	55.6	11.1	-	-
自分・配偶者以外の同居している家族	100.0 (9)	33.3	11.1	-	22.2	33.3	33.3	22.2	11.1	11.1	77.8	33.3	33.3	-	-	-
同居していない親族や友人	100.0 (14)	28.6	-	-	57.1	64.3	14.3	7.1	-	14.3	50.0	64.3	64.3	-	-	-
その他	100.0 (3)	-	-	-	-	33.3	-	66.7	-	33.3	66.7	66.7	66.7	33.3	-	-

## 9 子育てサービスの参加状況

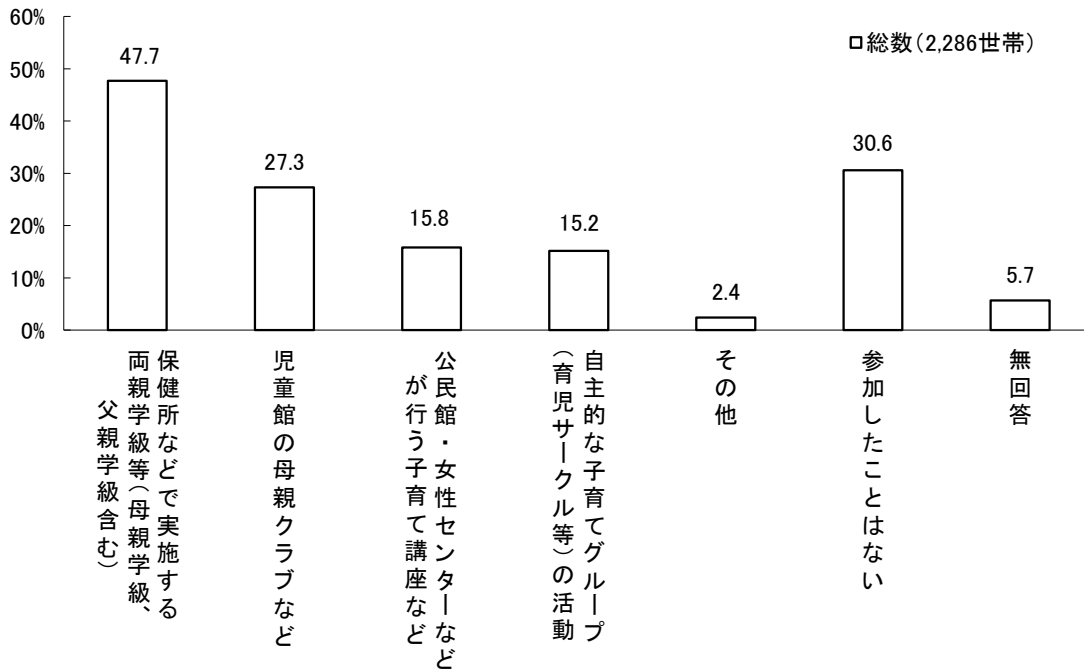
### (1) 子育てサービスの参加状況〔複数回答〕

「保健所などで実施する両親学級等」に「参加したことがある」割合は4割超

就学前の子供がいる 2,286 世帯に、子育てサービスの参加状況を聞いたところ、「保健所などで実施する両親学級等（母親学級、父親学級含む）」の割合が 47.7%で最も高くなっている。

(図 I-2-14)

図 I-2-14 子育てサービスの参加状況〔複数回答〕



(2) 子育てサービスの参加状況〔複数回答〕－地域別

「参加したことがある」割合は、区部は6割超で市部より高い

子育てサービスの参加状況を地域別にみると、「参加したことがある」割合は、区部が65.6%、市・町・村部は59.2%で、区部の方が6.4ポイント高くなっている。

「自主的な子育てグループ（育児サークル等）の活動」の割合は、市・町・村部が18.1%、区部は14.0%で、市・町・村部の方が4.1ポイント高くなっている。また、「児童館の母親クラブなど」の割合は区部が30.1%、市・町・村部は20.5%で、区部の方が9.6ポイント高くなっている。（表I-2-8）

表I-2-8 子育てサービスの参加状況〔複数回答〕－地域別

	総数	参加したことがある	保健所などで実施する両親学級等 （母親学級、父親学級含む）	児童館の母親クラブなど	公民館・女性センターなどが行う 子育て講座など	自主的な子育てグループ （育児サークル等）の活動	その他	参加したことはない	無回答
総数	100.0 (2,286)	63.7	47.7	27.3	15.8	15.2	2.4	30.6	5.7
区部	100.0 (1,617)	<u>65.6</u>	50.0	<u>30.1</u>	15.0	<u>14.0</u>	2.2	28.9	5.5
区中央部	100.0 (132)	68.2	51.5	35.6	12.9	9.1	1.5	24.2	7.6
区南部	100.0 (208)	62.5	45.7	40.4	10.1	12.5	1.9	36.5	1.0
区西南部	100.0 (232)	66.4	51.3	26.7	14.2	12.9	1.7	25.0	8.6
区西部	100.0 (268)	72.8	53.4	35.1	17.5	19.0	1.9	24.3	3.0
区西北部	100.0 (354)	63.6	52.5	28.5	17.8	11.3	1.7	28.5	7.9
区東北部	100.0 (202)	62.9	43.1	26.2	13.4	19.3	5.4	32.7	4.5
区東部	100.0 (221)	63.3	50.2	20.8	15.8	12.7	1.8	31.2	5.4
市・町・村部	100.0 (669)	<u>59.2</u>	42.2	<u>20.5</u>	17.8	<u>18.1</u>	2.8	34.7	6.1
西多摩	100.0 (89)	60.7	42.7	18.0	20.2	22.5	2.2	32.6	6.7
南多摩	100.0 (193)	60.1	42.5	21.8	17.6	15.5	3.1	36.3	3.6
北多摩西部	100.0 (81)	51.9	30.9	17.3	17.3	19.8	4.9	38.3	9.9
北多摩南部	100.0 (174)	65.5	50.0	22.4	19.5	20.7	1.7	27.6	6.9
北多摩北部	100.0 (132)	53.0	37.9	19.7	14.4	14.4	3.0	40.9	6.1



(3) 子育てサービスの参加状況〔複数回答〕－両親の有無別

「参加したことがある」割合は、両親世帯で6割強

子育てサービスの参加状況を両親の有無別にみると、「参加したことがある」割合は、両親世帯が64.9%、ひとり親世帯は38.0%で、両親世帯の方が26.9ポイント高くなっている。(表I-2-9)

表 I-2-9 子育てサービスの参加状況〔複数回答〕－両親の有無別

	総数	参加したことがある						参加したことはない	無回答
		(母親学級、父親学級含む)	保健所などで実施する両親学級等	児童館の母親クラブなど	子育て講座など	公民館・女性センターなどが行う	自主的な子育てグループ(育児サークル等)の活動		
総数	100.0 (2,286)	63.7	47.7	27.3	15.8	15.2	2.4	30.6	5.7
両親世帯	100.0 (2,186)	<u>64.9</u>	48.5	27.8	16.1	15.6	2.3	29.7	5.4
ひとり親世帯	100.0 (100)	<u>38.0</u>	30.0	16.0	10.0	6.0	4.0	49.0	13.0

(4) 子育てサービスの参加状況〔複数回答〕－多胎児がいる世帯別

「参加したことがある」割合は、多胎児がいる世帯で6割

子育てサービスの参加状況を多胎児がいる世帯別にみると、「参加したことがある」割合は、多胎児がいる世帯が60.0%、多胎児がいない世帯は63.8%で、多胎児がいない世帯の方が3.8ポイント高くなっている。(表I-2-10)

表I-2-10 子育てサービスの参加状況〔複数回答〕－多胎児がいる世帯別

	総数	参加したことがある	保健所などで実施する両親学級等 (母親学級、父親学級含む)	児童館の母親クラブなど	公民館・女性センターなどが行う 子育て講座など	自主的な子育てグループ (育児サークル等)の活動	その他	参加したことはない	無回答
総数	100.0 (2,286)	63.7	47.7	27.3	15.8	15.2	2.4	30.6	5.7
多胎児がいる世帯	100.0 (35)	<u>60.0</u>	45.7	22.9	-	11.4	2.9	34.3	5.7
多胎児がいない世帯	100.0 (2,247)	<u>63.8</u>	47.8	27.4	16.1	15.2	2.4	30.5	5.7

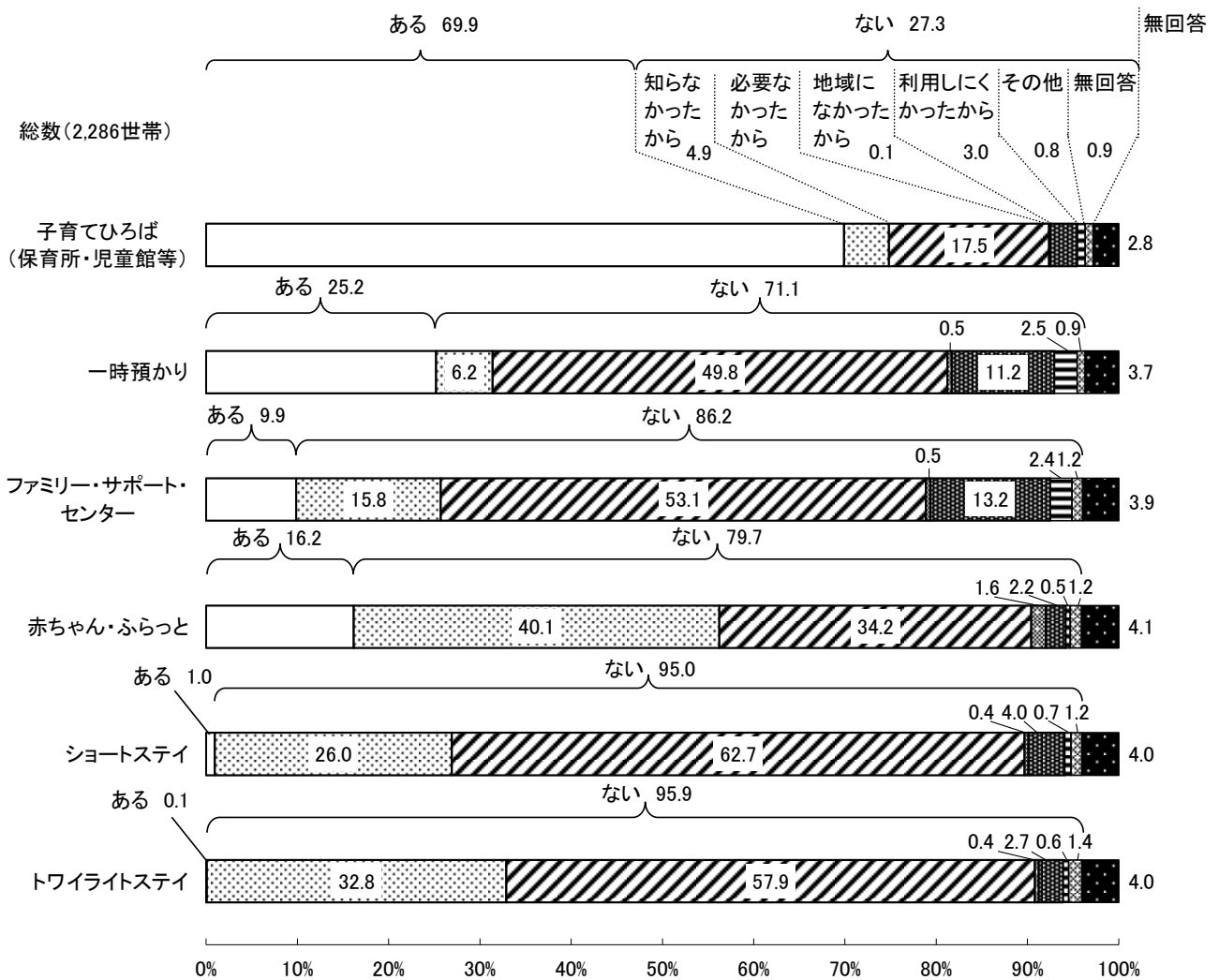
## 10 子育て支援サービスの利用の有無とサービスを利用しない理由

### (1) 子育て支援サービスの利用の有無とサービスを利用しない理由

「子育てひろば」を利用したことがある割合は約7割

就学前の子供がいる2,286世帯に、子育て支援サービスの利用の有無について聞いたところ、利用したことが「ある」の割合は、「子育てひろば（保育所・児童館等）」が69.9%で最も高くなっている。一方、「赤ちゃん・ふらっと」は、「利用したことがない」割合が79.7%で、理由は「知らなかったから」の割合が40.1%で最も高くなっている。（図I-2-15）

図I-2-15 子育て支援サービスの利用の有無とサービスを利用しない理由



(2) 子育て支援サービスの利用の有無とサービスを利用しない理由—両親の有無別

「一時預かり」を「利用したことがある」割合は、両親世帯が2割強、ひとり親世帯は3割強

子育て支援サービスの利用の有無とサービスを利用しない理由を、両親の有無別にみると、「子育てひろば（保育所・児童館等）」を「利用したことがある」割合は、両親世帯が70.6%、ひとり親世帯は55.0%で、両親世帯が15.6ポイント高くなっている。

「一時預かり」を「利用したことがある」割合は、ひとり親世帯が34.0%、両親世帯は24.8%で、ひとり親世帯が9.2ポイント高くなっている。（表I-2-11）

表I-2-11 子育て支援サービスの利用の有無とサービスを利用しない理由—両親の有無別

		総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	地域になかったから	利用しにくかったから	その他	無回答	無回答
子育てひろば (保育所・児童館等)	総数	100.0 (2,286)	69.9	27.3	4.9	17.5	0.1	3.0	0.8	0.9	2.8
	両親世帯	100.0 (2,186)	<u>70.6</u>	26.8	4.8	17.2	0.1	2.9	0.8	0.9	2.6
	ひとり親世帯	100.0 (100)	<u>55.0</u>	38.0	8.0	24.0	-	4.0	1.0	1.0	7.0
一時預かり	総数	100.0 (2,286)	25.2	71.1	6.2	49.8	0.5	11.2	2.5	0.9	3.7
	両親世帯	100.0 (2,186)	<u>24.8</u>	71.8	6.1	50.4	0.5	11.3	2.6	0.9	3.4
	ひとり親世帯	100.0 (100)	<u>34.0</u>	57.0	8.0	37.0	-	10.0	1.0	1.0	9.0
ファミリー・サポート ・センター	総数	100.0 (2,286)	9.9	86.2	15.8	53.1	0.5	13.2	2.4	1.2	3.9
	両親世帯	100.0 (2,186)	9.7	86.6	15.7	53.5	0.5	13.2	2.4	1.2	3.7
	ひとり親世帯	100.0 (100)	13.0	78.0	18.0	45.0	-	12.0	2.0	1.0	9.0
赤ちゃん・ふらっと	総数	100.0 (2,286)	16.2	79.7	40.1	34.2	1.6	2.2	0.5	1.2	4.1
	両親世帯	100.0 (2,186)	16.4	79.7	40.4	33.8	1.7	2.1	0.5	1.2	3.8
	ひとり親世帯	100.0 (100)	11.0	80.0	33.0	42.0	-	4.0	-	1.0	9.0
ショートステイ	総数	100.0 (2,286)	1.0	95.0	26.0	62.7	0.4	4.0	0.7	1.2	4.0
	両親世帯	100.0 (2,186)	0.9	95.3	25.8	63.2	0.5	4.0	0.7	1.1	3.8
	ひとり親世帯	100.0 (100)	2.0	89.0	29.0	53.0	-	4.0	1.0	2.0	9.0
トワイライトステイ	総数	100.0 (2,286)	0.1	95.9	32.8	57.9	0.4	2.7	0.6	1.4	4.0
	両親世帯	100.0 (2,186)	0.0	96.2	32.4	58.6	0.4	2.7	0.6	1.4	3.8
	ひとり親世帯	100.0 (100)	1.0	90.0	41.0	43.0	1.0	3.0	-	2.0	9.0

(3) 子育て支援サービスの利用の有無とサービスを利用しない理由－多胎児がいる世帯別

多胎児がいる世帯の「ファミリー・サポート・センター」の利用割合は2割強

子育て支援サービスの利用の有無とサービスを利用しない理由を、多胎児がいる世帯別にみると、「ファミリー・サポート・センター」を「利用したことがある」の割合は、多胎児がいる世帯で22.9%、多胎児がいない世帯で9.7%となっている。

多胎児がいる世帯では、「一時預かり」「赤ちゃん・ふらっと」「ショートステイ」において、利用したことがない理由が「利用しにくかったから」の割合が、多胎児がいない世帯を上回っている(一時預かり 25.7%、11.0%、赤ちゃん・ふらっと 8.6%、2.1%、ショートステイ 11.4%、3.9%)。(表 I-2-12)

表 I-2-12 子育て支援サービスの利用の有無とサービスを利用しない理由  
－多胎児がいる世帯別

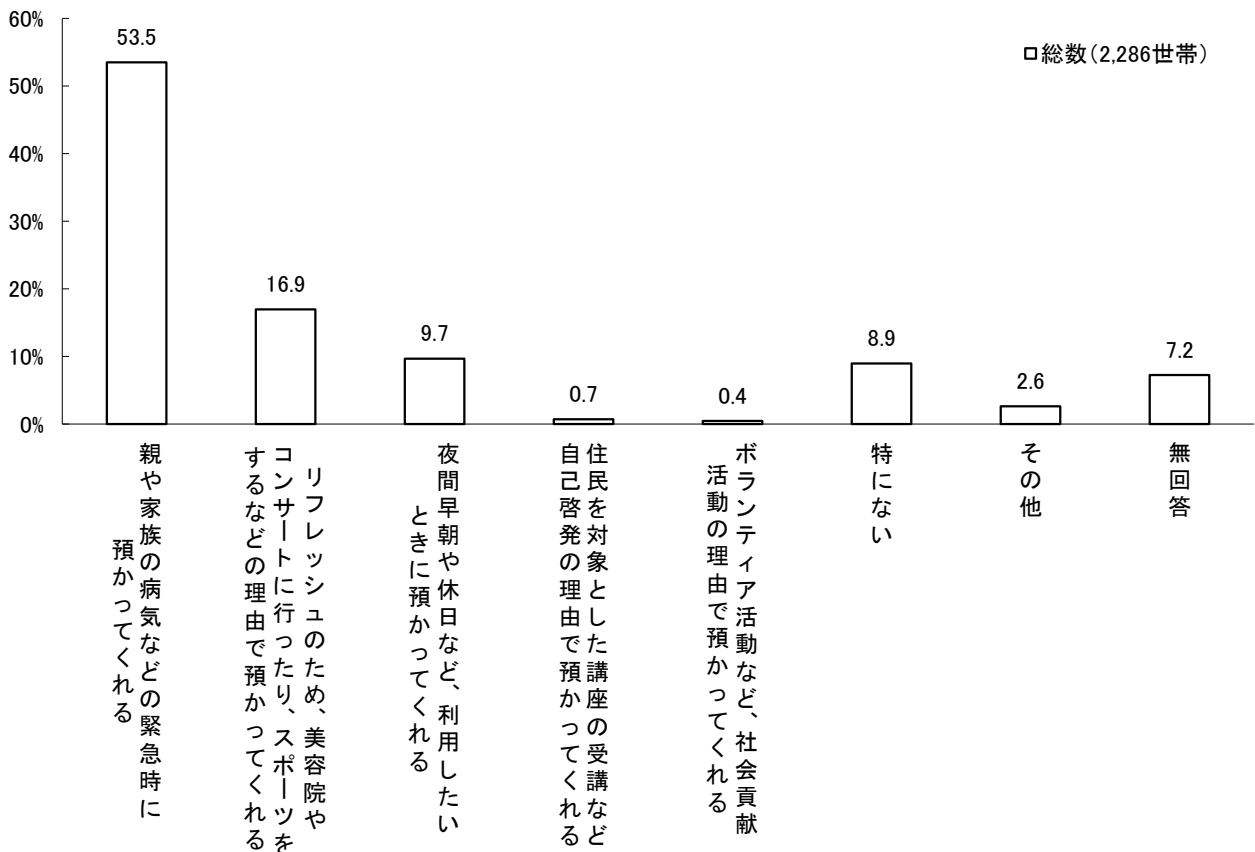
		総数	利用したことがある	利用したことがない	利用しなかった理由						無回答
					知らなかったから	必要なかったから	地域になかったから	利用しにくかったから	その他	無回答	
子育てひろば (保育所・児童館等)	総数	100.0 (2,286)	69.9	27.3	4.9	17.5	0.1	3.0	0.8	0.9	2.8
	多胎児がいる世帯	100.0 (35)	74.3	25.7	8.6	8.6	2.9	2.9	2.9	-	-
	多胎児がいない世帯	100.0 (2,247)	69.8	27.3	4.9	17.7	0.1	3.0	0.8	0.9	2.8
一時預かり	総数	100.0 (2,286)	25.2	71.1	6.2	49.8	0.5	11.2	2.5	0.9	3.7
	多胎児がいる世帯	100.0 (35)	20.0	77.1	5.7	40.0	2.9	<u>25.7</u>	2.9	-	2.9
	多胎児がいない世帯	100.0 (2,247)	25.3	71.0	6.2	49.9	0.4	<u>11.0</u>	2.5	0.9	3.7
ファミリー・サポート ・センター	総数	100.0 (2,286)	9.9	86.2	15.8	53.1	0.5	13.2	2.4	1.2	3.9
	多胎児がいる世帯	100.0 (35)	<u>22.9</u>	74.3	8.6	42.9	2.9	17.1	2.9	-	2.9
	多胎児がいない世帯	100.0 (2,247)	<u>9.7</u>	86.3	16.0	53.2	0.4	13.1	2.4	1.2	4.0
赤ちゃん・ふらっと	総数	100.0 (2,286)	16.2	79.7	40.1	34.2	1.6	2.2	0.5	1.2	4.1
	多胎児がいる世帯	100.0 (35)	-	97.1	48.6	37.1	-	<u>8.6</u>	-	2.9	2.9
	多胎児がいない世帯	100.0 (2,247)	16.4	79.5	40.0	34.1	1.6	<u>2.1</u>	0.5	1.2	4.1
ショートステイ	総数	100.0 (2,286)	1.0	95.0	26.0	62.7	0.4	4.0	0.7	1.2	4.0
	多胎児がいる世帯	100.0 (35)	-	97.1	28.6	54.3	-	<u>11.4</u>	-	2.9	2.9
	多胎児がいない世帯	100.0 (2,247)	1.0	95.0	25.9	62.8	0.4	<u>3.9</u>	0.7	1.2	4.0
トワイライトステイ	総数	100.0 (2,286)	0.1	95.9	32.8	57.9	0.4	2.7	0.6	1.4	4.0
	多胎児がいる世帯	100.0 (35)	-	97.1	34.3	54.3	-	5.7	-	2.9	2.9
	多胎児がいない世帯	100.0 (2,247)	0.1	95.9	32.8	57.9	0.4	2.6	0.6	1.4	4.0

## 11 あればよいと思う在宅支援サービス

「親や家族の病気などの緊急時に預かってくれる」の割合は5割強

就学前の子供がいる2,286世帯に、どのような在宅支援サービスがあればよいと思うか聞いたところ、「親や家族の病気などの緊急時に預かってくれる」の割合が53.5%で最も高く、次いで「リフレッシュのため、美容院やコンサートに行ったり、スポーツをするなどの理由で預かってくれる」が16.9%となっている。(図 I-2-16)

図 I-2-16 あればよいと思う在宅支援サービス



### 第3章 小学生の子供がいる世帯

小学生の子供がいる 1,992 世帯の小学生の子供 2,534 人の状況について述べる。

#### 1 放課後過ごしている場所

##### (1) 放課後過ごしている場所〔複数回答〕と主に過ごしている場所

放課後主に過ごしている場所は、「自宅」が4割超

小学生の子供 2,534 人について、放課後をどこで過ごしているか聞いたところ、「自宅」の割合が 70.8% で最も高く、次いで「塾や習い事（地域のスポーツクラブを含む）」が 59.9% となっている。（図 I-3-1）

また、主に過ごしている場所では、「自宅」の割合が 48.4%、次いで「学童クラブ」が 16.4%、「塾や習い事（地域のスポーツクラブを含む）」が 13.8% となっている。（図 I-3-2）

図 I-3-1 放課後過ごしている場所〔複数回答〕

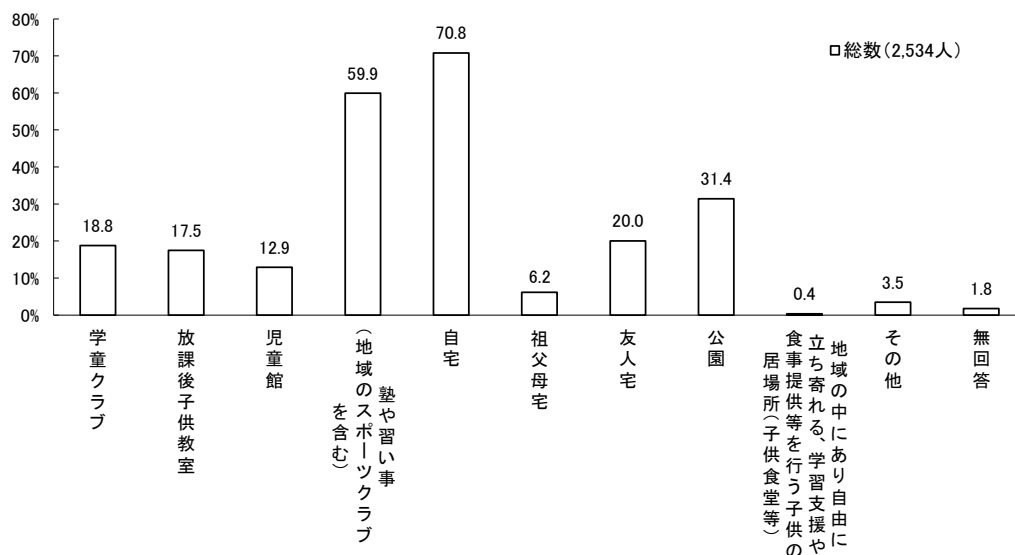
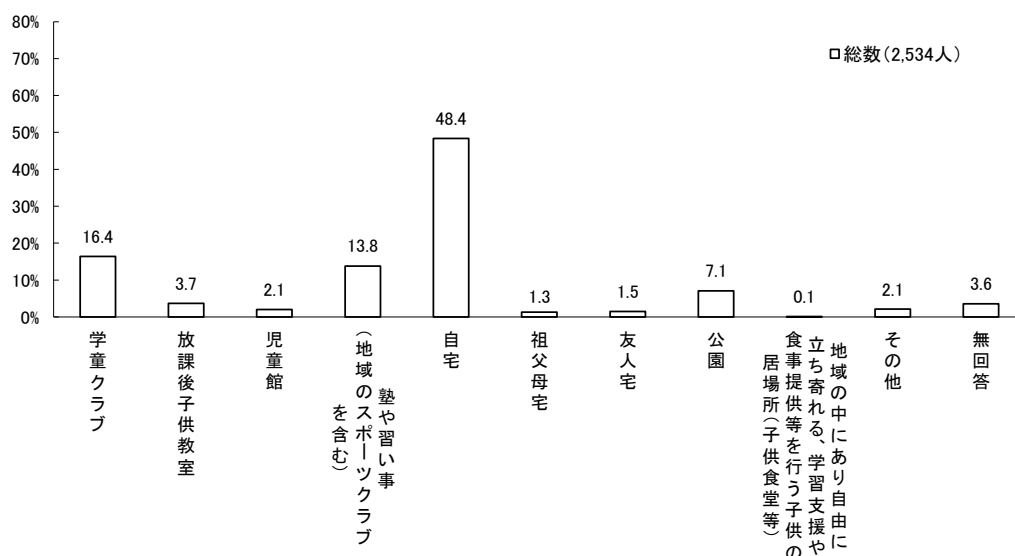


図 I-3-2 放課後主に過ごしている場所



(2) 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－家族類型別

「自宅」で過ごす割合は、親と子の世帯で約7割、祖父母と親と子の世帯で7割超

放課後過ごしている場所を家族類型別にみると、「自宅」の割合は、祖父母と親と子の世帯が75.6%、親と子の世帯は70.4%で、祖父母と親と子の世帯の方が5.2ポイント高くなっている。

一方、「学童クラブ」の割合は、親と子の世帯が18.9%、祖父母と親と子の世帯は18.0%で、親と子の世帯の方が0.9ポイント高くなっている。(表 I-3-1)

表 I-3-1 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－家族類型別

	総数	学童クラブ	放課後子供教室	児童館	クラブや習い事(地域のスポーツを含む)	自宅	祖父母宅	友人宅	公園	地域の中心にあり自由に行き来できる、学童の居場所(子供食堂等)	その他	無回答
総数	100.0 (2,534)	18.8	17.5	12.9	59.9	70.8	6.2	20.0	31.4	0.4	3.5	1.8
親と子	100.0 (2,343)	<u>18.9</u>	17.1	12.8	59.7	<u>70.4</u>	6.5	19.6	30.7	0.4	3.5	1.8
祖父母と親と子	100.0 (172)	<u>18.0</u>	20.3	15.1	61.6	<u>75.6</u>	1.7	22.7	37.8	-	2.9	0.6
その他	100.0 (14)	7.1	28.6	7.1	57.1	78.6	-	42.9	57.1	-	7.1	7.1



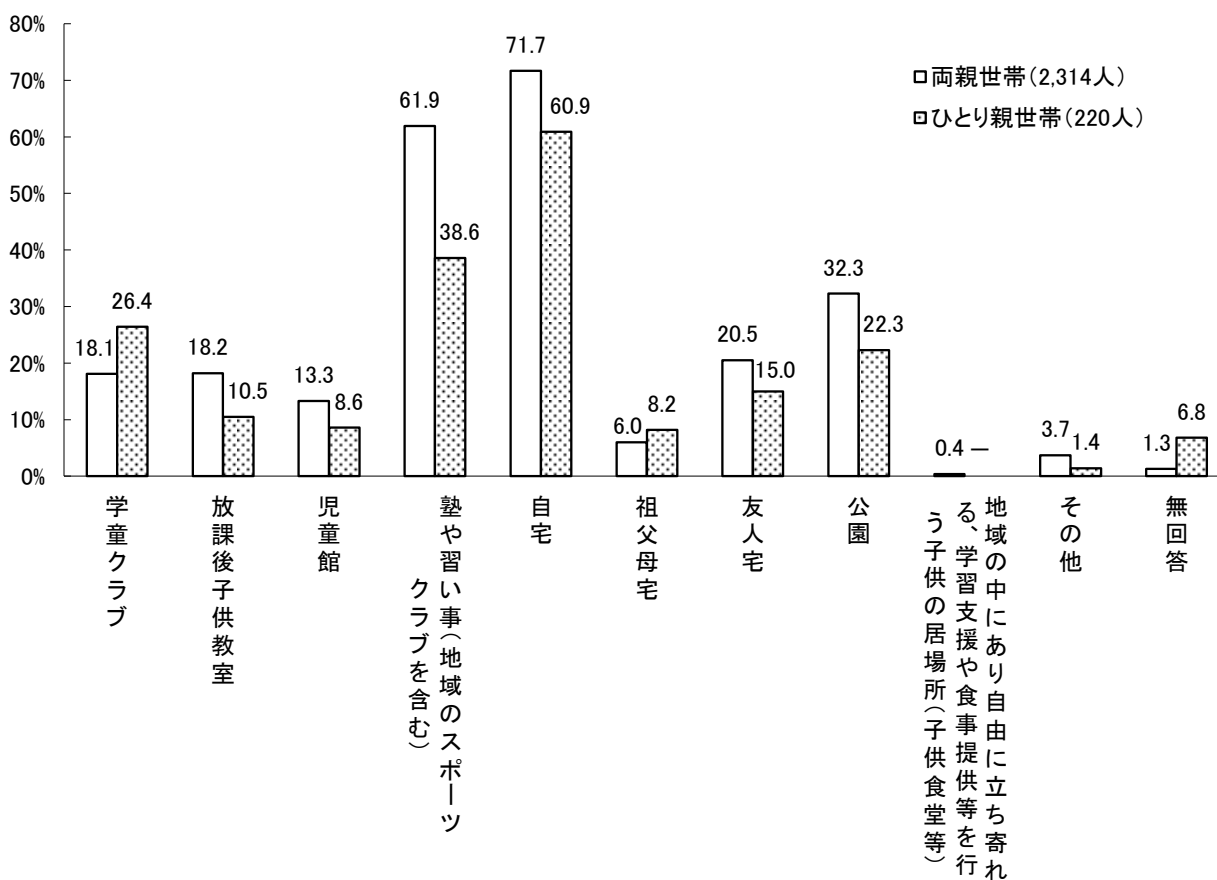
(3) 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－両親の有無別

「学童クラブ」で過ごす割合は両親世帯が1割超、ひとり親世帯が2割超

放課後過ごしている場所を両親の有無別にみると、「自宅」の割合は、両親世帯が71.7%、ひとり親世帯は60.9%で、両親世帯の方が10.8ポイントが高くなっている。また、「塾や習い事(地域のスポーツクラブを含む)」の割合は、両親世帯が61.9%、ひとり親世帯は38.6%で、両親世帯の方が23.3ポイント高くなっている。

一方、「学童クラブ」の割合は、ひとり親世帯が26.4%、両親世帯は18.1%でひとり親世帯の方が8.3ポイント高くなっている。(図I-3-3)

図I-3-3 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－両親の有無別



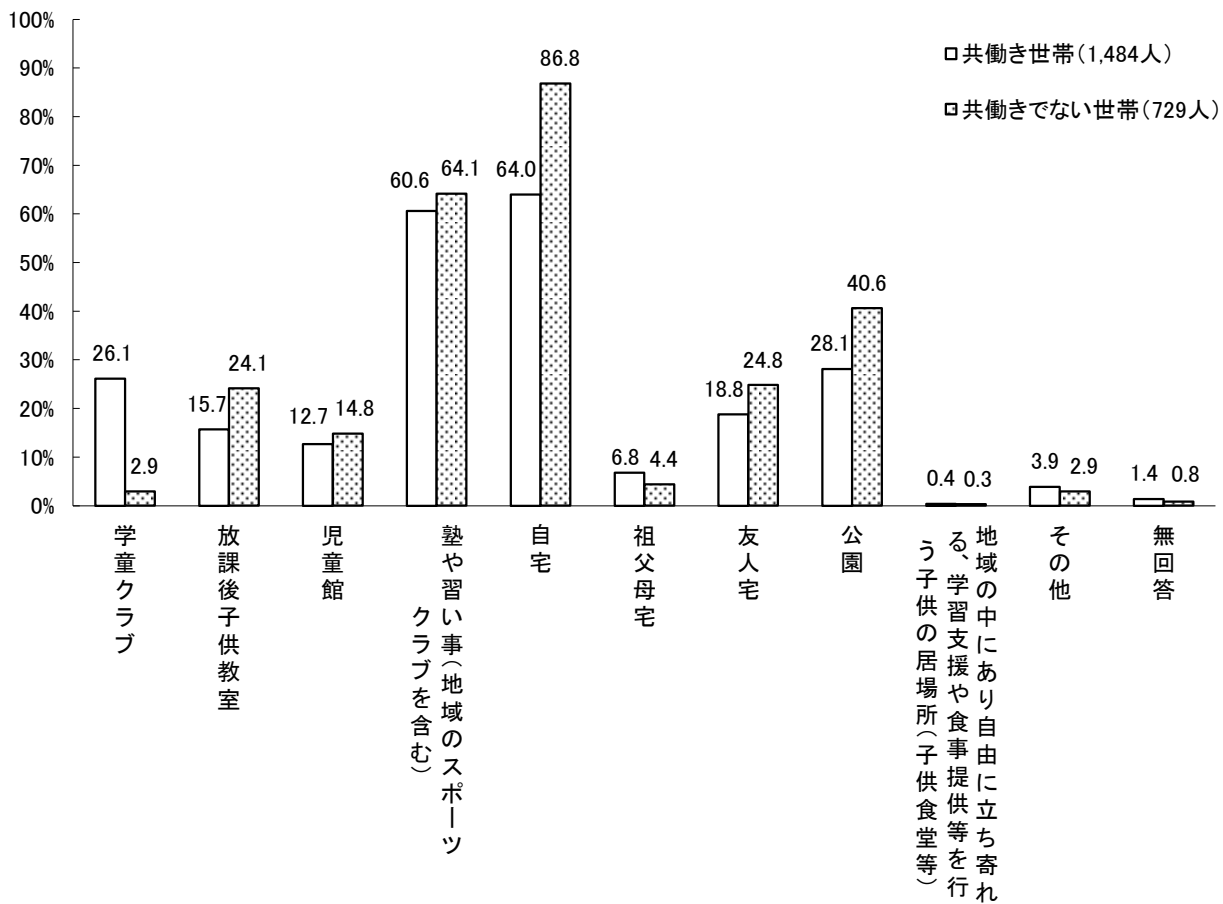
(4) 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－共働きの状況別

「学童クラブ」で過ごす割合は、共働き世帯では2割超

放課後過ごしている場所を共働きの状況別にみると、「学童クラブ」の割合は、共働き世帯が26.1%、共働きでない世帯は2.9%で、共働き世帯の方が23.2ポイント高くなっている。

一方、「自宅」の割合は、共働きでない世帯が86.8%、共働き世帯は64.0%で、共働きでない世帯の方が22.8ポイント高くなっている。(図I-3-4)

図I-3-4 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－共働きの状況別



(注) 小学生の子供2,534人から、ひとり親世帯の子供220人と、両親世帯だが、共働きかどうか不明な世帯の子供101人を除いた2,213人について集計した。

(5) 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－子供の学年別

「学童クラブ」の利用割合は、1～3年生では2割超～3割超、4～6年生では1割以下

放課後過ごしている場所を子供の学年別にみると、「学童クラブ」の割合は、1年生が35.4%、2年生が35.9%、3年生が25.1%であるのに対し、4年生が7.5%、5年生が1.5%、6年生が1.9%となっている。

「友人宅」の割合は、1年生から5年生まで増加している（8.5%～28.5%）。（表 I-3-2）

表 I-3-2 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－子供の学年別

	総数	学童クラブ	放課後子供教室	児童館	クラブや習い事（地域のスポーツを含む）	自宅	祖父母宅	友人宅	公園	地域の中心にあり自由な立ち寄りや学習や食事提供等を行う子供の居場所（子供食堂等）	その他	無回答
総数	100.0 (2,534)	18.8	17.5	12.9	59.9	70.8	6.2	20.0	31.4	0.4	3.5	1.8
1年生	100.0 (457)	<u>35.4</u>	25.6	11.6	52.5	60.6	6.3	<u>8.5</u>	18.6	0.2	5.0	0.9
2年生	100.0 (435)	<u>35.9</u>	21.1	10.8	59.5	59.5	4.8	<u>14.0</u>	26.7	0.2	4.1	2.5
3年生	100.0 (434)	<u>25.1</u>	22.4	13.1	62.2	66.8	7.8	<u>22.4</u>	32.7	0.5	2.8	1.2
4年生	100.0 (413)	<u>7.5</u>	11.1	14.0	63.0	78.0	7.0	<u>24.2</u>	39.7	0.7	3.1	2.4
5年生	100.0 (389)	<u>1.5</u>	13.4	13.9	59.9	80.5	6.2	<u>28.5</u>	40.6	0.3	3.6	2.3
6年生	100.0 (365)	<u>1.9</u>	7.7	14.0	63.6	82.7	4.4	25.8	32.3	0.3	1.9	1.6

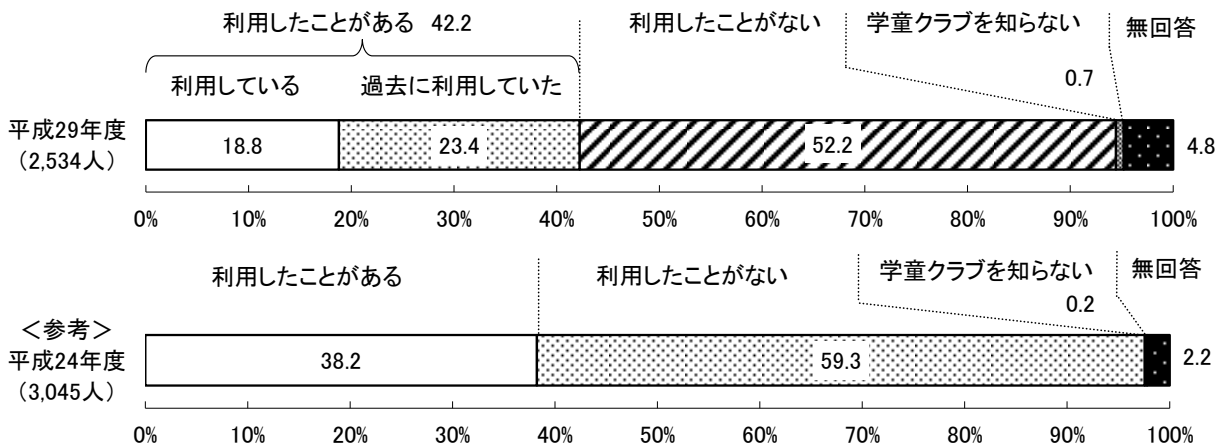
## 2 学童クラブの利用状況

### (1) 学童クラブの利用状況

「利用したことがある」割合が4割強

小学生の子供 2,534 人について、学童クラブの利用状況を聞いたところ、「利用している」、「過去に利用していた」を合わせた「利用したことがある」の割合は42.2%となっている。(図 I-3-5)

図 I-3-5 学童クラブの利用状況

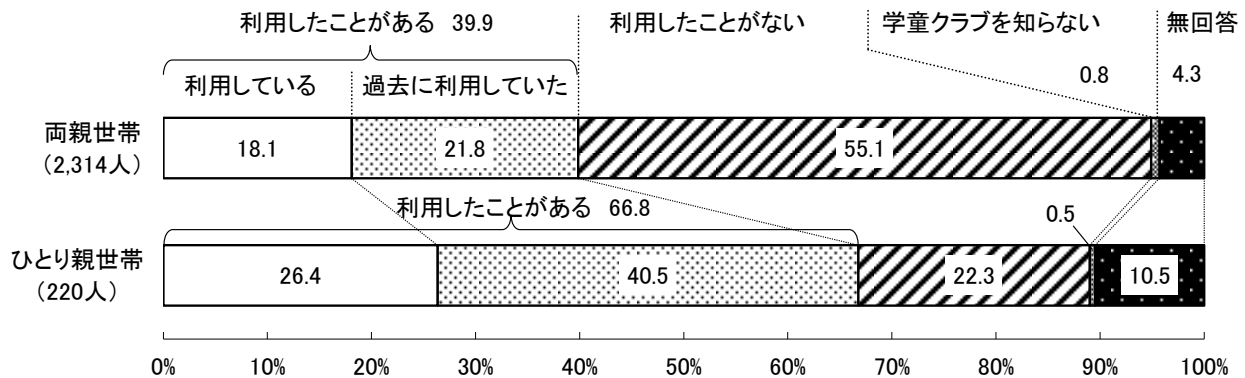


### (2) 学童クラブの利用状況－両親の有無別

学童クラブを「利用したことがある」割合は、ひとり親世帯では6割超

学童クラブの利用状況を両親の有無別にみると、ひとり親世帯では、「利用している」、「過去に利用していた」を合わせた「利用したことがある」の割合は66.8%で6割を超えている。(図 I-3-6)

図 I-3-6 学童クラブの利用状況－両親の有無別



(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

(3) 学童クラブの利用状況－母の従業上の地位別

学童クラブを「利用したことがある」割合は、母が正規の職員・従業員の世帯で8割強

学童クラブの利用状況を母の従業上の地位別にみると、「利用したことがある」の割合は、正規の職員・従業員では82.3%で8割を超えている。一方、非就業では12.4%となっている。(表 I-3-3)

表 I-3-3 学童クラブの利用状況－母の従業上の地位別

	総数	利用したことがある	利用したことがない	学童クラブを知らない	無回答
総数	100.0 (2,511)	42.2	52.3	0.8	4.7
就業	100.0 (1,686)	56.3	38.8	0.4	4.5
自営業	100.0 (136)	52.9	42.6	1.5	2.9
正規の職員・従業員	100.0 (542)	<u>82.3</u>	12.9	0.2	4.6
会社・団体等の役員	100.0 (23)	65.2	30.4	-	4.3
パート・アルバイト	100.0 (806)	40.3	55.7	0.1	3.8
労働者派遣事業所の派遣社員	100.0 (36)	63.9	33.3	-	2.8
契約社員・嘱託	100.0 (62)	53.2	30.6	1.6	14.5
その他	100.0 (27)	29.6	70.4	-	-
非就業	100.0 (748)	<u>12.4</u>	81.4	1.7	4.4

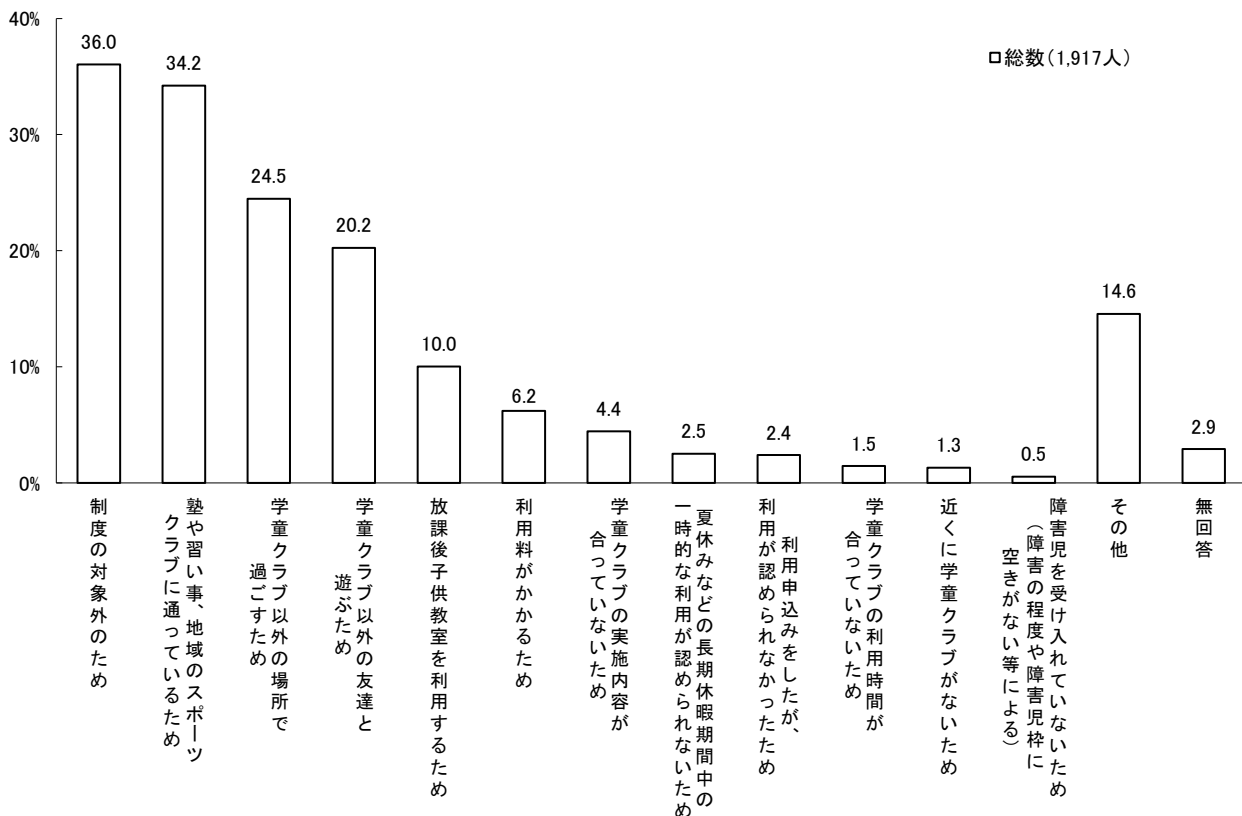
(注) 総数は小学生の子供 2,534 人のうち、父子世帯の子供 23 人を除いた 2,511 人である。

(4) 学童クラブを利用しない理由〔複数回答〕

「制度の対象外のため」が3割超

現在、学童クラブを利用していない子供（1,917人）について、学童クラブを利用しない理由を聞いたところ、「制度の対象外のため」の割合が36.0%で最も高く、次いで「塾や習い事、地域のスポーツクラブに通っているため」が34.2%、「学童クラブ以外の場所で過ごすため」が24.5%となっている。（図I-3-7）

図I-3-7 学童クラブを利用しない理由〔複数回答〕



(5) 学童クラブを利用しない理由〔複数回答〕－地域別

「制度の対象外のため」は、区部が3割強、市・町・村部が4割超

学童クラブを利用しない理由を地域別に見ると、「制度の対象外のため」の割合は、市・町・村部が45.2%、区部は31.7%で、市・町・村部の方が高くなっている。

一方、「学童クラブ以外の場所で過ごすため」の割合は、区部が26.4%、市・町・村部は20.4%で、区部の方が高くなっている。(表 I-3-4)

表 I-3-4 学童クラブを利用しない理由〔複数回答〕－地域別

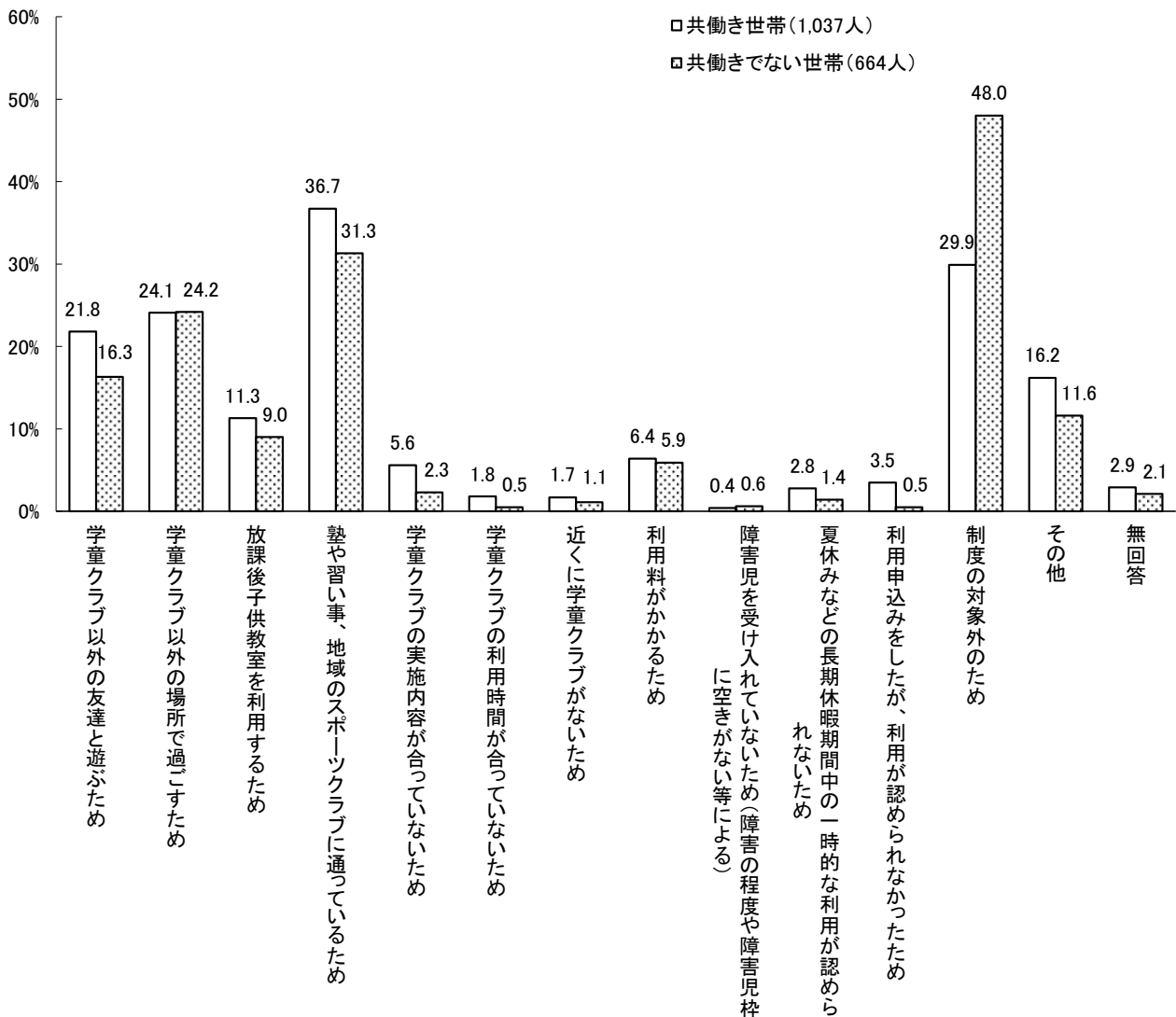
	総数	学童クラブ以外の友達と遊ぶため	学童クラブ以外の場所で過ごすため	放課後子供教室を利用するため	に塾や習い事、地域のスポーツクラブに通っているため	学童クラブの実施内容が合っていないため	学童クラブの利用時間が合っていないため	近くに学童クラブがないため	利用料がかかるため	障害児を受け入れていないため (障害の程度や障害児枠に空きがない等による)	一時的な利用が認められないため	夏休みなどの長期休暇期間中の利用申込みをしたが、利用が認められなかったため	制度の対象外のため	その他	無回答
総数	100.0 (1,917)	20.2	24.5	10.0	34.2	4.4	1.5	1.3	6.2	0.5	2.5	2.4	36.0	14.6	2.9
区部	100.0 (1,295)	20.8	<u>26.4</u>	12.6	37.6	3.9	1.5	1.9	5.6	0.6	2.2	2.2	<u>31.7</u>	14.6	3.1
区中央部	100.0 (79)	10.1	17.7	8.9	41.8	3.8	-	2.5	3.8	-	-	3.8	34.2	20.3	3.8
区南部	100.0 (155)	30.3	32.9	14.8	41.3	3.9	2.6	4.5	3.2	0.6	1.3	-	13.5	15.5	5.8
区西南部	100.0 (155)	20.6	26.5	3.2	44.5	3.9	1.3	1.3	3.9	-	3.9	-	35.5	14.8	4.5
区西部	100.0 (233)	12.0	24.5	9.0	38.6	6.4	0.9	3.0	5.2	0.4	2.6	3.9	38.6	12.0	2.6
区西北部	100.0 (256)	21.1	26.2	14.1	35.2	2.0	1.2	1.2	3.9	-	1.6	1.6	38.3	16.4	2.0
区東北部	100.0 (214)	22.4	30.8	17.3	31.3	3.3	1.4	0.9	13.1	-	4.7	5.6	29.4	11.7	1.9
区東部	100.0 (203)	25.6	22.7	16.7	36.5	4.4	2.5	0.5	3.9	3.0	0.5	0.5	27.6	15.3	3.0
市・町・村部	100.0 (622)	19.1	<u>20.4</u>	4.7	27.2	5.5	1.4	0.2	7.6	0.3	3.1	2.7	<u>45.2</u>	14.5	2.6
西多摩	100.0 (68)	25.0	27.9	1.5	22.1	4.4	1.5	-	5.9	-	-	11.8	32.4	14.7	2.9
南多摩	100.0 (204)	14.2	19.1	5.4	28.9	3.9	0.5	-	11.3	-	3.4	1.0	47.5	10.8	4.9
北多摩西部	100.0 (75)	21.3	16.0	5.3	28.0	8.0	-	1.3	4.0	2.7	2.7	6.7	44.0	8.0	2.7
北多摩南部	100.0 (135)	18.5	23.7	8.1	31.1	7.4	4.4	-	6.7	-	2.2	0.7	51.1	13.3	0.7
北多摩北部	100.0 (140)	22.9	17.9	1.4	22.9	5.0	0.7	-	5.7	-	5.0	0.7	42.9	24.3	0.7

(6) 学童クラブを利用しない理由〔複数回答〕－共働きの状況別

共働き世帯では、「塾や習い事、地域のスポーツクラブに通っているため」の割合が最も高い

学童クラブを利用しない理由を共働きの状況別にみると、「塾や習い事、地域のスポーツクラブに通っているため」の割合は、共働き世帯が 36.7%、共働きでない世帯は 31.3%で、共働き世帯の方が高くなっている。(図 I-3-8)

図 I-3-8 学童クラブを利用しない理由〔複数回答〕－共働きの状況別



(注) 学童クラブを利用していない子供 1,917 人から、ひとり親世帯の子供 138 人と、両親世帯だが、共働きかどうか不明な世帯の子供 78 人を除いた 1,701 人について集計した。

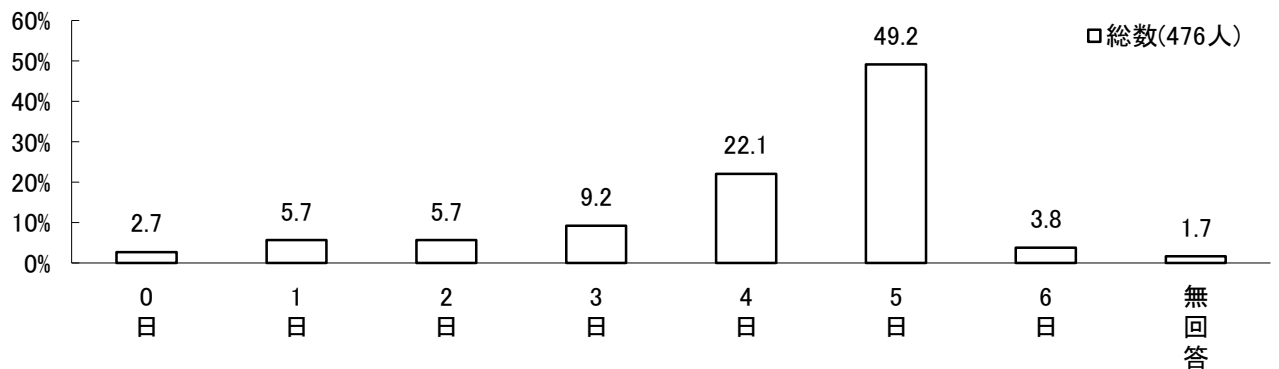


(7) 学童クラブの出席日数

1週間の出席日数は「5日」が約5割

学童クラブで過ごしている子供(476人)について、学童クラブの出席日数を聞いたところ、「5日」の割合が49.2%で最も高く、次いで「4日」の割合が22.1%となっている。(図I-3-9)

図I-3-9 学童クラブの出席日数

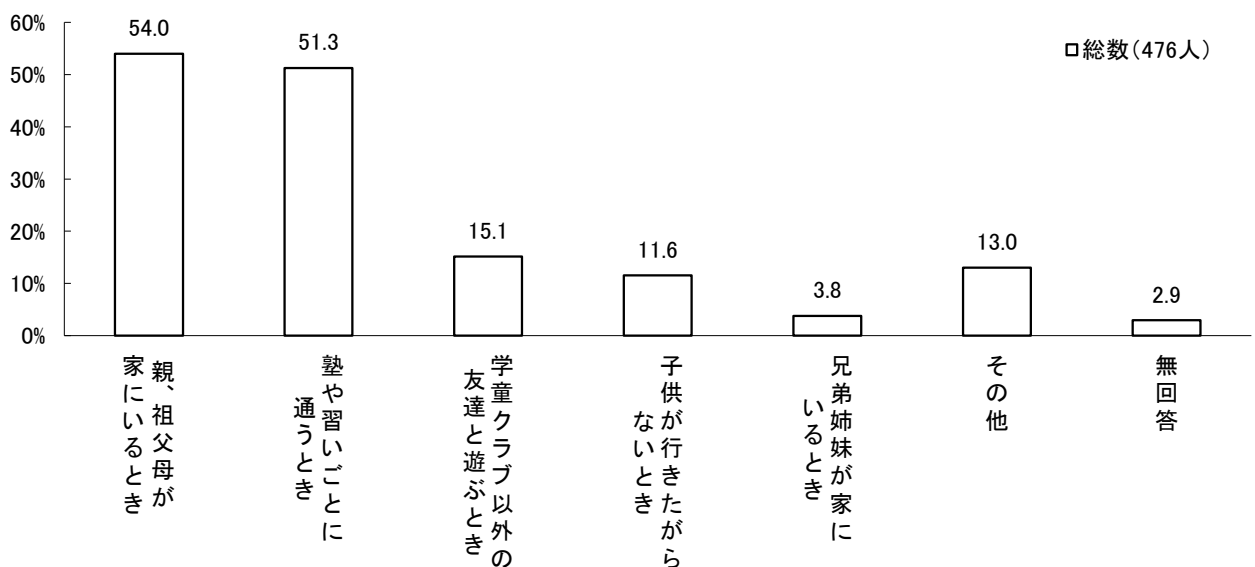


(8) 学童クラブを欠席する理由〔複数回答〕

「親、祖父母が家にいるとき」と「塾や習いごとに通うとき」が5割強

学童クラブで過ごしている子供(476人)について、学童クラブを欠席する理由を聞いたところ、「親、祖父母が家にいるとき」の割合が54.0%で最も高く、次いで「塾や習いごとに通うとき」の割合が51.3%となっている。(図I-3-10)

図I-3-10 学童クラブを欠席する理由〔複数回答〕



(9) 学童クラブを欠席する理由〔複数回答〕－子供の学年別

2年生以下では、「親、祖父母が家にいるとき」、3年生以上では、「塾や習い事に通うとき」の割合が最も高い

学童クラブを欠席する理由を子供の学年別にみると、1、2年生では「親、祖父母が家にいるとき」の割合が最も高く（62.3%、51.3%）、3年生以上では「塾や習いごとに通うとき」が最も高くなっている（63.3%、71.0%、66.7%、42.9%）。（表 I-3-5）

表 I-3-5 学童クラブを欠席する理由〔複数回答〕－子供の学年別

	総数	塾や習い事に通うとき	学童クラブ以外の友達と遊ぶとき	親、祖父母が家にいるとき	兄弟姉妹が家にいるとき	子供が行きたがらないとき	その他	無回答
総数	100.0 (476)	51.3	15.1	54.0	3.8	11.6	13.0	2.9
1年生	100.0 (162)	39.5	6.8	<u>62.3</u>	4.3	6.2	17.3	4.3
2年生	100.0 (156)	49.4	17.3	<u>51.3</u>	3.8	12.8	12.2	2.6
3年生	100.0 (109)	<u>63.3</u>	16.5	54.1	3.7	12.8	8.3	1.8
4年生	100.0 (31)	<u>71.0</u>	25.8	35.5	3.2	16.1	12.9	-
5年生	100.0 (6)	<u>66.7</u>	66.7	16.7	-	50.0	-	16.7
6年生	100.0 (7)	<u>42.9</u>	28.6	42.9	-	28.6	14.3	-

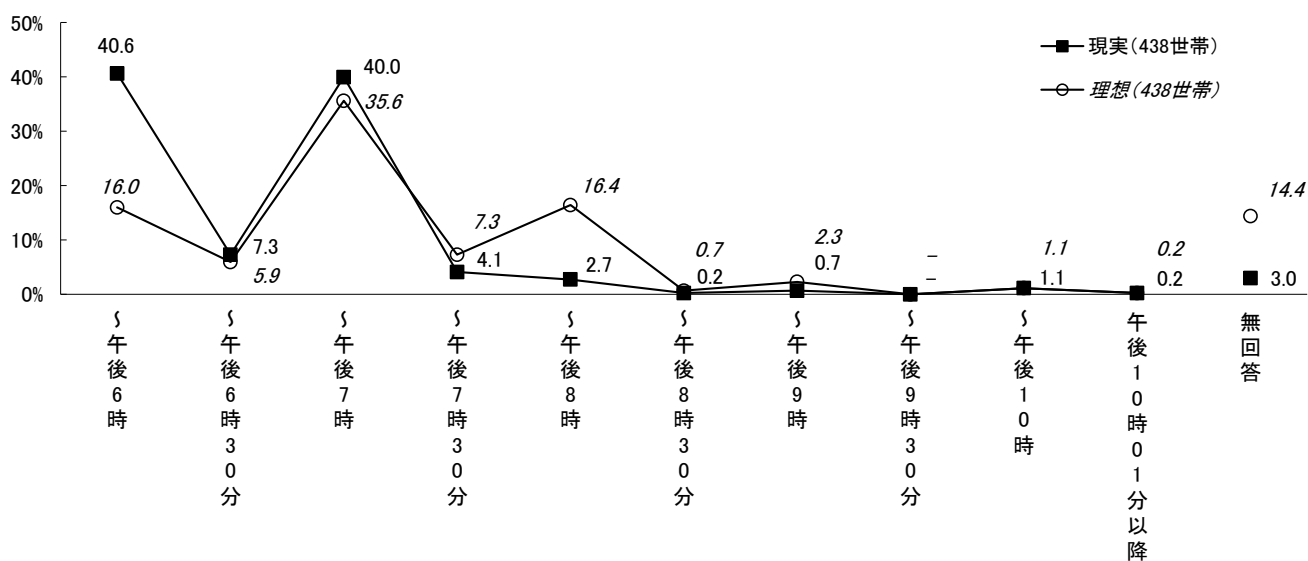
(10) 学童クラブの終了時間－現実と理想

現実の終了時間は、「～午後 6 時」の割合が最も高く、次いで「～午後 7 時」の割合が高いが、理想は「～午後 7 時」の割合が最も高く、次いで「～午後 8 時」の割合が高い

現在、学童クラブを利用している子がいる世帯（438 世帯）に、現在利用している学童クラブは何時まで開いているかを聞いたところ、「～午後 6 時」の割合が 40.6%で最も高く、次いで「～午後 7 時」が 40.0%となっている。

学童クラブに何時まで開いてほしいか聞いたところ、「～午後 7 時」の割合が 35.6%で最も高く、次いで「～午後 8 時」の割合が 16.4%となっている。（図 I-3-11）

図 I-3-11 学童クラブの終了時間－現実と理想



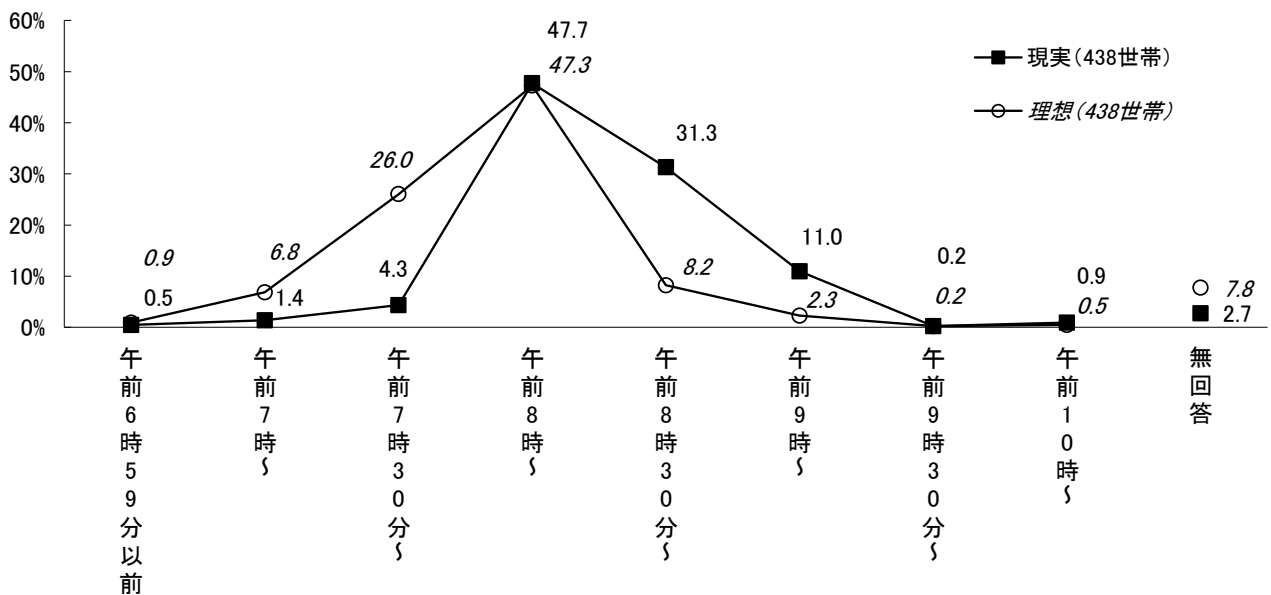
(11) 長期休暇時の学童クラブの開始時間－現実と理想

現実、理想ともに「午前 8 時～」の割合が最も高い

現在、学童クラブを利用している子がいる世帯（438 世帯）に、夏休みなどの長期休暇時に、現在利用している学童クラブが何時から開いているかを聞いたところ、「午前 8 時～」の割合が 47.7%で最も高く、次いで「午前 8 時 30 分～」の割合が 31.3%となっている。

学童クラブが何時から開いてほしいか聞いたところ、「午前 8 時～」の割合が 47.3%で最も高く、次いで「午前 7 時 30 分～」の割合が 26.0%となっている。（図 I-3-12）

図 I-3-12 長期休暇時の学童クラブの開始時間－現実と理想

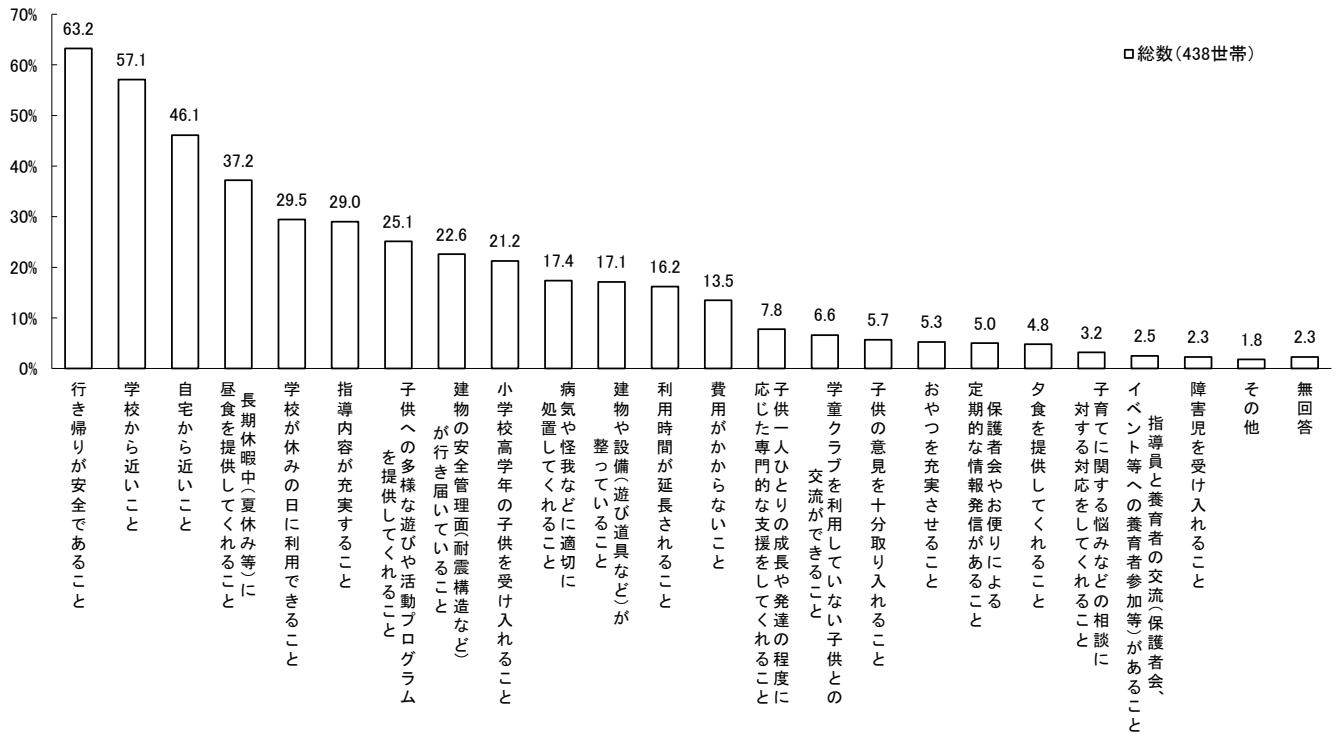


(12) 学童クラブを利用するにあたって望むこと〔複数回答〕

「行き帰りが安全であること」が6割強

現在、学童クラブを利用している子がいる世帯（438世帯）に、学童クラブに望むことを聞いたところ、「行き帰りが安全であること」の割合が63.2%で最も高く、次いで「学校から近いこと」が57.1%、「自宅から近いこと」が46.1%となっている。（図 I-3-13）

図 I-3-13 学童クラブを利用するにあたって望むこと〔複数回答〕



(13) 学童クラブを利用するにあたって望むこと〔複数回答〕－両親の有無別

両親世帯、ひとり親世帯ともに「行き帰りが安全であること」の割合が最も高い

学童クラブに望むことを両親の有無別にみると、両親世帯、ひとり親世帯ともに、「行き帰りが安全であること」の割合が最も高くなっている（63.9%、58.5%）。

次いで、両親世帯では、「学校から近いこと」の割合が59.2%、「自宅から近いこと」が47.3%であるのに対し、ひとり親世帯では、「学校から近いこと」、「学校が休みの日に利用できること」の割合が、ともに41.5%となっている。（表 I-3-6）

表 I-3-6 学童クラブを利用するにあたって望むこと〔複数回答〕－両親の有無別

	総数	自宅から近いこと	行き帰りが安全であること	学校から近いこと	利用時間が延長されること	建物や設備（遊び道具など）が整っていること	建物の安全管理面（耐震構造など）が行き届いていること	指導内容が充実すること	指導員と養育者の交流（保護者会、イベント等への養育者参加等）があること	小学校高学年の子供を受け入れること	障害児を受け入れること	学校が休みの日に利用できること	夕食を提供してくれること	長期休暇中（夏休み等）に昼食を提供してくれること	おやつを充実させること	学童クラブを利用していない子供との交流ができること	子供の意見を十分取り入れること	費用がかからないこと	情報発信があること	保護者会やお便りによる定期的な対応	子育てに関する悩みなどの相談に対する対応	病気や怪我などに適切に処置してくれること	子供への多様な遊びや活プログラムを提供してくれること	子供一人ひとりの成長や発達に度に応じた専門的な支援をしてもらえること	その他	無回答
総数	100.0 (438)	46.1	63.2	57.1	16.2	17.1	22.6	29.0	2.5	21.2	2.3	29.5	4.8	37.2	5.3	6.6	5.7	13.5	5.0	3.2	17.4	25.1	7.8	1.8	2.3	
両親世帯	100.0 (385)	47.3	63.9	59.2	15.1	18.4	23.9	30.4	2.3	19.5	2.1	27.8	3.6	38.2	4.4	6.8	5.7	13.0	4.9	3.6	17.7	26.2	7.5	1.3	2.3	
ひとり親世帯	100.0 (53)	37.7	58.5	41.5	24.5	7.5	13.2	18.9	3.8	34.0	3.8	41.5	13.2	30.2	11.3	5.7	5.7	17.0	5.7	-	15.1	17.0	9.4	5.7	1.9	

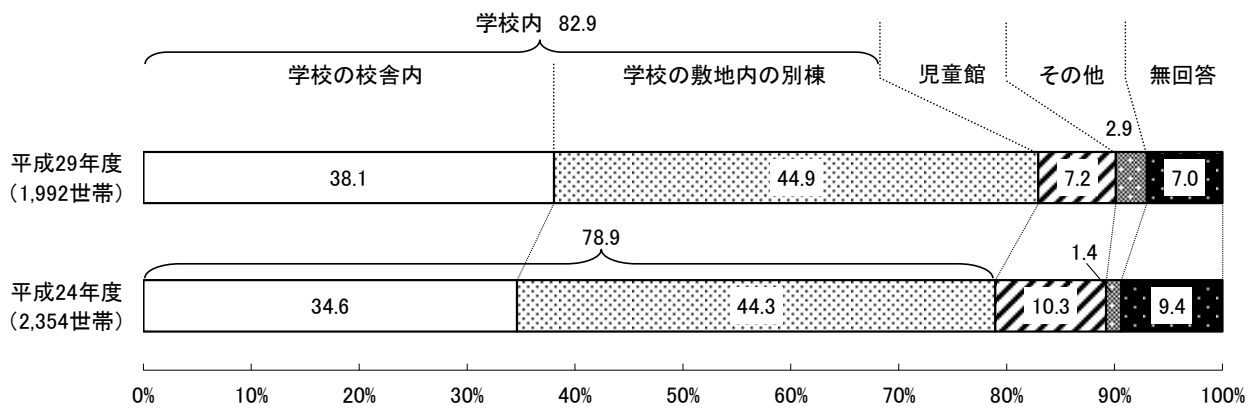
### 3 学童クラブの設置場所

#### (1) 学童クラブの希望設置場所－24年度調査と比較

「学校内」の割合が8割強

小学生の子供がいる世帯（1,992世帯）に、学童クラブの希望設置場所を聞いたところ、「学校の敷地内の別棟」の割合が44.9%で最も高く、次いで「学校の校舎内」の割合が38.1%となっている。「学校の敷地内の別棟」、「学校の校舎内」を合わせた「学校内」の割合は82.9%となっている。（図I-3-14）

図I-3-14 学童クラブの希望設置場所－24年度調査と比較



(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

(2) 学童クラブの希望設置場所—地域別

区部では「学校の校舎内」、市・町・村部では「学校の敷地内の別棟」の割合がそれぞれ最も高い

学童クラブの希望設置場所を地域別にみると、「学校の敷地内の別棟」の割合は、市・町・村部が 58.2%、区部は 38.7%で、市・町・村部の方が 19.5 ポイント高くなっている。

一方、「学校の校舎内」の割合は、区部が 43.1%、市・町・村部は 27.0%で、区部の方が 16.1 ポイント高くなっている。(表 I-3-7)

表 I-3-7 学童クラブの希望設置場所—地域別

	総数	学校の校舎内	学校の敷地内の別棟	児童館	その他	無回答
総数	100.0 (1,992)	38.1	44.9	7.2	2.9	7.0
区部	100.0 (1,363)	<u>43.1</u>	<u>38.7</u>	8.4	3.0	6.7
区中央部	100.0 (90)	36.7	42.2	7.8	6.7	6.7
区南部	100.0 (173)	50.9	33.5	8.7	2.3	4.6
区西南部	100.0 (172)	43.6	34.3	9.3	3.5	9.3
区西部	100.0 (232)	34.5	44.4	15.5	3.0	2.6
区西北部	100.0 (271)	39.9	43.2	5.2	2.6	9.2
区東北部	100.0 (197)	38.1	45.2	8.6	3.0	5.1
区東部	100.0 (228)	56.6	28.1	4.4	2.2	8.8
市・町・村部	100.0 (629)	<u>27.0</u>	<u>58.2</u>	4.5	2.5	7.8
西多摩	100.0 (77)	40.3	40.3	1.3	5.2	13.0
南多摩	100.0 (193)	27.5	54.9	7.3	4.1	6.2
北多摩西部	100.0 (87)	21.8	55.2	10.3	2.3	10.3
北多摩南部	100.0 (141)	22.0	64.5	2.8	0.7	9.9
北多摩北部	100.0 (131)	27.5	68.7	-	0.8	3.1